資料２

区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和４年度）

～地域の取組み（住民同士の支え合い）～

千葉市保健福祉局健康福祉部地域福祉課

～この資料の見方について～

「支え合いのまち千葉 推進計画」（第5期：令和4（2022）～令和8（2026）年度。以下「現計画」といいます。）は、地域福祉を推進する活動主体により、取組みの体系を「地域の取組み（住民同士の支え合い）」と、「市の取組み（地域福祉の基盤整備のために市が行う取組み）」に区分しています。地域住民の参加と連携により、地域福祉に関する活動を推進・実践する「地域の取組み」は、同計画書の第4章（P43～）に掲載しており、「区支え合いのまち推進計画（区計画）」として位置づけられています。

現計画は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により地域活動が制限されていたことから「具体的な取組み」及び「重点取組項目」が策定されていない区もありますが、各区において実施した取組みについて集計、記載しています。また、各地域の参考となるよう、各区で実践された事例も紹介しています。

計画の構成（第５期千葉市地域福祉計画）　p.39,44

	【第４章】地域の取組み	【第５章】市の取組み
位置づけ	・地域の特性に応じた、住民に身近な計画 ・地域の課題に対応するため、地区部会エリアごとに重点取組項目を定め、様々な主体（地区部会、町内自治会、民生委員・児童委員、赤十字奉仕団、老人クラブ、ボランティア団体、ＮＰＯ、学校・ＰＴＡ、社会福祉事業者など）が協働して策定・推進する計画	基本目標や市としての方向性、取組みを示すことにより、多様な主体とともに、地域の取組みをしっかりと支え、地域住民の地域福祉活動を支援する計画
内容	・住民主体の活動により解決を目指す課題に対する取組み ・地域の課題の解決に向けた、地域の人材と資源を活かした身近な支え合いや健康づくりなどの取組み ・支援が必要な人の日常生活に連動した支援策、取組み	・住民活動の基盤整備に関する取組み ・地域の取組みを進めるために必要な市による支援策 ・分野別計画を横断的につなぐとともに、制度の狭間を埋める取組み ・区域では解決できない福祉課題に対する市域での取組み ・市全域で中長期的な視点をもって進めていくことが必要な取組み（コミュニティソーシャルワーク機能の強化など）

取組みテーマ

① 見守りの仕組みづくり
② 支え合いの仕組みづくり
③ 地域のつながりづくり
④ 健康づくり
⑤ 担い手の拡大とボランティア活動の促進
⑥ 福祉教育・啓発
⑦ 相談体制づくり
⑧ 情報提供の充実
⑨ 防災対策を通じた地域づくり
⑩ 防犯対策を通じた地域づくり

視点

① 高齢者、障害者、子どもなどの対象者別の活動から全世代型、共生型への展開
② 企業、学校、社会福祉事業者、ＮＰＯなど多様な主体との連携
③ 身近な地域の居場所（通いの場）における地域住民等による相談体制づくり
④ 地域福祉活動への若者・子どもの参加
⑤ 全世代を対象とした担い手づくり

進捗状況の総括表（各区の最初のページ）

稲毛区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和４年度）総括表

◆基本方針別取組状況

基本方針	取組項目数	取組項目の達成状況		主な取組内容
1　みんなの様々な居場所と健康づくり	10	◎	0	高齢者の健康増進を目的とした「いきいきサロン（62か所　622回）」や子育て中の親同士の交流を目的とした「子育てサロン（13か所　79回）」を実施するなど、地域の方が気軽に集うことができる居場所の創出に取り組みました。
		○	10	
		△	0	
		×	0	
2　互いを知り、活かし、支え合い、助け合う、地域づくり	30	◎	0	一部の町内自治会において住民主体の見守り活動が継続的に実施された他、1自治会と1地区部会エリアで生活上のちょっとしたお手伝い（ごみ出しなど）の支援を行いました。 また、一部のエリアでは敬老会などのイベントについて、時間短縮や参加者を入れ替えて行うなど、コロナウイルスの感染対策を取りながら開催しました。
		○	30	
		△	0	
		×	0	

取組テーマ及び視点を参考に策定

各地区部会エリアの取組項目数の合計（複数テーマにまたがる取組項目の場合は、複数回カウントしています。）

進捗状況の詳細（２ページ目以降）

地区部会エリアの概要

令和４年度の取組みに当たっての方向性（年度当初に各区が設定）

取組項目に係る長期的な今後の

区が定める基本方針及び取組項目

令和４年度の取組実績・達成状況
令和５年度に向けた目標又は予定

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和４年度の目標又は予定	令和４年度の実績	達成状況	令和５年度の目標又は予定	今後の課題と方針
小中台東地区部会 【人口・世帯数】 19,750人・9291世帯 【町内自治会数】 34町内自治会	1　みんなの様々な居場所と健康づくり	健康づくりや介護予防の普及・啓発	地域住民を対象とした福祉講座の中で認知症に関する講座を開催する他、いきいきサロンにおいて健康づくりや介護予防についての啓発を行います。 また、開催地区部会や町内自治会、民児協、スポーツ振興会がイベント等を実施し、気軽に参加できる健康づくりや運動の機会を増やします。	地区部会があんしんケアセンターや区健康課等と連携・協力し、高齢者に対していきいきサロン（８か所）などを実施し健康づくりや介護予防の普及啓発に取り組みました。	○	地域住民を対象とした福祉講座の中で認知症に関する講座を開催する他、いきいきサロンにおいて健康づくりや介護予防についての啓発を行います。 また、開催地区部会や町内自治会、民児協、スポーツ振興会がイベント等を実施し、気軽に参加できる健康づくりや運動の機会を増やします。	コロナウイルスの影響により、活動が一部実施できなかったことから、地区部会が区健康課やあんしんケアセンターなどと活動方法の検討や活動内容など、協議を行い、いきいきサロンにおいて健康づくりや介護予防の普及・啓発に取り組んで行きたい。

目　　次

1.　中　央　区…　1 ページ

2.　花　見　川　区…　44 ページ

3.　稲　毛　区…　52 ページ

4.　若　葉　区…　64 ページ

5.　緑　区…　72 ページ

6.　美　浜　区…　82 ページ

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和4年度）総括表

【達成状況の目安】
◎：年度目標以上のものが達成できた場合　×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
○：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合　—：評価が困難である場合

◆基本方針別取組状況

基本方針	取組項目数	取組項目の達成状況		主な取組内容
1 身近なコミュニティづくりの推進	85	◎		地域の困りごとをお手伝いする、支え合い活動を実施している（7地区）。13地区で、見守り活動を実施しており、その他の4地区では、安心カードの配布や民生委員が中心となり、見守り活動に取り組んでいる。全地区でセーフティウォッチャーや「こども110番のいえ」を通じてコミュニティづくりを推進している。
		○		
		△		
		×		
		−	85	
2 交流の場と仲間づくり	101	◎		いきいきサロン（14地区）・散歩クラブ（8地区）・シニアリーダー体操等、高齢者の健康維持を図った。子育てサロン（11地区）では、子育て中の親子の仲間づくりや交流の機会の提供をした。障がい者施設の行事等に参加し、障がい者に対する理解を深めた。地域行事等を通じて、世代間の交流の機会を設けた。
		○		
		△		
		×		
		−	101	
3 社会参加の推進	33	◎		地区部会や自治会の役員（高齢者）が、地域の各種行事にスタッフとして参加し活動の場を提供している。障がい者が避難所運営委員になるケースもあり、活動の範囲が広がりつつある。 また、地域行事での障がい者施設の物品販売への協力など、障がい者の社会参加の機会を設けている。
		○		
		△		
		×		
		−	33	
4 地域の福祉力向上、担い手づくり	17	◎		地域で福祉に関する講座や研修会を開催し、地域の福祉力の向上を図るとともに、福祉活動への理解を促し、新たな担い手づくりに努めた。
		○		
		△		
		×		
		−	17	
5 地域の福祉力向上、担い手づくり	34	◎		住民からの相談については、町内自治会役員や民生委員等が個別に対応している。 全ての地区部会で広報紙を発行し、地域に密着した福祉情報を住民に提供した。
		○		
		△		
		×		
		−	34	
6 福祉教育の推進	17	◎		児童生徒が敬老会などの各種行事にボランティアとして参加し福祉の心を育む機会を提供した。 「放課後子ども教室」等を通じて、子どもたちが心豊かで健やかに育まれる環境づくりに努めた。
		○		
		△		
		×		
		−	17	
7 人にやさしい生活環境づくり	34	◎		全ての地域で、防犯パトロールやセーフティウォッチャーを実施し、防犯対策に取り組んだ。 全ての地域で避難所運営委員会を中心に災害時に迅速な避難が出来るよう避難訓練及び防災訓練等に取組み、防災に対する意識の高揚を図った。
		○		
		△		
		×		
		−	34	
今年度の振り返り	321	◎	0	今年度も、多世代交流のイベントや高齢者・子どもの行事など、開催を前提に準備を進めていたが、新型コロナウイルス感染者の増加により開催を取りやめるなど、開催可否の判断が難しい1年であった。なお、感染状況を踏まえ、高齢者のいきいきサロン・子育てサロン・散歩クラブなどについては、基本的な感染対策を行いながら、コロナ禍以前の状態へ徐々に回復をしてきている。
		○	0	
		△	0	
		×	0	
		−	321	

今後の課題と方針	新型コロナウイルス感染症の影響により、地域の中で直接会う機会が減少したことにより、今まで以上に困りごとのニーズを把握することが難しい状況となってきている。 また、主催者と参加者側では、新型コロナウイルス感染症に関して考え方や意識に差が有るため、慎重な対応が求められている。 さらに、中央区の地域課題について「第4期中央区支え合いのまち推進計画」において課題解決のために活動を行ってきたが、新型コロナウイルス感染症の影響により活動の自粛もあり課題解決には至らなかった。 令和5年度までは第4期計画の取組みを参考に、工夫しながら、できることに取り組んでいる（※）ため、令和6年度以降は中間見直し後の「第5期中央区支え合いのまち推進計画」に基づき、地域課題解決のために活動を展開していきたい。

※ 上記の理由から、中央区は、令和4年度から令和5年度までは実績のみを確認することとし、評価を実施しないこととしました。
令和6年度からは、できる限り目標を設定し、評価も実施する予定です。

◆区支え合いのまち推進協議会開催状況

回数	開催日	主な議題
第1回	11月8日（火）	・委員長及び副委員長の選任 ・幹事会委員の選出について ・中央区支え合いのまち推進計画に準じた取り組み状況（令和3年度）について ・令和4年度、今後の主なスケジュール

◆区支え合いのまち推進協議会だより発行状況

号数	発行日	発行部数及び主な配布先
		新型コロナウイルス感染症の影響により、人との接触が制限され、各地区でのイベントを自粛せざるを得なかったことから、広報紙の発行を見合わせた。

◆区の地域福祉に関する紹介事例等

～多世代の近隣住民が集う場 「地域食堂　松波のちゃぶ台」～

松波会館で、多世代交流の輪が広がる「地域食堂　松波のちゃぶ台」が始まった。「サザエさん」一家のように食卓を囲む昭和の家庭の風景をイメージしてネーミングされた。

千葉経済学園ボランティアセンターを通じてボランティアを募集し、千葉経済大学や千葉経済大学附属高校の学生も一緒に活動している。

たくさんの野菜を使った料理は、子どもにも高齢者にも、大好評である。小さな子どものいる世帯や学生、一人暮らしの方、98歳の方など利用者の感謝の思いがあふれ、笑顔で触れ合えることがスタッフにとって楽しみである。

回を重ねるごとに利用人数も増えた。子ども食堂という枠にとらわれず地域食堂にして、無料提供にしていることもあり、農家や利用者からの食材の寄付が寄せられ、そのまごころがスタッフのモチベーションにつながっている。

だれでもふらりと立ち寄り、一緒に気軽にごはんを食べられるような場を作りあげ、そのことで利用者も提供者もスタッフも共に育ち合う。その思いが広がり「地域食堂　松波のちゃぶ台」は進化しつづけている。

この「地域食堂　松波のちゃぶ台」は、千葉市社会福祉協議会松波地区部会・千葉市第114地区民生委員児童委員協議会・千葉市松波町会が連携して行っている取組みであり、また、中間見直し中の第5期中央区支え合いのまち推進計画の重要な視点を取り入れた活動である。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和4年度）個票

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和4年度の実績
都地区部会エリア 【人口・世帯数】 ９，235人、4，852世帯 【町内自治会数】 10町内自治会 【高齢化率】 25.4% 【地域の特徴】 〇都町、都町1～3丁目を対象としたエリア。千葉市の政令都市移行に伴い、前組織の都加曽利地区部会が、中央区の都町と若葉区の加曽利町に行政区が分かれたことに伴い、分離分割し設立に至った。 活動事業名：実績に〇印 いきいきサロン：〇 子育てサロン：〇 散歩クラブ：〇 広報紙：〇 ボランティア講座：〇 ふれあい食事サービス：〇 敬老会：〇 見守り活動：〇 支え合い活動：－	1　身近なコミュニティづくりの推進	1　地域支えあい連絡会の設置・推進	・年数回開催される都地区連協主催の会議を通して、地区連協・スポーツ振興会・社協の3つの団体の行事日程の調整や協力要請等、都地区として連携して活動を続けている。 ・地区部会の中心である民生委員が、各自治会とのパイプ役を果たしてくれたことで、コロナ禍で会う機会が少ない中でも活動が順調に進んだ。
		2　支え合い活動の仕組みづくり	・これまでは活動拠点が定まらないことが長年の課題であったが、今後については、活動の拠点として近隣の自治会館を提供していただくことが可能になり、今後の活動の幅が広くなり、日程調整もスムーズに進んだ。 ・買物支援対策として、″移動スーパー″を毎週実施。徐々に利用者の増加がみられ、将来的には、都地区全体に拡充できたらと考えている。
		3　見守り体制をつくる	これまで、見守りの対象者は独居高齢者に特化していたが、コロナ禍でこれまでの生活が一変したことにより、新たに見守りが必要な住民の存在を知り、協力員の増員と同時に体制の再構築をすることで強化を図った。
		4　災害時に支援を必要とする人の避難支援	・各自治会の中で、自主防災組織を組織している地域では、年に一度防災訓練を実施している。 ・自治会によって相違はあるが、9月、12月に″防火パトロール″を各一週間程度実施している。 ・都地区では「都小学校避難所運営委員会」が設立されており、各自治会の防災会関係者が結集し、年に一度、避難訓練を実施している。内容としては、DVDによる防災意識の啓発活動や防災資機材の定期点検等を行っている。
		5　すべての子どもを地域で育てる	・子育てサロン「いちごミルク」は中止となった。「芋ほり大会」については2年ぶりに実施し、定員を超える参加となった。 ・都小学校主催の「いちょうまつり」も中止の連絡があった。 ・地区でのイベントはすべて中止となった。 ・都小学校の行事は、規模を縮小したとのこと。 ・民生委員主催で開催していた「みやこお楽しみ会」は、徹底した感染対策のもと、3月に実施した。 ・「セーフティウォッチャー」の活動や「こども110番のいえ」の協力等子どもたちの安全を守る環境は整っていると思われる。
	2　交流の場と仲間づくり	6　ふれあい・いきいきサロンの充実	いきいきサロンについては、再開への要望が強いことを受け、スタッフとの会議を通じて再三対策を検討したが、時期尚早ということで開催を見送った。 70歳以上の独居高齢者を対象とした年末慰問は、お手紙を同封した配布（ゴミ袋）であり、面談を避けることで例年どおり実施した。
		7　地域での健康づくり支援の充実	・各老人会での活動の違いはあるが、屋外での活動ということで、グラウンドゴルフは続けているが、「カラオケ」や「お茶会」は中止となった。 ・ラジオ体操は変わらず実施している。
		8　地域でのスポーツ活動及び文化活動の推進	・№5と同様
		9　子育てサロンの充実	保護者への電話を通して近況報告を伺いながら、再開への準備を進めていたが、新型コロナウイルスの感染状況に鑑み、再開を断念せざるを得なかった。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和4年度）個票

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和4年度の実績
都地区部会エリア	2　交流の場と仲間づくり	10　障がい者との相互理解と地域住民等との交流の推進	・スポーツ振興会主催の行事（運動会、民謡大会）は全て中止となった。
		11　世代間交流の場の提供	・都地区の10町内自治会のうち、都町自治会で盆踊り大会を開催した。
	3　社会参加の推進	12　高齢者の地域社会での福祉活動の促進	・町内自治会によって違いはあるが、徐々に活動再開に向けて準備を始めているところも出てきた。
		13　障がい者の地域社会での福祉活動の促進	施設訪問を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の収束の目途が立たない状況から、延期を決定した。
	4　地域の福祉力向上、担い手づくり	14　地域で福祉に関する講座や研修会等の受講機会の提供	・「ふれあい食事サービス」については、会食方式は断念したが、「テイクアウト方式」に変更し、これまでの年6回実施のうち、年5回実施した。 ・健康セミナーとしては、都町リハイム自治会として実施した。
	5　相談体制、情報提供の場づくり	15　相談体制・情報提供の充実	・民生委員個々の対応は多数あったが、都町地区全体としては特になかった。
		16　福祉情報紙の充実と「中央区ふくし・防災ガイド＆マップ」の活用	・「都地区部会だより」を年1回発行し、地域の情報と共にコロナ感染対策についても掲載した。
	6　福祉教育の推進	17　地域での福祉教育の推進	・敬老懇親会については10町会中1か所（都町リハイム自治会）で実施した。 ・盆踊り大会については、4か所のうち1か所（都町自治会）のみ実施した。 ・都小4・5年生を対象に、「わくわくキャンパス」で地域住民が協力しており、米づくり等の体験指導については、規模を縮小して実施した。 ・都地区では、年に6回の「ふれあい食事サービス」と併せて、「ボランティア研修会」、「健康セミナー」、「出前講座」等を実施していたが、会食形式のため実施できなかった。ただし、「健康セミナー」については、自治会単位で実施した。
	7　人にやさしい生活環境づくり	18　防犯対策の推進	・都地区の10町内自治会が、6つの「防犯パトロール隊」を編成し、徒歩によるパトロールを実施している。 ・「こども110番のいえ」のポスターを掲示することで、こどもたちの安心・安全を見守っている。 ・「移動交番」がみやこ図書館に月2～3回開設されている。
		19　防災体制の充実	・№4と同様

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和4年度）個票

地区部会エリア	基本方針	取組項目※	令和4年度の実績
末広地区部会エリア 【人口・世帯数】 12，964人、7，278世帯 【町内自治会数】 4町内自治会 【高齢化率】 20．9% 【地域の特徴】 〇長洲の一部、末広、千葉寺町の一部、青葉町の一部を対象としたエリア。 地区内に末広街道・大網街道の幹線道路や地区を斜めに横切る京成電鉄の千葉寺駅がある。 また、隣接地区の製鉄所跡地に大規模ショッピングセンターができ、交通量の増加など環境が徐々に変わりつつある。また、地域を斜めに横切る京成電鉄の千葉寺駅や青葉の森公園があり、それらに伴う道路網の整備のため、最近は、末広街道・大網街道とも交通量が増加している。	1　身近なコミュニティづくりの推進	1　地域支えあい連絡会の設置・推進	・民生委員主体の活動でも、問題が発生した場合、町内自治会と連携して解決する体制が整っている。 ・あんしんケアセンター千葉寺と一緒に開催している「地域ケア会議」を開催した。 ・あんしんケアセンター千葉寺主催で、各町内自治会が参加し、地域課題等について情報共有の場となっている「地域住民、福祉・介護専門職交流会」は、フレイル予防の健康体操として実施した。 ・末広中学校、寒川小学校、PTA、民生委員・児童委員、青少年育成委員会等による会議は新型コロナのため中止。
		2　支え合い活動の仕組みづくり	・民生委員が主体となって活動している（外出補助・話相手等）。
		3　見守り体制をつくる	・町内自治会ごとに、市から「避難行動要支援者名簿」の提供を受け活動中。 ・見守り活動については、3町内自治会が実施している。1町内自治会では、自治会と民生委員が連携し活動している。
		4　災害時に支援を必要とする人の避難支援	各避難所運営委員会で、避難所開設訓練を9月に実施した。
		5　すべての子どもを地域で育てる	・寒川小学校、末広中学校の生徒の登下校時に、セーフティウォッチャー活動をしている。 ・子育てサロンを1会場、年10回開催した。 ・「こども110番のいえ」に地域住民が協力している。

活動事業名	実績に〇印
いきいきサロン	〇
子育てサロン	〇
散歩クラブ	－
広報紙	〇
ボランティア講座	－
ふれあい食事サービス	－
敬老会	〇
見守り活動	〇
支え合い活動	〇

	2　交流の場と仲間づくり	6　ふれあい・いきいきサロンの充実	・いきいきサロンを3会場で例年月1回程度開催しているが、新型コロナのため中止。 ・老人クラブの活動も活発であるが、同様に中止。
		7　地域での健康づくり支援の充実	・地区部会主催で、グラウンドゴルフ大会を10月に開催し、地区全体の交流を深めた。 ・4町内自治会ごとに老人クラブがあり、グラウンドゴルフを開催するなどの活動を再開した。 ・末広公民館で、週1回、シニアリーダー体操が行われているが、新型コロナのため中止。
		8　地域でのスポーツ活動及び文化活動の推進	・公民館主催で、子どもを対象としたお菓子教室、ビーズ作り等のイベントは、新型コロナのため中止。
		9　子育てサロンの充実	・子育てサロンを1会場、年11回開催した。
		10　障がい者との相互理解と地域住民等との交流の推進	・継続支援として、地区部会の障害者福祉委員会とボランティア委員会が、オリーブ亥鼻福祉作業所で毎週水曜日と毎月第3火曜日、ミシンかけやハンガー作り等の作業支援を行っている。また、心身障害者福祉作業所「青い空」で月2回、軽作業支援を実施しているが、いずれも新型コロナのため中止。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和4年度）個票

地区部会エリア	基本方針	取組項目※	令和4年度の実績
末広地区部会エリア	2　交流の場と仲間づくり	11　世代間交流の場の提供	・老人クラブが千葉寺保育園を年1回訪問し、交流を図っている。 ・地区内に新設された2か所の保育園が、地域のお祭り等へ参加し、交流を図っている。 ※いずれも新型コロナのため中止。
	3　社会参加の推進	12　高齢者の地域社会での福祉活動の促進	・地区部会や町内自治会等の役員は高齢者が中心であり、各団体の行事等ではスタッフとして各種活動をしている。全般に渡り新型コロナのため中止としたが、敬老会は開催することができた。
		13　障がい者の地域社会での福祉活動の促進	・№10と同様
	4　地域の福祉力向上、担い手づくり	14　地域で福祉に関する講座や研修会等の受講機会の提供	・いきいきサロンで、福祉講座（健康講座や介護予防講座等）を実施しているが、新型コロナのため中止。
	5　相談体制、情報提供の場づくり	15　相談体制・情報提供の充実	・民生委員主体で町内自治会役員と連携して対応している。
		16　福祉情報紙の充実と「中央区ふくし・防災ガイド＆マップ」の活用	・広報紙を年1回発行している。
	6　福祉教育の推進	17　地域での福祉教育の推進	・寒川小学校4年生に、消防団の小屋の見学と放水体験を年1回実施している。 ・学校からの依頼を受け、地域の歴史を学ぶため、寒川小学校3年生が千葉寺、稲荷神社を見学する際、協力している。 ・いきいきサロンで、福祉講座（健康講座や介護予防講座等）を実施している。 ※いずれも、新型コロナのため中止。
	7　人にやさしい生活環境づくり	18　防犯対策の推進	・防犯パトロールを月2回実施。 ・千葉寺交番職員が防犯パトロールに同行して実施。 ・「こども110番のいえ」に地域住民が協力している。
		19　防災体制の充実	・№4と同様

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和4年度）個票

地区部会エリア

寒川地区部会エリア

【人口・世帯数】
５，６６４人、３，２９８世帯
【町内自治会数】
６町内自治会
【高齢化率】
２２．２％
【地域の特徴】
〇港町、寒川町、稲荷町を対象としたエリア。JR本千葉駅と蘇我駅の中間に位置している。かつては寒川神社を中心に、川崎製鉄の裏門に沿って栄えた地域で、昔からの住民が多く、かつ一戸建てが多く存在しているためか、住民の転居なども少なく、高齢化が比較的に進行しやすい環境の地域である。

活動事業名	実績に〇印
いきいきサロン	〇
子育てサロン	〇
散歩クラブ	－
広報紙	〇
ボランティア講座	〇
ふれあい食事サービス	－
敬老会	〇
見守り活動	〇
支え合い活動	－

基本方針

取組項目

令和4年度の実績

基本方針	取組項目	令和4年度の実績
１　身近なコミュニティづくりの推進	1　地域支えあい連絡会の設置・推進	・地区部会の役員会で、町内自治会会長、民生委員との情報の共有をしている。
	2　支え合い活動の仕組みづくり	・今年度も、ボランティア活動研修会は、会場が狭く、新型コロナウイルス感染が懸念されるため中止にしました。
	3　見守り体制をつくる	・6町内自治会すべてにおいて、災害時要支援者の内、見守りを希望する方に対し、各町内自治会が行いやすい手法により、目配りや声かけなどの見守り活動を実施した。
	4　災害時に支援を必要とする人の避難支援	・前年度同様に、「災害時要支援者名簿」を更新した。 ・新型コロナウイルスの感染不安のため、人数を減らして各町会より10～15名程度の参加にし、災害時要支援者の避難訓練を実施した。同時に、避難所運営委員会の運営マニュアル確認の訓練及び打合せを行った。3年ぶりに避難支援体制の充実のための再確認を行うことができた。 ※地区部会主導で寒川地区6町内自治会合同で、参加者を減らして実施マニュアル確認の訓練及び打合せを行った。
	5　すべての子どもを地域で育てる	・PTA・町内自治会有志・民生委員がセーフティウォッチャーとして、児童の登下校の見守り活動をしている。
２　交流の場と仲間づくり	6　ふれあい・いきいきサロンの充実	・今年度は、徐々に再開していきましたが、まだ新型コロナ感染不安のために参加者は少人数でした。
	7　地域での健康づくり支援の充実	・各町内自治会でのグラウンドゴルフ大会は、前年度は新型コロナのため中止にしていましたが徐々に再開していきました。また、今年度からポッチャ大会も簡易なルールで行うようになりました。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和4年度）個票

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和4年度の実績
寒川地区部会エリア	2　交流の場と仲間づくり	8　地域でのスポーツ活動及び文化活動の推進	・3年ぶりに寒川小学校1年生の課外授業で、「昔遊び」を地区部会の委員及び地区の有志により開催。4年生の車椅子体験も障がい者委員会が中心となり実施した。 ・社会体育指導員の協力で、地域の野球・サッカー・バレーボール等を行っている。 ・寒川小学校で、企業等の協力を得て出前授業を行っている。 ・ふれあい社協祭りでグラウンドゴルフ・ボッチャ大会を行っている。
		9　子育てサロンの充実	・例年どおり、毎月1回参加者は少ないが実施。
		10　障がい者との相互理解と地域住民等との交流の推進	・数人の障がい者が地域に暮らしており、各町内自治会役員（地区部会役員も含む）や民生委員が地域で見守っている。 ・「ふれ愛社協祭り」に軽度の身体障がいの方が参加。
		11　世代間交流の場の提供	・子育てサロン開催時（12回中4回）に、各町内自治会より高齢者が参加しているが、新型コロナ感染不安のため、参加者は少人数でした。 ・「ふれ愛社協祭り」は、規模を縮小して模擬店やグラウンドゴルフ・ボッチャ大会を開催し、世代間交流を行いました。 ・お祭り（祭事）は中止。
	3　社会参加の推進	12　高齢者の地域社会での福祉活動の促進	・地区部会が実施している「いきいきサロン」「ふれ愛社協まつり」等の各種事業に、高齢者がボランティアとして参加。
		13　障がい者の地域社会での福祉活動の促進	・№10と同様
	4　地域の福祉力向上、担い手づくり	14　地域で福祉に関する講座や研修会等の受講機会の提供	・町内自治会ごとに、「いきいきサロン」単位で、市の出前講座などを開催（全6町内自治会、計6回）。 ・地区部会として、災害時要支援者避難訓練（1回）を実施。 ・地区部会では、寒川小学校4年生を対象に、車椅子体験講座を年1回開催（95人の児童が参加）。
	5　相談体制、情報提供の場づくり	15　相談体制・情報提供の充実	・主に、町内自治会の役員・組長や部会役員が役割を担っている。
		16　福祉情報紙の充実と「中央区ふくし・防災ガイド＆マップ」の活用	・年1回社協だよりを発行した。 ・各町内自治会も定例会の内容を回覧板で地域にお知らせしている。 ・防災マップを作成し、活用している。
	6　福祉教育の推進	17　地域での福祉教育の推進	・地区部会では、寒川小学校4年生を対象に、車椅子体験講座を年1回開催している（100人程度の児童が参加）。 ・敬老会に寒川小学校・末広中学校の吹奏楽部が参加し、合同で演奏する機会を設け、活動を通じて福祉の心を育むとともに、寒川小学校の「わくわくキャンパス」に地域住民が協力している。 ・寒川小学校1年生の課外授業では、地区部会が中心となり、昔遊びを教える活動を通じて交流を図っている。 ・地区部会が健康講座を年1回開催するとともに、町内自治会ごとに市の出前講座などを開催している。
	7　人にやさしい生活環境づくり	18　防犯対策の推進	・全6町内自治会ごとに、警察の協力を得て防犯パトロールを実施し、防犯意識を高めているが、新型コロナのため、回数・人数を減らして実施した（全6町内自治会）。 ・「こども110番のいえ」に地域住民が協力している。
		19　防災体制の充実	・今年度は災害発生時に備え、地区部会が、災害時要支援者の避難訓練を実施するとともに、避難所運営委員会が、6町内自治会合同の防災訓練を参加者を減らして実施。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和4年度）個票

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和4年度の実績
ちば中央地区部会エリア 【人口・世帯数】 16，596人、9，645世帯 【町内自治会数】 28町内自治会 【高齢化率】 23．5% 【地域の特徴】 〇中央、市場町、長洲の一部、本町、東本町、道場南、鶴沢町、旭町、亀井町、亀岡町、亥鼻、葛城、青葉町の一部を対象としたエリア。 千葉市の歴史、文化、経済の中枢的な役割を果たしてきた地域で、繁華街と商店街が多く、また、千葉城・青葉の森などの文化・芸術施設も多い。 活動事業名／実績に〇印 いきいきサロン：－ 子育てサロン：〇 散歩クラブ：－ 広報紙：〇 ボランティア講座：－ ふれあい食事サービス：－ 敬老会：〇 見守り活動：－ 支え合い活動：－	1　身近なコミュニティづくりの推進	1　地域支えあい連絡会の設置・推進	・「歌と踊りの集い」の開催に併せて、各町内自治会、民生委員・児童委員、福祉活動推進員、子ども会等の交流を実施した。
		2　支え合い活動の仕組みづくり	・「オリーブ亥鼻福祉作業所」が毎月第4土曜日に実施している朝市に参加するほか、朝市の開催案内のチラシを地域住民に周知し、協力している。 ・地域住民の個別相談は民生委員を中心に、地区部会役員や町内自治会で対応している。
		3　見守り体制をつくる	民生委員・福祉活動推進員及び町内自治会の協力をいただきながら、個別対応ではあるが見守り活動を継続して実施している。
		4　災害時に支援を必要とする人の避難支援	例年、3か所の避難所運営委員会で、年1回、地域住民の参加を呼びかけ、消火訓練やAED訓練、ハイゼックス体験、マンホールトイレ体験等を内容とした防災訓練を実施し、防災意識の向上を図っているが、新型コロナの影響により中止となった。 また、一つの避難所運営委員会では、災害用トイレの消耗品を町内自治会に配布した。
		5　すべての子どもを地域で育てる	・青少年育成委員会を中心に、小中学校PTA、子ども会、町内自治会、老人会、地域の事業者等に協力をお願いし「こども110番のいえ」に取り組んでいる。 ・登下校時はセーフティウォッチャーとして児童生徒への見守り・声掛けを継続して実施している。
	2　交流の場と仲間づくり	6　ふれあい・いきいきサロンの充実	・地区内の町内自治会では住民交流の場として自治会館を開放しているところもある。 ・地区部会では、第4期計画期間中に、住民が気軽に参加できる集いの場を提供する具体的な取り組みとして、あんしんケアセンター中央、プラチナホーム都の杜なのはなと協議を重ね、近隣住民が参加できる認知症カフェをモデル的に実施したが、新型コロナの影響もあり、定期開催には至っていない。
		7　地域での健康づくり支援の充実	・各町内自治会では、地域のスポーツ推進委員と連携して、月1回程度、健康体操や脳トレを実施している。 ・地区部会では「ボッチャを楽しむ会」を開催し、住民の交流の場を提供する予定であったが、新型コロナのため中止となった。
		8　地域でのスポーツ活動及び文化活動の推進	・子ども会、青少年相談員、育成委員会で小学生対象に「夕涼み会」を実施した。 ・10月に子ども会、スポーツ推進委員、学校が中心となり、地区親子運動会を開催した。 ・12月に青少年相談員が中心となり、クリスマス会を開催した。 ・1月に葛城公民館で、子ども会・青少年相談員・青少年育成委員会による「こども書初め展」同表彰式を開催した。
		9　子育てサロンの充実	・子育てサロンは2会場を使用し、毎月1回各会場で開催しており、参加者から好評をいただいている。
		10　障がい者との相互理解と地域住民等との交流の推進	・「オリーブ亥鼻福祉作業所」が毎月第4土曜日に実施している朝市に参加するほか、朝市の開催案内のチラシを地域住民に周知し、協力している。 ・地区部会が開催している「ボッチャを楽しむ会」に障がい者も参加しているが、新型新型コロナのため中止となった。
		11　世代間交流の場の提供	・地域住民の交流の場を提供している町内自治会では、気軽に立ち寄れるように囲碁・麻雀・カラオケ等を楽しめる場を設けていただいている。 ・8月に有志町内会合同の盆踊りを小学校で開催。地域外からの児童生徒の参加も認めているものの、世代間、地域間交流は新型新型コロナのため中止となった。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和4年度）個票

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和4年度の実績
ちば中央地区部会エリア	3　社会参加の推進	12　高齢者の地域社会での福祉活動の促進	・地区部会や町内自治会の事業・行事の運営は高齢の役員が多く参加している。一般住民の高齢者が活躍できる場を増やしたいが、ハードルは高そうに思える。 ・地区部会のボランティア委員会が中心となり、年3回、使用済み切手の整理を行っており、地域のボランティアの活動の場を提供している。
		13　障がい者の地域社会での福祉活動の促進	・歌と踊りの集い（敬老会）において、千葉中央警察署と協力し、振り込め詐欺の注意喚起を実施した。 　なお、「オリーブ亥鼻福祉作業所」の出店協力を行っているが、新型新型コロナのため中止となった。 ・民生委員の高齢者実態調査にあわせて、独自に、聴力・視力などの低下状況について聞き取りを行い、極端に低下している場合は、行政が実施しているサービスを紹介している。
	4　地域の福祉力向上、担い手づくり	14　地域で福祉に関する講座や研修会等の受講機会の提供	・民生委員が認知症や振り込め詐欺の啓発を町内自治会で行っている。
	5　相談体制、情報提供の場づくり	15　相談体制・情報提供の充実	葛城町内会では、町内会、民生委員、あんしんケアセンター千葉寺が参加し、地域課題を話し合うとともに支え合い活動の勉強会を実施した。 　また、地区部会では、一昨年、住民が気軽に参加できる集いの場を提供する具体的な取り組みとして、あんしんケアセンター中央、プラチナホーム都の杜なのはなと協議を重ね、近隣住民が参加できる認知症カフェをモデル的に2回実施したが、コロナ禍で実施を見合わせている。
		16　福祉情報紙の充実と「中央区ふくし・防災ガイド＆マップ」の活用	・社協だより「きづな」を年3回発行し、地域の各種情報を紹介した。
	6　福祉教育の推進	17　地域での福祉教育の推進	例年、敬老会の際、小学校、中学校の児童・生徒が参加し、歌や踊りを披露するなどのボランティア体験を通じ、福祉の心を育む機会を設けるとともに、高齢者との交流を図っているが、令和4年度は敬老会の規模を縮小して実施したため、小・中学校の児童・生徒の参加は見合わせた。
	7　人にやさしい生活環境づくり	18　防犯対策の推進	・地域内の町内自治会では、時間を定め複数人のチームで防犯パトロールに取り組んでいる。全町内会での実施は困難である。
		19　防災体制の充実	・例年、3か所の避難所運営委員会で、年1回、地域住民の参加を呼びかけ、消火訓練やAED訓練、ハイゼックス体験、マンホールトイレ体験等を内容とした防災訓練を実施し、防災意識の向上を図っているが、新型新型コロナの影響により中止となった。 　また、一つの避難所運営委員会では、災害用トイレの消耗品を町内自治会に配布した。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和4年度）個票

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和4年度の実績
中央東地区部会エリア 【人口・世帯数】 14，087人、8，878世帯 【町内自治会数】 16町内自治会 【高齢化率】 24．4% 【地域の特徴】 〇祐光、椿森、道場北、院内、要町を対象としたエリア。 千葉都市モノレール千葉公園駅の東側に位置し、古くからの一戸建て住宅が多い。また、地域内には千葉医療センター（旧：国立千葉病院）がある。 活動事業名 ／ 実績に〇印 いきいきサロン ／ 〇 子育てサロン ／ 〇 散歩クラブ ／ 〇 広報紙 ／ 〇 ボランティア講座 ／ 〇 ふれあい食事サービス ／ 〇 敬老会 ／ 〇 見守り活動 ／ 〇 支え合い活動 ／ －	1　身近なコミュニティづくりの推進	1　地域支えあい連絡会の設置・推進	中央東地区部会エリアでの課題の対象範囲が広すぎるため、地域の規模に応じた小規模の会議を開催していくこととした。そして、道場北1、2丁目のスーパー撤退に伴い、周辺地域から買物支援が持ち上がり、その対策の会議を7月に開催した。その結果、現在、移動スーパーが定期的に巡回となり、地域の高齢者に大変喜ばれている。
		2　支え合い活動の仕組みづくり	・基本的には、個別のケースの支援については、町内自治会長、民生委員、あんしんケアセンターを通じて行っている。 ・一部の地域では、ゴミ出し支援を行っている。
		3　見守り体制をつくる	見守り活動については、例年どおり活動を行った。コロナ禍のため自粛していた対面での訪問も感染防止策を講じながら実施し、見守り希望者の安否確認を行った。年4回の各自治会での報告会を実施し、その結果をリーダー報告会で報告し、課題や問題点等について協議した。また、見守り活動の現状報告と希望者・協力者募集の回覧を全町内自治会で行い、一部町内自治会では増員が図れた。
		4　災害時に支援を必要とする人の避難支援	・避難所運営委員会（椿森中学校・院内小学校）を設立しているが、全員を収容することは不可能であるため、安全確認が出来たら在宅避難を推奨している。有事に備えた防災訓練は、コロナ禍のため規模を縮小し避難所開設訓練を2回実施（椿森中学校）、運営会議を2～4回開催した（椿森中学校・院内小学校）。
		5　すべての子どもを地域で育てる	・セーフティウォッチャーの方々が学校登下校の見守り活動を実施しているほか、わくわくキャンパスでは地域の方々が指導者として活動している。 ・子ども会活動の運営資金確保のため、廃品回収は継続して行っている。 ・民生委員が、椿森中学校区のパトロールを継続して行っている。 ・地区部会では、年6回の「ちびっこひろば」を実施しているが、コロナ感染防止のため、2回中止したが、感染防止策を講じて7月、11月、1月、3月の4回開催した。
	2　交流の場と仲間づくり	6　ふれあい・いきいきサロンの充実	・地区部会ではコロナ禍で中止していた「いきいきサロン」を感染防止策を講じながら11月、2月に3会場で、それぞれ実施した。また、ふれあい散歩は例年6月の開催を11月にずらして開催した。 ・「ふれあい食事サービス」は2月、3月にテイクアウト方式で開催した。
		7　地域での健康づくり支援の充実	・人の集まる活動の「いきいきサロン」や「ふれあい散歩」、「シニアのための健康体操」についてはコロナ禍のため中止していたが11月から感染防止策を講じながら実施した。いきいきサロンは11月・2月に、それぞれ3会場で実施。ふれあい散歩は11月に実施。シニアのための健康体操は11月に実施。一部の町内会で早朝ラジオ体操、老人会で公園にてグラウンドゴルフを行っている。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和4年度）個票

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和4年度の実績
中央東地区部会エリア	2　交流の場と仲間づくり	8　地域でのスポーツ活動及び文化活動の推進	・地区部会主催「社協まつり」で子ども向けコーナーを設け、併せてボランティアとして、椿森中学校生徒が会場案内等に協力しているが、前年に引き続き感染防止のため中止した。 ・地域住民が院内小「わくわくキャンパス」で指導を行っている。 ・スポーツ振興会主催の「連合体育祭」や民生委員・児童委員主催の「子どもの広場」等、子どもたちの参加する行事が行われているが、前年に引き続き感染防止のため中止した。
		9　子育てサロンの充実	・コロナ禍のため中止していた「ちびっこひろば」は7月に再開し、11月・1月・3月の4回実施した。
		10　障がい者との相互理解と地域住民等との交流の推進	・障がい児支援事業所「きらきら」の説明会に参加すると共に、ボランティアとして参加支援を行った。
		11　世代間交流の場の提供	・各町内会が、餅つき、盆踊り、体育祭など、誰もが参加できる行事を行っているが、コロナ禍のため一部町会が行った餅つきを除き、多くの行事が中止となった。
	3　社会参加の推進	12　高齢者の地域社会での福祉活動の促進	・地区部会の見守り活動などの事業に、高齢者もボランティアとして参加している。 ・一部の老人クラブでは、公園の清掃活動を行っている。
		13　障がい者の地域社会での福祉活動の促進	・障がい者施設「まあるい広場」の障がい者の作品や物品の購入に協力している。
	4　地域の福祉力向上、担い手づくり	14　地域で福祉に関する講座や研修会等の受講機会の提供	・地区部会の「いきいきサロン」で、あんしんケアセンター及び区健康課の健康講座等を実施している。 ・地区部会のシニアリーダー体操や健康体操を実施している。 ・公民館が、あんしんケアセンターなどの健康講座を実施している。 ・公民館及び民生委員・児童委員協議会、あんしんケアセンター等の共催で10月に「こころの健康について」の研修会を対面及びオンラインにて実施した。
	5　相談体制、情報提供の場づくり	15　相談体制・情報提供の充実	・地域内で問い合わせがあれば、個別に民生委員や町内自治会長が対応している。 ・地区部会では「ちびっこひろば」で相談コーナーを設け、乳幼児の健康についての相談（保健師）を実施している。
		16　福祉情報紙の充実と「中央区ふくし・防災ガイド＆マップ」の活用	・地区部会の広報紙は、年4回発行し地区部会の活動状況等を紹介している。 ・一部の町内会では地域の活動情報等を町会だよりとして発行している。
	6　福祉教育の推進	17　地域での福祉教育の推進	・わくわくキャンパスで民生委員や地域住民が協力している。 ・社協まつりでボランティアとして、椿森中学校生徒が会場案内等に従事しており、福祉の心を育む絶好の機会と考えているが、前年に引き続き感染防止のため中止した。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和4年度）個票

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和4年度の実績
中央東地区部会エリア	7　人にやさしい生活環境づくり	18　防犯対策の推進	・各町内自治会で防犯パトロールを実施している。 ・移動交番が、椿森公園に開設されている。 「こども110番のいえ」や「セーフティウォッチャー」に住民が協力している。
		19　防災体制の充実	・避難所運営委員会は、椿森中学校、院内小学校と活動はそれぞれ行っており、今年度は感染防止に留意し、椿森中学校で防災訓練、避難訓練を実施した。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和4年度）個票

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和4年度の実績
東千葉地区部会エリア 【人口・世帯数】 ４，０３０人、２，１０７世帯 【町内自治会数】 ７町内自治会 【高齢化率】 ３８．８％ 【地域の特徴】 〇東千葉を対象としたエリア。 旧軍用地のあとに建設された県営住宅、公務員住宅、マンション、その他の一般住宅などがあり、昔からの住人と新たに流入してきた新しい住人が共存している。	１　身近なコミュニティづくりの推進	１　地域支えあい連絡会の設置・推進	・地域の関係団体が参加する東千葉地区「地域づくり懇談会」において、地域課題について協議し、課題の共有が進んでいる。 ・各町内自治会長が地区部会役員となっており、年3回の理事会を通じて町内自治会と地域情報の共有を図っている。 ・地区部会の「ちょっとボランティア」と地域の助け合いグループ「東千葉ハッピータウンの会」を統合し、令和2年より「ハッピーボランティア東千葉」としてスタート。月１回定例会を実施。 ・地域住民、千葉大学、千葉市が連携し、地域課題について話し合い、解決に向けた取り組みを行っている「東千葉　和・輪・環の会」の活動を通じて、地域の関係団体の連携が深まっている。 ・地区部会と「東千葉　和・輪・環の会」が共催した「七夕のつどい」「サマーイベント」「ハロウィン・パーティ」の際は、小学校がチラシの配布や参加申込の取りまとめに協力してくれるが、新型コロナのため中止。
		２　支え合い活動の仕組みづくり	地区部会が高齢者等のちょっとした困りごとを支援する「ちょっとボランティア」と、地域の助け合いのグループである東千葉ハッピータウンの会（ポイント制による会員同士の相互支援の会）を統合し、新たに「ハッピーボランティア東千葉」として支え合い活動に取り組んでいる。 また、対応できないケースについては、コーディネーターが専門機関等を紹介できるよう他の支援サービスの一覧を作成している。
		３　見守り体制をつくる	ハッピーボランティア東千葉では、高齢者等、支援が必要な方を対象に、日常的な目配りによる見守り活動に取り組むとともに、住民同士が知り合える機会の提供に努めた。 また、民生委員が、「安心カード」を75歳以上の高齢者に配布している。なお、一部の町内自治会では、希望者にも配布している。 さらに、住民同士が気軽に声をかけ合い、認知症の方が安心して暮らせる地域を目指し、「福祉展」を実施した。
		４　災害時に支援を必要とする人の避難支援	例年、地区部会と4町内自治会が協力し、合同の防災訓練を実施しているが、コロナの影響で中止となった。 また、地域の中で防災に関心の高い方々で組織した「防災サポートの会」との協力体制の構築を図っている。

活動事業名	実績に〇印
いきいきサロン	〇
子育てサロン	〇
散歩クラブ	〇
広報紙	〇
ボランティア講座	〇
ふれあい食事サービス	〇
敬老会	〇
見守り活動	〇
支え合い活動	〇

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和4年度）個票

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和4年度の実績
東千葉地区部会エリア	1　身近なコミュニティづくりの推進	5　すべての子どもを地域で育てる	・子育てサロンを月1回実施しているが、新型コロナで中止。 ・例年、「社協ふれ愛まつり」において、都賀中学校・千草台東小学校を通じて、生徒がボランティアとして活動しているが、子どものボランティア募集は行わなかったが、自治会と地区部会が共同で「山部ふれ愛まつり」を開催し多くの子どもたちが参加した。 ・千草台東小学校の授業の一環として全学年対象に「菜の花サロン」を年6回開催しているが、新型コロナのため、1回をオンラインで開催した。 ・平成28年度から、「東千葉　和・輪・環の会」が「あいさつ運動」（毎日）を行っている。 ・「セーフティウォッチャー」や「こども110番のいえ」に地域住民が協力している。 　また、毎週月曜日午後3時から5時まで、「あいさつ防犯パトロール」を挨拶ロード記念イベントより継続している。 ・地区部会と「東千葉　和・輪・環の会」が共催した「ハロウィン・パーティ」の際、子どもたちがお菓子をもらいに行く家として、地域の約30世帯が協力してくれているが、新型コロナで中止。 ・学区が3区にまたがっているため、地域行事のチラシ等は学校を通じて配布しており、区をまたがって参加者を受入れているが、子どもとの多世代交流は中止しているため、配布の実施は行わなかった。 ・有志による防犯パトロールに子どもが参加している。
	2　交流の場と仲間づくり	6　ふれあい・いきいきサロンの充実	・「コミュニティサロン」（名画鑑賞、歌）を隔月で実施している。 ・「菜の花サロン」（千草台東小学校の授業の一環として、全学年を対象にした高齢者との交流会）を年6回実施しているが、新型コロナのため、2月にオンラインで1回実施した。 ・「元気カフェ」（脳トレ、体操、音楽療法）を週1回実施している。 ・住民、千葉大学、千葉市が連携して設立した『東千葉　和・輪・環の会』が、「えんがわサロン」（茶話会）、スマホの会、ふれ愛マルシェを実施している。
		7　地域での健康づくり支援の充実	・ノルディックウォークを週2回実施している。 ・「菜の花サロン」のグラウンドゴルフで小学生との交流を実施していたが、新型コロナのため、中止。 ・「元気カフェ」（脳トレ、体操、音楽療法）を週1回実施している。 ・東千葉健康セミナーを実施している。
		8　地域でのスポーツ活動及び文化活動の推進	・「菜の花サロン」で昔遊び、戦争体験者とのふれあい、グラウンドゴルフなどで小学生との交流を実施しているが、オンラインで1回実施した。 ・学区が3区にまたがっているため、青少年育成委員会との連携が困難。 ・学校、PTAの活動において、地区部会が協力可能な事業ならば協力しているが、新型コロナのため未実施。
		9　子育てサロンの充実	・子育てサロンを毎月（12回）実施しているが、新型コロナのため中止。 ・児童母子福祉委員会と地域保健推進員が中心となって、活動（ソフト面）について創意工夫しながら活動しているが、新型コロナのため中止。 ・地域保健推進員がいなくなり、対象者の把握が困難な状況である。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和4年度）個票

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和4年度の実績
東千葉地区部会エリア	2　交流の場と仲間づくり	10　障がい者との相互理解と地域住民等との交流の推進	・毎年「まあるい広場まつり」に参加し、社会参加支援を実施している。 ・自治会と地区部会が共同で「山部ふれ愛まつり」を開催し、「オリーブハウス」や「ジョブ作草部」、「カフェ・ハーモニー」の販売ブースを設けた。
		11　世代間交流の場の提供	・「菜の花サロン」（千草台東小学校の授業の一環として、全学年を対象にした高齢者との交流会）を年6回実施していたが、新型コロナのため、2月にオンラインで実施した。 ・自治会と地区部会が共同で「山部ふれ愛まつり」を開催し、「オリーブハウス」や「ジョブ作草部」、「カフェ・ハーモニー」の販売ブースを設けた。
	3　社会参加の推進	12　高齢者の地域社会での福祉活動の促進	・地区部会の各種事業や『東千葉　和・輪・環の会』等の住民組織により、活動の場が増えてきている。 ・ブラビットカルチャービデオ鑑賞会、スマホ活用の会などを週1回実施。 ・『東千葉　和・輪・環の会』が週1回実施している「えんがわサロン」（茶話会）では、参加者の特技（写真展、絵手紙、アートフラワー、着物のリメイク、天文学の講話、スマホ教室等）を生かす機会を提供し、高齢者の地域社会での活動の場を拡大した。
		13　障がい者の地域社会での福祉活動の促進	・No.10と同様
	4　地域の福祉力向上、担い手づくり	14　地域で福祉に関する講座や研修会等の受講機会の提供	・『東千葉　和・輪・環の会』が、年2回、認知症や介護保険、在宅医療などのテーマを設け、健康セミナーを実施している。 ・東千葉防災懇話会「くるま座の会」が連協の組織として位置づけられた。また、市や区職員を講師として防災についての研修を年2回実施しているが、新型コロナのため中止。
	5　相談体制、情報提供の場づくり	15　相談体制・情報提供の充実	・地域内で問い合わせがあれば、個別に地区部会役員や民生委員が対応している。 ・『東千葉　和・輪・環の会』が、あんしんケアセンター東千葉の協力を得てあんしんケアセンター職員に個別相談にのっていただき、各種情報の提供をしてもらっている。 ・R2年度にスタートした「ハッピーボランティア東千葉」で「ちょっと困った事の相談」の電話受付をしている。 ・男独り暮らしよもやま話を年3回実施し、仲間づくりの輪が広がる場の提供ができた。 ・市職員を講師として、高齢者の食事についての研修会を実施した。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和4年度）個票

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和4年度の実績
東千葉地区部会エリア	5　相談体制、情報提供の場づくり	16　福祉情報紙の充実と「中央区ふくし・防災ガイド＆マップ」の活用	・「社協だより」を年2回発行している。また、「行事案内」は毎月発行している。 ・『東千葉　和・輪・環の会』が発行している「タウンだより」に、住民の〝お国自慢”や〝わが街のお達者さん”を掲載している。また、新住民の自己紹介コーナーを設け、こうした記事をきっかけに、住民の輪が広がり、人材の発掘にも繋がっている。
	6　福祉教育の推進	17　地域での福祉教育の推進	・「社協ふれ愛まつり」において、都賀中学校・千草台東小学校を通じて生徒がボランティアとして活動しているが、新型コロナのため募集せず。 ・「菜の花サロン」（千草台東小学校の授業の一環として、全学年を対象にした高齢者との交流会）を年6回実施しているが、新型コロナのため、12月にオンラインで1回実施した。 ・東千葉防災懇話会「くるま座の会」で市や区職員を講師として防災についての研修を、年2回実施しているが、新型コロナのため中止。
	7　人にやさしい生活環境づくり	18　防犯対策の推進	・住民有志が防犯パトロールを、週2回（月曜日・水曜日）行っている。 ・「こども110番のいえ」に地域住民が協力している。
		19　防災体制の充実	・町内自治会合同の防災訓練は雨天中止となったが、町内自治会単位の防災訓練は実施している。 ・東千葉防災懇話会「くるま座の会」で市や区職員を講師として防災についての研修を、年2回実施しているが、新型コロナのため中止。 ・災害時避難マップは配布している。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和4年度）個票

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和4年度の実績
西千葉地区部会エリア 【人口・世帯数】 13，363人、7，376世帯 【町内自治会数】 6町内自治会 【高齢化率】 18．1% 【地域の特徴】 〇登戸、春日、汐見丘町、新千葉の一部を対象としたエリア。 地区内に京成の新千葉駅及び西登戸駅、JRの西千葉駅がある。 隣接する地域に千葉大学、千葉東高校、千葉商業高校等、複数の教育施設がある文教地域。 活動事業名 ／ 実績に〇印 いきいきサロン：－ 子育てサロン：〇 散歩クラブ：－ 広報紙：〇 ボランティア講座：〇 ふれあい食事サービス：－ 敬老会：〇 見守り活動：〇 支え合い活動：－	1　身近なコミュニティづくりの推進	1　地域支えあい連絡会の設置・推進	・地区部会の役員に、町内自治会長や民生委員児童委員に就任いただいており、隔月に実施している役員会において、地域の情報交換を行っている。 ・地域でイベントがある場合は、実行委員会として各団体が集まって協力している。 ・特別養護老人ホーム新千葉一倫荘が、町内自治会長や民生委員、福祉活動推進員に参加してもらい、地域の困りごとについて意見交換する連絡会を行っている。
		2　支え合い活動の仕組みづくり	・5つの老人クラブや見守り協力員の方々が、地域で困っている方のゴミ出しや自宅前の掃除などのお手伝いを無償で行っている。また町内の清掃も行っている。 ・地域のイベント等で協力依頼がある場合は、民生委員または各町内自治会で協力者を募っている。
		3　見守り体制をつくる	地区部会・第五地区町内自治会連絡協議会・108地区民児協の三者協働で、平成19年から見守り活動として、「安心カード・緊急メモ」を作成し、6町内のひとり暮らしや障害者、現在は、75歳以上の高齢者に配布し、玄関、電話の場所に設置してもらっている。救急車での搬送時には、連絡先等が明記されているため大変助かったと感謝されている。 6町内自治会全てにおいて、独自の方法で見守り活動を実施。見守り対象者の更新を毎年行っている。向こう三軒両隣での目配りや声かけを実施。また、防犯パトロールにおいては、地域住民が「安心・安全」に生活できるよう不審者情報・詐欺情報・火の用心等を周知し、実施した。
		4　災害時に支援を必要とする人の避難支援	民生委員が中心になって民生委員が把握している情報をもとに、災害時要支援者の同意を得て、名簿と対象者を地図に落とし込んだマップを作成し、町内自治会と情報を共有している。名簿とマップは今年度も更新した。 災害時には、日常的な見守り活動を行っている協力員が、避難支援を行う体制をとっている。 避難所運営委員会が、年1回会議を開催し、備蓄品の確認を行った。
		5　すべての子どもを地域で育てる	・登戸小学校へ登録した町内自治会（住民）と民生委員がセーフティウォッチャーとして登下校時に児童を見守っている。 ・PTAが、給食や学校行事にセーフティウォッチャー登録者を招待し、児童との交流を図っているが新型コロナのため中止。 ・地区部会と育成委員会が協力して、「こども110番のいえ」の既存協力者宅の確認と新規協力者宅の増設に努めている。 ・老人クラブが、登戸幼稚園の園児と毎年、公園の花植えや水やり、花壇の清掃などを行っている。 ・町内自治会主体で、「ごみゼロの日」に小学生と自治会が一緒に各公園の清掃活動を実施している。子ども会も同様の活動を行っている。 ・登戸1丁目自治会が、子どもたちの健全育成や地域住民との交流を図る場として、地域食堂を令和元年度から行っている。 ・登戸小学校、緑町小学校では、PTAが主体となって「わくわくキャンパス」を実施している。また、1年生を対象に、年1回実施している昔遊び等の体験活動に、地域の方が参加し協力している。 ・登渡神社の子ども神輿や育成委員会主催の納涼まつり等の地域行事を開催し、子どもたちと顔見知りになる機会を設けている（新型コロナのため中止）。
	2　交流の場と仲間づくり	6　ふれあい・いきいきサロンの充実	・6町内自治会が、「高齢者対象サロン」を定期的に開催している。 ・5つの老人クラブが、グラウンドゴルフ、折り紙、麻雀、映画会、歌等、高齢者が集う催しを定期的に開催している。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和4年度）個票

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和4年度の実績
西千葉地区部会エリア	2　交流の場と仲間づくり	7　地域での健康づくり支援の充実	地区部会では、コロナ禍の中、介護教室は開催できないため、高齢者福祉委員会と障がい者福祉委員会が合同で、中央介護福祉専門学校の先生に協力を得て、”健康体操”の冊子を作成し、また、川柳（全国有料老人ホーム協会からの抜粋）を、支援の必要な高齢者に、「行動制限の多い日々ですが、健康を維持し、明るい気持ちで毎日を送っていただけますように」と願いをこめて、手紙と心ばかりの品を添えてお届けした。 6町内自治会中、5町内自治会において、老人クラブが組織されており、老人クラブが「グラウンドゴルフ大会」を開催した。 スポーツ振興会では、「ウォーキング」を定期的に実施した。 シニアリーダーが、特別養護老人ホーム新千葉一倫荘を会場に、月2回、シニアリーダー体操を行った。 登戸ラジオ体操会が、毎日、登渡神社でラジオ体操を行った。
		8　地域でのスポーツ活動及び文化活動の推進	・登戸小学校、緑町小学校では、PTAが主体となって「わくわくキャンパス」を実施している。また、1年生を対象に、年1回実施している昔遊び等の体験活動に、地域の方が参加し協力している。 ・登渡神楽囃子連が、わくわくキャンパスで、お囃子を教えている。 ・5つの老人クラブが、登戸幼稚園の園児と毎年、公園の花植えや水やり、花壇の清掃などを行っている。 ・町内自治会主体で、「ごみゼロの日」に小学生と自治会が一緒に各公園の清掃活動を実施している。子ども会も同様の活動を行っている。 ・バレーボールやバドミントンの愛好会が毎週練習しており、スポーツ振興会のバレーボール大会、バドミントン大会に参加している。また、スポーツ振興会ではミニ運動会を開催している（新型コロナで中止）。 ・子ども会では綱引き大会やラジオ体操を行っている。
		9　子育てサロンの充実	・「よいこの広場」 0歳から3歳前後の子どもとその保護者　年10回　登戸1丁目自治会館で開催した。 ・「ぴょんぴょんクラブ」3歳以上の子どもと保護者　年10回　西登戸会館で開催した。
		10　障がい者との相互理解と地域住民等との交流の推進	・イベントを開催するにあたり、健常者と障がい者の区別なく対応するよう心掛けている。
		11　世代間交流の場の提供	地区部会では、今年度は、登戸1丁目公園で、福祉ふれあいミニバザーを開催した。感染対策をし、近隣の親子連れ、若者、高齢者が集まり、世代を超えた交流の場となった。 特別養護老人ホーム新千葉一倫荘では、年数回「地域交流会」を開催、地域の子どもたちも参加した。 町内自治会主体で実施している清掃活動、「ごみゼロの日」「毎月の公園清掃」には、大人も子どもも参加し、交流の機会となった。 町内自治会サークルが一堂に会して、「発表会」「文化祭」を開催、地域で交流の場となった。
	3　社会参加の推進	12　高齢者の地域社会での福祉活動の促進	・地区部会が実施している「見守り活動」「ふれあいミニバザー」等の各種事業に、高齢者がボランティアとして参加している。 ・5つの老人クラブや見守り協力員が、地域で困っている方のゴミ出しや自宅前の掃除などのお手伝いを無償で行っている。また町内の清掃も行っている。 ・公園の植木の手入れや管理を高齢者が行っている。
		13　障がい者の地域社会での福祉活動の促進	・№10と同様

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和4年度）個票

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和4年度の実績
西千葉地区部会エリア	4　地域福祉力向上、担い手づくり	14　地域で福祉に関する講座や研修会等の受講機会の提供	地区部会が、「自立支援講演会」を年1回開催した。 各町内自治会でも、老人クラブと協力して、認知症や口腔ケア等の福祉講座を開催した。
	5　相談体制、情報提供の場づくり	15　相談体制・情報提供の充実	・地域内で問い合わせがあれば、個別に民生委員や町内自治会役員が対応している。見守り協力員から民生委員に相談が繋がる仕組みもできている。 ・三和会館及び西登戸会館では、週のうち数日、町内自治会関係者が常駐し、開館対応と案内対応を行っている。
	5　相談体制、情報提供の場づくり	16　福祉情報紙の充実と「中央区ふくし・防災ガイド＆マップ」の活用	・現在は「ふくし・防災ガイド＆マップ」を活用している。 ・各町内自治会で、地域の福祉マップを作成している。 ・地区部会のネットワーク委員会が社協だよりを年1回作成・発行し、地区部会活動のお知らせや活動報告を住民へ周知している。A4版カラー印刷で5，000部作成し、回覧及び配布をした。
	6　福祉教育の推進	17　地域での福祉教育の推進	・老人クラブが登戸幼稚園の園児と毎年、公園の花植えや水やり、花壇の清掃などを行う活動や、町内自治会主体で「ごみゼロの日」に小学生と自治会が一緒に各公園の清掃を行う活動を通じ、児童に地域の一員として活動する機会を設けている。 ・小学校では、社会奉仕の日に各公園の清掃を行っており、老人クラブが一緒に活動している。 ・登戸小学校、緑町小学校では、PTAが主体となって「わくわくキャンパス」を実施している。また、1年生を対象に、年1回実施している昔遊び等の体験活動に、地域の方が参加し協力している。 ・地区部会が、「自立支援講演会」を開催した。また、「介護予防教室」を年2回、開催を予定していたが、高齢者を対象に中央介護福祉専門学校の協力を得て、健康体操冊子を作成し配布した。 ・各町内自治会でも、老人クラブと協力して、福祉講座を開催している。
	7　人にやさしい生活環境づくり	18　防犯対策の推進	・老人会、子ども会、町内自治会、育成委員会等が、地域パトロールを実施しており、そのなかで地域で見かけない人物を目撃した場合、顔を覚えるなどして防犯を行っている。 ・地区部会と育成委員会が協力して、「こども110番のいえ」の既存協力者宅の確認と新規協力者宅の増設に努めている。 ・地域で「あいさつ運動」を実施している。 ・移動交番が、三和会館に開設されている。
		19　防災体制の充実	地区部会では、年1回、地域住民や地区部会役員を対象に、防災意識の啓発や赤十字救急法等を内容とした防災講座を開催した。 6町内自治会では、すべてに自主防災会があり、各防災会が、年1回、安全確認、避難訓練、初期消火、応急手当訓練、非常食配布、発電機起動実演、AED訓練、ハイゼックス訓練、起震車、煙体験などの訓練や防災講座を実施しており、赤十字奉仕団と協力している。防災訓練には子どもたちも参加している。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和4年度）個票

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和4年度の実績
中央地区部会エリア 【人口・世帯数】 ７，239人、4，440世帯 【町内自治会数】 6町内自治会 【高齢化率】 18．9% 〇弁天、栄町、富士見、本千葉町、新町の一部、新千葉の一部を対象としたエリア。 JR千葉駅周辺の地区で、駅北口側の住宅地や千葉公園、東口側の商業施設や繁華街が共存している地域。 活動事業名／実績に〇印 いきいきサロン：〇 子育てサロン：〇 散歩クラブ：－ 広報紙：〇 ボランティア講座：〇 ふれあい食事サービス：－ 敬老会：〇 見守り活動：〇 支え合い活動：－	1　身近なコミュニティづくりの推進	1　地域支えあい連絡会の設置・推進	・地区部会としては未実施。 ・町内自治会や民生委員、育成委員会、子ども会等、地域の関係団体が地区部会に関わっており、地区部会の会合等で連携を図ることを検討している。
		2　支え合い活動の仕組みづくり	・地区部会としてボランティア登録、拠点づくりは検討していない。 ・地域内の個別ニーズについては、主に地区民生委員が対応している。
		3　見守り体制をつくる	・6町内自治会中、2町内自治会で、75歳以上のひとり暮らし高齢者のうち見守りを希望する方を対象に、目配りによる見守りを実施している。 ・既に実施している町内自治会では、見守り希望者を再募集し、活動の充実を図った。 ・地区部会の役員会等で、未実施の町内自治会に対する働きかけは、継続して実施している。
		4　災害時に支援を必要とする人の避難支援	・町内自治会ごとに防災訓練は実施しているものの、地区によって温度差がある。 ・避難所運営委員会の設立について協議を重ね、平成30年1月21日付で弁天小学校で避難所運営委員会が設立し、避難所運営マニュアルを作成した。 ・弁天町会は、千葉市避難行動要支援者名簿を再申請した。
		5　すべての子どもを地域で育てる	地区部会では、毎朝、消費生活センター前の信号及び弁天4丁目一方通行信号前で見守りを行った。また、毎週金曜日の下校時に小学1～2年生を対象に消費生活センター前の信号でも見守りを行った。 児童の健全育成を図るため、地区部会と生涯学習センターが共催し、「夏休み親子お楽しみ会」を開催し、児童向けの映画鑑賞などを通して、児童の情操を養うとともに地域の連携を深めた（参加者82名）。 例年、弁天小学校の「わくわくキャンパス」（毎週木曜日、15:00～16:00）に地区部会も協力している。令和4年度は新型コロナ感染の様子を見つつ10月から再開し、ソフトボールやキックベースボールなど、児童と一緒に遊び、かつ児童の見守りを18回行った。 地域住民が、セーフティウォッチャーに協力し児童の安全を見守った。
	2　交流の場と仲間づくり	6　ふれあい・いきいきサロンの充実	例年、地区部会（高齢者福祉委員会）が、いきいきサロンを3会場で実施。中央区健康課の筋力体操や、あんしんケアセンター中央の健康講話を取り入れる等、内容の充実に努め、高齢者の健康維持や仲間づくりに取り組んでおり、令和4年度は年8回実施した。
		7　地域での健康づくり支援の充実	・各町内自治会の老人クラブやサークル等で合唱や脳トレを行った。 ・千葉パーク友の会が、千葉公園運動広場で、毎朝、健康体操を行っている。 ・全町民を対象に、落語鑑賞会を開催した。
		8　地域でのスポーツ活動及び文化活動の推進	・弁天小学校の「わくわくキャンパス」（毎週木曜日、15:00～16:00）に地区部会も協力している。令和4年度は新型コロナ感染の様子を見つつ10月から再開し、ソフトボールやキックベースボールなど、児童と一緒に遊び、かつ児童の見守りを18回行った。 ・地区部会と生涯学習センターが共催し、「夏休み親子お楽しみ会」を開催し、児童向けの映画鑑賞などを通して、児童の情操を養うとともに地域の連携を深めた。
		9　子育てサロンの充実	・地区部会が、例年、月1回、子育て中の親子を対象に、親同士の情報交換や栄養士・歯科衛生士からのお話し、読み聞かせ、親子体操等を内容とした子育てサロンを年6回実施した。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和4年度）個票

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和4年度の実績
中央地区部会エリア	2　交流の場と仲間づくり	10　障がい者との相互理解と地域住民等との交流の推進	・地区部会が実施している「社協まつり」でカフェ・ハーモニーの販売ブースを設置しているが、新型コロナの影響により中止。 ・オリーブ亥鼻福祉作業所の地域交流会に参加し、軽作業補助や物品販売を手伝っているが、新型コロナの影響により中止。 ・「でい・さくさべ」の秋祭りの準備を手伝っているが、新型コロナの影響により中止。 ・カフェハーモニーの広報（地域でのチラシの配布）に協力したほか、行事に積極的に参加し、会員の加入を促進した。また、老人クラブが、月2回の定例会の後、カフェ・ハーモニーで食事をし、売上に貢献している。
		11　世代間交流の場の提供	・地区部会が「社協まつり」を実施しており、誰もが集える地域行事で世代間交流を図っているが、新型コロナの影響により、中止。
	3　社会参加の推進	12　高齢者の地域社会での福祉活動の促進	・地区部会が実施している各種事業に高齢者がボランティアとして参加している。 ・防犯パトロールは、高齢者が中心に行っている。
		13　障がい者の地域社会での福祉活動の促進	・地区部会が実施している「社協まつり」でカフェ・ハーモニーの販売ブースを設置しているが、新型コロナの影響により、中止。 ・オリーブ亥鼻福祉作業所の地域交流会に参加し、軽作業補助や物品販売を手伝っているが、新型コロナの影響により、中止。 ・「でい・さくさべ」の秋祭りの準備を手伝っているが、新型コロナの影響により、中止。 ・カフェハーモニーの広報（地域でのチラシの配布）に協力したほか、行事に積極的に参加し、会員の加入を促進した。また、老人クラブが、月2回の定例会の後、カフェ・ハーモニーで食事をし、売上に貢献している。
	4　地域の福祉力向上、担い手づくり	14　地域で福祉に関する講座や研修会等の受講機会の提供	・いきいきサロンにおいて「筋力体操の講座」を開催するなど、さまざまな事業の中で類似の講座を実施した。
	5　相談体制、情報提供の場づくり	15　相談体制・情報提供の充実	・地区部会としては未実施。 ・町内自治会役員、民生委員が個別に対応している。
		16　福祉情報紙の充実と「中央区ふくし・防災ガイド＆マップ」の活用	・年3回社協だよりを発行している。
	6　福祉教育の推進	17　地域での福祉教育の推進	・弁天小学校の「わくわくキャンパス」（毎週木曜日、15:00～16:00）に地区部会も協力している。令和4年度は新型コロナ感染の様子を見つつ10月から再開し、ソフトボールやキックベースボールなど、児童と一緒に遊び、かつ児童の見守りを18回行った。 ・「社協まつり」において、地域の子どもたち自ら、イベントブースの手伝いを行っており、手伝いを通して福祉教育の一環となっており、また、同イベントにおいて実行委員会（地区部会、PTA、各子ども会、各町内自治会）を立ち上げ、地域全体の協力を得ながら開催しているが、新型コロナの影響により中止。
	7　人にやさしい生活環境づくり	18　防犯対策の推進	地区部会では、弁天小学校の1・2年生とその保護者を対象に、NPO「体験型安全教育支援機構」を講師に迎え、「児童向けの安全教室」を実施し、不審者に捕まりそうになった時の逃げ方等を訓練した。 町内自治会では、防犯に対する意識の向上を図るため、防犯パトロールを実施した。
		19　防災体制の充実	弁天町会では、千葉公園の綿打池が過去の大雨で氾濫した経験を踏まえ、防水ゲートの開閉訓練を計画していたが、ゲートの開閉は市の委託業者がやることとなり、住民で行う必要が無くなった。 また、避難所開設訓練及びマンホールトイレの設置訓練をそれぞれ実施した。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和4年度）個票

地区部会エリア：新宿地区部会エリア

【人口・世帯数】
12，906人、7，339世帯

【町内自治会数】
5町内自治会

【高齢化率】
16．8%

【地域の特徴】
〇新宿、神明町、新田町、出洲港を対象としたエリア。千葉市のほぼ中心に位置し、近くにはJR千葉駅や京成千葉中央駅等がある。学区及び周辺は、デパート等の大型店舗が軒を並べる市内有数の商業地域がある。新興集合住宅が多く建設され、ファミリー層が流入してきている。

活動事業名	実績に〇印
いきいきサロン	〇
子育てサロン	〇
散歩クラブ	〇
広報紙	〇
ボランティア講座	〇
ふれあい食事サービス	－
敬老会	〇
見守り活動	〇
支え合い活動	〇

基本方針	取組項目	令和4年度の実績
1　身近なコミュニティづくりの推進	1　地域支えあい連絡会の設置・推進	・地区部会が核となり、民生委員、町内自治会、あんしんケアセンターが参加する役員会（2か月に1回）などでネットワーク作りを行い、各団体の情報を共有している。
	2　支え合い活動の仕組みづくり	・拠点を設けての活動は行っていないが、民生委員が個別に対応している。
	3　見守り体制をつくる	民生委員が主体となり、あんしんケアセンターと連携しながら見守りを行っている。また、マンションについては管理人に見守りをお願いしている。 町内自治会や老人会では、諸行事を通じて顔見知りになる機会を設け、緊密な人間関係の構築に努めている。 地区部会では、安心カードをすべての75歳以上の方へ、令和5年度に配布できるよう、準備を進めている。また、見守り活動に協力いただける方に、セーフティウォッチャーや近所のさりげない見守り活動に協力いただいている。
	4　災害時に支援を必要とする人の避難支援	新宿小学校の避難所運営委員会が設立され、隔月で会議を開催している。避難所運営委員会では、避難所に避難してきた人々に対してスムーズな受入れが出来るよう、住民参加による避難訓練を実施し、例年、100人強が参加しているが、令和4年度はコロナの影響により、規模を縮小して実施した。
	5　すべての子どもを地域で育てる	例年、町内自治会や子ども会では、餅つき、お祭り、お花見、盆踊り、新年会、敬老会の余興など、地域の行事に子どもたちが参加し、住民と交流しているが、令和4年度はコロナの影響により中止。 地区部会では、初めて出産の出産を経験した両親を対象に、子育てに関する悩み相談「ぷち・あんじゅ」を年4回開催した。 母親を対象とした子育てサークル「学びと気づきの教室『mamaの会』」を月1回（毎月第3木曜日）それぞれ開催し、子育て中の親の育児相談を受け付け、子育てに関する悩みに対応した取り組みを行った。 また、新宿保育所内の地域子育て支援センター「にこにこルーム」にボランティアとして参加した。 地域住民が、新宿小学校の「放課後子ども教室」や1年生を対象に年1回実施している「昔遊び等の体験活動」に参加し協力している。また、「こども110番のいえ」に協力するとともに、セーフティウォッチャーとして学校に30名登録して登下校時の子ども達の安全を見守った。
2　交流の場と仲間づくり	6　ふれあい・いきいきサロンの充実	例年、地区部会では、高齢者の仲間づくりの場を提供するため「ふれあい・いきいきサロン」を年2回実施しているが、コロナの影響により令和4年度は中止。 町内自治会や老人クラブではグラウンドゴルフ、カラオケ等を実施し、月1回程度は高齢者が交流する機会を設けているが、同様に中止。
	7　地域での健康づくり支援の充実	地区部会では、高齢者の健康増進を図るため「歩こう会」を年3回実施した。 高齢者を対象に、栄養をテーマとに健康セミナーを、例年どおり開催した。 スポーツ振興会では、グラウンドゴルフ大会を年2回開催した。 新宿公民館では、週1回、シニアリーダー体操が行われている。 新宿2丁目会館で、健康マージャンを週1回、誰でも参加できる形で開催し、高齢者の交流の機会を設けている。
	8　地域でのスポーツ活動及び文化活動の推進	・スポーツ振興会で、グラウンドゴルフ、ソフトボール、綱引きを実施しているが、新型コロナ禍でグラウンドゴルフのみ実施。 ・「わくわくキャンパス」での指導協力（ソフトボール、裁縫教室）をしているが、新型コロナの影響により中止。 ・新宿小学校が1年生を対象に、年1回実施している昔遊び等の体験活動に、地域の方が参加し協力しているが、新型コロナの影響により中止。
	9　子育てサロンの充実	地区部会では、幼少期の子どものいる親の負担を軽減するため、新宿公民館で「0歳児の親子育児サークル「ぷち・あんじゅ」」を年4回、母親を対象とした子育てサークル「学びと気づきの教室『mamaの会』」を月1回（毎月第3木曜日）それぞれ開催し、子育て中の親の育児相談を受け付け、子育てに関する悩みに対応した取り組みを行った。 ・新宿保育所内の地域子育て支援センター「にこにこルーム」にボランティアとして参加した。 ・老人クラブが、保育所からの依頼を受け、昔遊びや折り紙を指導しているが、新型コロナの影響により中止。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和4年度）個票

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和4年度の実績
新宿地区部会エリア	2　交流の場と仲間づくり	10　障がい者との相互理解と地域住民等との交流の推進	例年、地区部会の障がい者福祉委員会が、千葉県聴覚障害者協会の就労継続支援施設「らいおん工房」で、月1回、広報紙の発送等を手伝うボランティア活動を行い、障がい者との交流を図っている。 また、販売品の材料の寄付や販売品の購入を通じて交流を図った。
		11　世代間交流の場の提供	・住民の交流を図るため、各町内自治会での盆踊りや夏祭り、花見等、誰でも参加できる地域行事を実施した。
	3　社会参加の推進	12　高齢者の地域社会での福祉活動の促進	・地区部会や町内自治会の事業の運営に高齢者が参加している。 ・老人会と地域住民が共同で、神社や公園の清掃を行っている。 ・月3回の新宿公園の清掃活動に高齢者が参加している。
		13　障がい者の地域社会での福祉活動の促進	・イベントの広報は障害の有無に関わらず、地域住民に回覧で広報している。
	4　地域福祉力向上、担い手づくり	14　地域で福祉に関する講座や研修会等の受講機会の提供	地区部会が、中央区健康課と連携し、住民の福祉力向上を図るため、「栄養」をテーマとした講演会を年1回実施した。
	5　相談体制、情報提供の場づくり	15　相談体制・情報提供の充実	・民生委員や町内自治会が、地域の方々の個別の相談に応じ、対応が困難なケースについては、専門機関の情報を提供している。 ・隔月に実施する地区部会の役員会において、地域の関係団体の情報共有を図っている。役員会には、あんしんケアセンターに毎回参加いただき、情報共有するとともに、高齢者に関する相談が気軽にできる関係性の構築に努めている。
		16　福祉情報紙の充実と「中央区ふくし・防災ガイド＆マップ」の活用	・広報紙を年2回発行している。 ・各町内自治会で防災マップを作成している。
	6　福祉教育の推進	17　地域での福祉教育の推進	・「わくわくキャンパス」で指導協力（ソフトボール、裁縫教室）をしているが、新型コロナの影響により中止。 ・新宿小学校が1年生を対象に、年1回実施している昔遊び等の体験活動に、地域の方が参加し協力しているが、新型コロナの影響により中止。 ・地区部会があんしんケアセンターと連携して、新宿中学校1年生を対象に、認知症に関する講座を開催し、認知症に対する理解の促進を図った。
	7　人にやさしい生活環境づくり	18　防犯対策の推進	町内自治会では、月2回、防犯パトロールを実施するとともに、年2回、地域交番（京成交番）と連携し、地域の防犯意識の向上に取り組んだ。 また、防犯パトロールの際には、防犯灯（街路灯）の不点灯等の確認を行っている。
		19　災害時に支援を必要とする人の避難支援	新宿小学校の避難所運営委員会が設立され、隔月で会議を開いている。避難所運営委員会では、避難所に避難してきた人々に対してスムーズな受入れが出来るよう、住民参加による避難訓練を実施し、例年、100人強が参加している。 多くの人々が参加しやすいよう、災害時に必要な情報をホームページで発信するなど、住民の意識向上に取り組んだ。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和4年度）個票

地区部会エリア

千葉みなと地区部会エリア

【人口・世帯数】
10，451人、4，454世帯
【町内自治会数】
11町内自治会
【高齢化率】
12．8%
【地域の特徴】
〇中央港、千葉港、問屋町を対象としたエリア。ほとんどの住民がマンションに居住している。

活動事業名	実績に〇印
いきいきサロン	－
子育てサロン	－
散歩クラブ	〇
広報紙	〇
ボランティア講座	－
ふれあい食事サービス	－
敬老会	－
見守り活動	－
支え合い活動	－

基本方針	取組項目	令和4年度の実績
1　身近なコミュニティづくりの推進	1　地域支えあい連絡会の設置・推進	新型コロナウイルスの感染が拡大している期間を除き、町内自治会や民生委員・児童委員、行政等の関係機関・団体が集まり、「千葉みなと地区部会」、「千葉みなと地区自治会連合会」、「新宿中学校避難所運営委員会」の定期会合を2か月に1回開催し、地域課題の意見交換を行った。 また、千葉市みなと活性化協議会に協力し、「さんばしまつり」を実施するなど、他団体とのさらなる連携が図られている。
	2　支え合い活動の仕組みづくり	・個別のケースについては、町内自治会長や民生委員が個別に支援にあたっている。 ・支え合い活動のケーススタディとして、歩行不自由な高齢者の依頼にて年金事務所、病院への送迎支援を各1回ずつ実施した結果、今後の運営方法・仕組みづくりの参考になった。 ・地域支え合い連絡会の設立に向け、ボランティアや福祉活動推進員を確保するため、人材を募集している。
	3　見守り体制をつくる	民生委員の協力にてひとり暮らしの高齢者や要介護者等の実態を把握した。また、マンションの管理人と情報交換し、各マンションの情報把握に努めた。 また、地域のセーフティウォッチャーが増えたことで、地域安全・地域福祉の充実化が図られている。
	4　災害時に支援を必要とする人の避難支援	・災害に備え、避難所運営委員会が、年1回、避難所開設訓練を行っている。 ・避難所運営委員会の定例会議を隔月で実施した。 ・民生委員が持っている支援を必要としている人の情報を共有する方法を検討中。
	5　すべての子どもを地域で育てる	・地域でセーフティウォッチャーに協力している。 また、地域のセーフティウォッチャーが増えたことで、地域安全・地域福祉の充実化が図られている。 ・こども110番のいえに、地域住民・店舗・企業・マンション管理組合が協力している。 ・地区部会がセーフティウォッチャーやこども110番のいえの協力者募集のポスターを作成し、協力者の確保に協力している。
2　交流の場と仲間づくり	6　ふれあい・いきいきサロンの充実	・高齢者の交流を図るため、一部の町内自治会で、集会所を利用し、シニアリーダー体操を実施している。 ・落語会、チョイ飲み会等、高齢者が交流する場を各町内自治会で実施しており、地区部会では、その情報を共有している。 ・サロンなどの地区部会における拠点の確保については、検討課題として認識している。
	7　地域での健康づくり支援の充実	・高齢者の健康増進を図るため、一部の町内自治会で、集会所を利用し、シニアリーダー体操を実施している。今後、他の町内自治会でも実施すべくシニアリーダーと検討中。 ・地区部会が、地域住民の交流を図るため実施している「歩こう会」は、活動再開に向けて準備等を行った。
	8　地域でのスポーツ活動及び文化活動の推進	・都川河口一帯を「結城野(ゆうきの)」と呼んできたことから命名された「ゆうきの夏祭り」に、歴史パネルを展示し地域の歴史を学ぶ機会を提供している。 ・町内自治会ごとに、夏祭り、クリスマス会、文化祭等を活動を再開した。 ・地域で音楽会を開催し、その中で新宿中学校の音楽部等の生徒に演奏等していただいた。
	9　子育てサロンの充実	・一部の町内自治会が、年1回、新1年生の親子の交流会を実施している。 ・マンションが実施している夏祭りで交流を図っている。 ・新宿地区部会のサロン開催のパンフレットを配布している。 ・サロンなどの地区部会における拠点の確保については、検討課題として認識している。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和4年度）個票

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和4年度の実績
千葉みなと地区部会エリア	2　交流の場と仲間づくり	10　障がい者との相互理解と地域住民等との交流の推進	・地区部会として情報収集を行うなど、活動の実施に向けて検討中。
		11　世代間交流の場の提供	・マンションが実施している夏祭り等で交流を図っている。 ・年3回実施している公園清掃には、大人も子どもも参加しており、交流の機会となっている。 ・地域で音楽会を開催し、その中で新宿中学校の音楽部等の生徒による演奏等を通して世代間交流を図った。
	3　社会参加の推進	12　高齢者の地域社会での福祉活動の促進	・一部の町内自治会で、文化祭を実施しており、高齢者が趣味を披露する場となっている。 ・一部の町内自治会で、クリーンアップ作戦の案内をし、活動への参加を呼び掛けている。 ・一部の町内自治会で「いきいきマージャン」を開催した。
		13　障がい者の地域社会での福祉活動の促進	・地区部会として情報収集を行うなど、活動の実施に向けて検討中。
	4　地域の福祉力向上、担い手づくり	14　地域で福祉に関する講座や研修会等の受講機会の提供	・地区部会として情報収集を行うなど、活動の実施に向けて検討中。 なお、一部の地区部会関係者が、薬やおくすり手帳などに関する勉強会・研修会を年2・3回開催する取組みを行っている。
	5　相談体制、情報提供の場づくり	15　相談体制・情報提供の充実	・地域内で問い合わせがあれば、個別に民生委員や町内自治会役員、マンションの管理人が対応している。
		16　福祉情報紙の充実と「中央区ふくし・防災ガイド＆マップ」の活用	・「ちばみなとjp」と連携し、地域のイベント情報の発信に努めている。
	6　福祉教育の推進	17　地域での福祉教育の推進	・町内自治会のクリーンアップ作戦に子どもたちが参加し、地域の一員として活動している。 ・地域のセーフティウォッチャーが、児童・生徒に対し、挨拶などの声掛けを通して、児童・生徒に対する福祉教育・情操教育を行っている。
	7　人にやさしい生活環境づくり	18　防犯対策の推進	・地域でセーフティウォッチャーに協力。 ・こども110番のいえに、地域住民・店舗・企業・マンション管理組合が協力している。 ・地区部会がセーフティウォッチャーやこども110番のいえの協力者募集のポスターを作成し、協力者の確保に協力している。 ・一部の町内自治会では、月1回、防犯パトロールを実施している。 ・問屋町・千葉港東地区自治会が、中央区地域活性化支援事業を活用し、防犯カメラや防犯パトロールののぼり旗を設置した。
		19　防災体制の充実	避難所運営委員会では、災害時の対応を協議するため、隔月で定例会議を開催するとともに、年1回、避難所開設訓練を行った。 また、各マンションでトランシーバーを導入し、災害時の支援体制を整備した。 各マンションでは、年1回、消防による初期消火訓練等の防災訓練を実施した。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和4年度）個票

地区部会エリア：蘇我地区部会エリア

【人口・世帯数】
18，838人、9，960世帯

【町内自治会数】
9町内自治会

【高齢化率】
16.3%

【地域の特徴】
〇蘇我、今井、若草、南町を対象としたエリア。JR蘇我駅周辺の地区で、 隣接地区の製鉄所跡地に大規模ショッピングセンターやサッカー場ができ、交通量の増加など環境が徐々に変わりつつある。

活動事業名	実績に〇印
いきいきサロン	〇
子育てサロン	〇
散歩クラブ	〇
広報紙	〇
ボランティア講座	〇
ふれあい食事サービス	－
敬老会	〇
見守り活動	－
支え合い活動	－

基本方針	取組項目	令和4年度の実績
1　身近なコミュニティづくりの推進	1　地域支えあい連絡会の設置・推進	地域ケア会議は、新型コロナの影響で実施できず。 ただし、民児協定例会（月1回）の会議に、あんしんケアセンター職員にも参加していただき、問題点の共有化を図った。 また、コミュニティ懇談会【地域運営委員会】（年4回）や青少年育成委員会（年6回）に参加し、地域課題について情報交換を行うとともに、地区部会の会議や活動を通じて関係団体との連携を図っている。 介護付有料老人ホーム「そんぽの家　蘇我」と地域が連携した取り組みについて協議した結果、これまで施設を利用し開催してきた高齢者の集いの場や、あんしんケアセンター松ケ丘の多職種連携会議はリモートで実施。
	2　支え合い活動の仕組みづくり	・地域の個別ニーズに対しては、主に民生委員や地区部会が対応している。
	3　見守り体制をつくる	地区部会が、地区内の8町内自治会を通じて、町内自治会加入の全世帯を対象に配布している「冷蔵庫保管用安心カード」については、記載内容の見直しを行い、町内自治会を通じて配布した。また、町内自治会未加入の75歳以上のひとり暮らし高齢者については、民生委員の協力を得て、5月の「高齢者実態調査」の際に配布した。 また、地域の見守りに対する意識の向上を図るため、地域の関係団体と連携し、実施予定だった「地域見守り活動～オレンジフェスティバル～」は、新型コロナの影響で実施できず。
	4　災害時に支援を必要とする人の避難支援	・地区内4か所の避難所すべてに「避難所運営委員会」が設立されており、各避難所運営委員会が、九都県市防災訓練の実施日に合わせ、避難所の設備・備品の点検等を行った。 訓練の際は、福祉的配慮を必要とする人をケアする内容を加え改定した避難所運営マニュアルを活用するとともに、マニュアルの修正が必要な箇所を改正した。 ・地区部会として、来年度、災害時に備えた炊き出し訓練を予定している。
	5　すべての子どもを地域で育てる	子どもたちの安全を守るため、「セーフティウォッチャー」や「こども110番のいえ」に地域住民が協力した。 また、不審者対応として、青色回転灯装着車によるパトロールも計画どおり実施するとともに、パトロール活動への支援として、若干のガソリン代の支給やドライブレコーダーの貸与等も実施できた。 地区部会が蘇我小学校から依頼を受ける、年1回の「昔あそび」のゲストティーチャーとして役員が協力するとともに、蘇我小学校で全学年を対象に月2回実施している「わくわくキャンパス」には内容に応じて参加・協力しており、令和4年6月より再開した。 また、「ローゼンそが保育園」の昔あそびのゲストティーチャーとして役員が協力するとともに、新たに認可保育園「そがチャイルドハウス」の昔遊びのゲストティーチャーとして役員が協力することとなっていたが、新型コロナの影響で実施できず。 例年、地区部会が協力し、高齢者が昔遊びの指導等に協働参画している、地区の子ども会行事や、主任児童委員が中心となり、蘇我小学校に週1回出向き、全学年対象に実施している「本の読み聞かせ」については、新型コロナの影響で実施できず。
2　交流の場と仲間づくり	6　ふれあい・いきいきサロンの充実	地区部会が、いきいきサロンを4会場で年間各4回実施した。 各部会活動に使用可能な備品（ボッチャ2セット）を配備した。
	7　地域での健康づくり支援の充実	例年、60歳以上の高齢者を対象に、健康維持や交流の場づくりを目的として実施している「ふれあい・散歩クラブ」「ふれあい・いきいきサロン」を再開した。 また、健康促進に関する年1回の講座、高齢者の健康増進を図るために地区部会として協力している、スポーツ振興会及び老人クラブで行っているスポーツ活動や蘇我いきいきセンターで月2回行われているシニアリーダー体操も新型コロナの影響で中止。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和4年度）個票

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和4年度の実績
蘇我地区部会エリア	2　交流の場と仲間づくり	8　地域でのスポーツ活動及び文化活動の推進	・「わくわくキャンパス」に地域の全関係者が加わり、令和4年6月以降に活動を再開した。 ・蘇我小学校や「ローゼンそが保育園」、「そがチャイルドハウス」の昔遊びのゲストティーチャーとして地区部会役員が活動しているが、新型コロナの影響により中止。 ・地区部会がスポーツ振興会と共同で、蘇我小地区町民運動会を開催した。 ・蘇我小学校区内の3地区にて、盆踊り大会を開催した。
		9　子育てサロンの充実	・子育てサロンを年10回実施しているが、新型コロナの影響により中止。
		10　障がい者との相互理解と地域住民等との交流の推進	・「コミュニティまつり」でオリーブハウスの販売ブースを設置しているが、新型コロナの影響により中止。 ・地区部会、町内自治会のイベントでは健常者、障がい者を問わず、誰でも気軽に参加できるようPRに努めている。 ・福祉的配慮を必要とする人をケアする内容を加え改定した避難所運営マニュアルを各訓練で活用するとともに、マニュアルの修正が必要な箇所を改正した。 ・避難所運営委員会では、女性の委員を増やすとともに、障がい者や外国人にも委員としての参加を呼びかけており、一部の避難所運営委員会では障がい者や外国人が委員として参加するようになったが、新型コロナの影響により中止。
		11　世代間交流の場の提供	・3地区の町内自治会が、盆踊り等の各種イベントを開催した。
	3　社会参加の推進	12　高齢者の地域社会での福祉活動の促進	例年、地区部会のボランティア委員会が、月1回、「セントケアホーム蘇我」「グループホームさくら」の2施設で行っている話し相手やイベント手伝い等の活動を継続して実施しているが、新型コロナの影響で中止。なお、今後の訪問活動内容について検討中。
		13　障がい者の地域社会での福祉活動の促進	・№10と同様
	4　地域の福祉力向上、担い手づくり	14　地域で福祉に関する講座や研修会等の受講機会の提供	・地区部会が、健康促進に関する講座（1回）や食育に関する講座（1回）を予定していたが、新型コロナの影響により中止。 ・いきいきサロンでも、健康体操などのメニューを取り入れているが、新型コロナの影響により中止。 ・介護付有料老人ホーム「そんぽの家　蘇我」が、高齢者向けの健康体操教室を2回予定していたが、新型コロナの影響により中止。
	5　相談体制、情報提供の場づくり	15　相談体制・情報提供の充実	・地域内で問い合わせがあれば、個別に民生委員や町内自治会長が対応している。 ・各町内自治会からの要望や相談については、「地域ケア会議」や「学校運営評議員会」を通して、情報を共有し対応策を検討している。 ・民生委員と地区部会、あんしんケアセンターが連携し、地域内の公園などにて気軽に相談できる環境の場づくりを進めた。
		16　福祉情報紙の充実と「中央区ふくし・防災ガイド＆マップ」の活用	・全町内自治会で「防災マップ（危険箇所マップ）」を作成している。 ・年2回社協だよりを発行している。 ・蘇我中学校区の小・中学生が一緒に作成した「蘇我小子どもマップ（子どもの目からみた安全マップ）」の内容を更新した。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和4年度）個票

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和4年度の実績
蘇我地区部会エリア	6　福祉教育の推進	17　地域での福祉教育の推進	・「わくわくキャンパス」に地域の全関係者が加わり、令和4年6月以降活動を再開している。 ・地域の見守りに対する意識の向上を図るため、地域の関係団体と連携して実施した「地域見守り活動～オレンジフェスティバル」には、淑徳大学の学生も参加を予定していたが、新型コロナの影響により中止。 ・主任児童委員が中心となり、蘇我小学校に週1回出向き、「本の読み聞かせ」を全学年対象に実施しているが、新型コロナの影響により中止。 ・青少年育成委員会で、地区の歴史散歩を毎年場所を変えて実施し、地域の歴史を理解し、地域を好きになってもらう事業を実施している。 ・蘇我中学校1年生を対象に、「子どもによる子どものための子どもの権利条約」の読書の勧めと感想文募集を継続実施し、全員の感想文が寄せられている。 ・地区部会が健康促進に関する講座（1回）や食育に関する講座（1回）を予定していたが、新型コロナの影響により中止。 ・いきいきサロンでも健康体操などのメニューを取り入れ、令和4年6月以降活動を再開した。 ・子ども会では、地域リーダーを養成するための講習会を開催している。受講者の中には成人後も子ども会行事を手伝っている人もいる。
	7　人にやさしい生活環境づくり	18　防犯対策の推進	例年、民生委員定例会や地域ケア会議、いきいきサロンで実施している、「振り込め詐欺の対応や防止策」等についての講座は、新型コロナの影響で中止。 育成委員会では、青色パトロールを各町内自治会で週割し、実施した。 第9地区連協では、49町内自治会のうち41町内自治会が防犯パトロール隊を結成し、パトロールを実施した。 移動交番が、蘇我コミュニティセンターや東武ストア蘇我店に開設されている。 蘇我中学校区の小・中学生が一緒に作成した「子どもの目からみた安全マップ」を広報紙に掲載している。 地域住民が「こども110番のいえ」に協力している。 PTAが学校の長期休暇に合わせ、防犯パトロールを兼ねて実施している地区内一斉点検に地区部会が協力した。
		19　防災体制の充実	・各町内自治会の自主防災会でそれぞれ活動している。 ・第9地区連で10か所の避難所で運営組織を立ち上げ、各避難所の特性を考慮したマニュアルを作成し、地域の実情に合わせた運営ができるような体制をつくっている。 ・千葉工業高校を会場として、5町会による防災訓練を開催している。訓練には、生徒や教員、地域住民が参加している。 ・地域運営委員会が、必要に応じ、防災講座を開催している。 ・地区内4か所の避難所すべてに「避難所運営委員会」が設立されており、各避難所運営委員会が、九都県市防災訓練の実施日に合わせ、避難所の設備・備品の点検等を行った。 ・地区部会として、来年度、災害時に備えた炊き出し訓練を予定している。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和4年度）個票

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和4年度の実績
白旗台地区部会エリア 【人口・世帯数】 25，711人、13，077世帯 【町内自治会数】 41町内自治会 【高齢化率】 25．0% 【地域の特徴】 〇白旗、鵜の森町、今井町、大巌寺町、花輪町、宮崎、赤井町の一部、千葉寺町の一部、大森町の一部、宮崎町の一部を対象としたエリア。 古くからの農村地帯と昭和50年代に宅地造成された地域がほぼ同じ割合で混在する区域で、一部住宅地では、高齢化率50%を超える自治会もある。 活動事業名 ／ 実績に〇印 いきいきサロン ／ 〇 子育てサロン ／ 〇 散歩クラブ ／ 〇 広報紙 ／ 〇 ボランティア講座 ／ 〇 ふれあい食事サービス ／ 〇 敬老会 ／ 〇 見守り活動 ／ 〇 支え合い活動 ／ 〇	1　身近なコミュニティづくりの推進	1　地域支えあい連絡会の設置・推進	(1)コミュニティづくり懇談会では、コロナ禍においても万全な対策を取って予定どおり年3回の開催を計画して準備を進めた。 7/30の第1回では「区長を囲む会」として、松浦区長から千葉市の基本計画や中央区の目指す姿等の話や身近な所で町内自治会加入促進の話を聞き、活発な質疑を行った（参加者57名）。11/26の第2回では、危機管理部の国方部長、須崎担当から避難所開設運営マニュアルの改訂について説明を聞き、各避難所運営の課題等を話し合った（参加者97名）。 2/4の第3回では、都市部の諏訪課長から「蘇我駅周辺の整備状況について」説明を受け理解を深めた（参加者74名）。また実施した講演内容を「コミ懇だより」に掲載し各家庭に回覧した。 (2)避難所の立上げ訓練等は千葉市の計画日である8/28に7か所ある避難所の大半で実施した。（一部遅らせて実施した所もあり）但し多人数での実施には問題が多いことから、多くの避難所では避難所運営委員のみで、備蓄品の確認や備品の試用程度の訓練となった。 (3)青色装着車によるパトロール活動については、コロナ禍にもかかわらず学校のある日には毎日3台程度でパトロールをほぼ実施できた。 不審者の出没状況は前半が昨年以上に悪かったが後半は良好で、年を通して目標はオーバーしたが市の平均値等よりは良好であった。本年度の課題等も明確になり、次年度で対応したい。 (4)避難所備蓄品の充実については、エアーマットとトイレキットを購入し7か所の避難所の全てに市の配布品とは別に配布することができた。 (5)地域運営委員会（コミ懇）については懇親会等は中止したが、計画した諸事業はほぼ実施することができた。又あんしんケアセンターが主催する「地域ケア会議（多職種連携会議）」にも参加し相互理解を深めた。
		2　支え合い活動の仕組みづくり	(1)令和4年度も前年度に引き続きコロナ禍であることを考慮して「生活必須」のものにできるだけ絞って実施することにした。 (2)それでも活動件数はゴミだし支援を中心に495件（41.25件／月）と活動開始時の目標値である40件／月を達成することができた。 (3)7月の理事会後に「きずな隊を知る」と題して研修会を実施した。又協力者の見直しを行った。
		3　見守り体制をつくる	(1)地区部会を構成する41町内自治会すべてで実施することができた。 (2)活動内容としてはコロナ禍でいろいろ苦労があったが、防犯パトロール活動と連携した「さりげない見守り」を中心に、ほぼ計画どおり継続して実施できたところが多かった。 (3)3月の理事会で実施状況情報交換会を行った。 (4)広報紙に記事を載せ広報活動も実施した。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和4年度）個票

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和4年度の実績
白旗台地区部会エリア	1　身近なコミュニティづくりの推進	4　災害時に支援を必要とする人の避難支援	(1)令和4年度もコロナ禍の為、一般市民をまじえた避難訓練等は実施できなかったが、多くの避難所で8/28に避難所運営委員と施設管理者、直近要員で備蓄品の確認や備品の使用方法の訓練等を行った。 (2)マニュアルの見直しについては、昨年更に本年11/26の説明を受けて各避難所ごとに見直しを行ったが、しっかり改定を行った所はまだ多くなかった。順次必要な改定を行っていく。
		5　すべての子どもを地域で育てる	(1)あいさつ運動やのぼり旗の更新等は、ほぼ予定どおり実施できた。又休みあけにはあいさつ運動を各地区で実施した。 (2)こども110番のいえ訪問・駆け込み訓練の再検討は、コロナ禍で会議が開けず実施できなかったが、青色回転灯装備車によるパトロールは 1の(3)のとおり実施できた。また、パトロール車への若干の補助は本年も計画通り実施することができた。 (3)更に、蘇我中1年生全員（291名）を対象にした「子どもによる子どものための子ども権利条約」の読書感想文事業は、本年度も1年生ほぼ全員の参加が得られ、内容もかなり充実していた。 (4)各小ともにセーフティウオッチャー活動は活発に実施できた。 (5)通学路の安全対策も少しづつ改善できた。
	2　交流の場と仲間づくり	6　ふれあい・いきいきサロンの充実	(1)「健康」をテーマに地区部会主催で計画したいきいきサロンは、計画した9会場のうち8会場で実施できた。講師は中央保健福祉センター健康課より派遣された保健師、看護師等とあんしんケアセンターより。 (2)各町内自治会主催のものは、コロナ感染予防対策を十分行いながら実施した。（合計109回）
		7　地域での健康づくり支援の充実	(1)ふれあい散歩クラブ活動は、コロナ禍でも比較的多くの町内自治会で実施できた。（合計127回） (2)いきいきサロンでの健康体操についても継続実施ができたところもあった。 (3)スポーツ振興会主催のものでは、市民体育祭はいずれも中止となったが、代替事業としてグラウンドゴルフ大会等を開催した。 (4)あんしんケアセンター主催のWEB会議が多職種連携会議として開催され、2つの事例検討が行われた。数名が参加し知見を高めることができた。 (5)地区部会主催で、「元気幸（高）齢者になるための健康教育（講師：健康課の保健師、栄養士）を開催し21名の高齢者参加。
		8　地域でのスポーツ活動及び文化活動の推進	(1)蘇我中地区の「蘇我の歴史散歩」を3年ぶりに復活できた。大巌寺小地区をまわり、特に大巌寺では興味深い資料も数多く見学できた。 (2)「放課後こども教室」は本年度は大森小、宮崎小で実施した。 (3)スポーツ振興会の市民体育祭はいずれも中止としたが、屋外でのグラウンドゴルフ等で代替して実施した。 (4)屋内のスポーツイベントも徐々に再開できた。 (5)屋外でのスポーツイベントは計画以上に実施できたが、参加者数は今一歩であった。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和4年度）個票

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和4年度の実績
白旗台地区部会エリア	2　交流の場と仲間づくり	9　子育てサロンの充実	(1)コロナ禍ではあったが、計画通り（4回/月）実施した。参加者は若干減少したが、以前のペースに近づきつつあった。 (2)赤ちゃんのための防災教室（講師：防災対策課須崎氏）も開催し、0～3歳児と保護者等28名が参加した。
		10　障がい者との相互理解と地域住民等との交流の推進	(1)障がい者対応としては、避難所訓練や地区部会「ふれあいひろば」等の地域行事への参加を予定していたが、コロナ禍で実施できなかった。 (2)それでも避難所の運営委員については女性委員の比率が高まり、また障がい者や外国人が委員になって交流を深められるような避難所が増えてきた。 (3)地区部会では障害者福祉委員会のボランティア講座として「障害者について知ろう」と題し、障害者自立支援課の大坪課長を講師に迎え39名が参加して講演会を開催した。
		11　世代間交流の場の提供	(1)子育てサロンをほぼ計画通りに開催し、高齢者スタッフ等を含め、幅広い世代間交流はできたが、いきいきサロン等との交流等はコロナ禍もあり進展しなかった。 (2)地域での世代間交流の場である盆踊りや社協まつりについては大半を中止せざるを得なかった。 (3)子ども達や子育て世代が中心となって敬老会を実施し、世代間交流を図る地区もでてきた。
	3　社会参加の推進	12　高齢者の地域社会での福祉活動の促進	(1)地区部会をはじめ地域の各種団体の福祉課題の取組みにおいて、高齢者の活動は確実に増加してきた。 (2)老人クラブやサークルの福祉施設慰問は、新型コロナ対応で（特に福祉施設側の意向により）実施できなかった。 (3)身近な見守り活動や地域支え合い活動においても、支援者の中に高齢者の比率は高まった。
		13　障がい者の地域社会での福祉活動の促進	(1)ふれあい広場や障がい者も参加する避難訓練は実施できなかったが、避難所運営委員に障がい者がなるケースもあり、活動の範囲が広がりつつある。 (2)コロナ禍での障がい者の避難に不安を持つ方も多く、問い合わせや話し合いの場を持つケースも数件認められた。
	4　地域の福祉力向上、担い手づくり	14　地域で福祉に関する講座や研修会等の受講機会の提供	(1)地区部会主催の研修会を3回（10/16、11/7、11/14）実施し、更に福祉活動推進員研修会も実施した（12/4）。 (2) コミュニティづくり懇談会では地域福祉活動に関する部分もかなり取り入れた懇談会を万全なコロナ対策を行った上で3回実施し、合わせて　228名が参加した。 また懇談会の内容を「コミ懇だより」に掲載し、各家庭に回覧した。 (3)各町内自治会等でも福祉に関係する研修会等も計画し、一部は実施できた。
	5　相談体制、情報提供の場づくり	15　相談体制・情報提供の充実	(1)以前作成した、地域に密着した情報を掲載している福祉マップを一部ではあるが活用している。 (2)地域住民等から寄せられる相談等は、地区部会役員や町内自治会役員・民生委員等が個別又は共同で対応してきたが、相談件数、情報提供件数は増加傾向が続いている。 (3)相談や情報提供を受けたもののうち、行政やあんしんケアセンター、社協等へつないだ件数も多くなってきた。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和4年度）個票

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和4年度の実績
白旗台地区部会エリア	5　相談体制、情報提供の場づくり	16　福祉情報紙の充実と「中央区ふくし・防災ガイド＆マップ」の活用	(1)部会だよりを年1回発行している。 (2)「中央区ふくし・防災ガイド＆マップ」については、3年ごとの更新の年を過ぎたが、こういう時期で延期された。今後の対応について協議を行ったが明確な結論はだせなかった。 (3)地区部会の地域支え合い活動「きずな隊」の活動については、部会だよりでPRするとともに町内自治会長が交替した町内自治会にも周知を再度図った（全町内自治会長等がメンバーの理事会・研修会で再徹底した）。
	6　福祉教育の推進	17　地域での福祉教育の推進	(1)地区部会の5つの委員会でボランティア講座を各1回開催した。 (2)蘇我中学校1年生を対象に、「子どもによる子どものための子どもの権利条約」の読書の勧めと感想文募集を継続実施し、ほぼ全員から感想文が寄せられている。 (3)青少年育成委員会で、地区の歴史散歩を毎年場所を変えて実施し、地域の歴史を理解し、地域を好きになってもらう事業を実施してきた。令和4年度は大巌寺小地区をまわり、特に大巌寺の歴史について知見を深め身近に感じることができた。 (4)すべての子どもを地域で育てる事業では、のぼり旗の更新等も行い、休みあけにはあいさつ運動を展開した。 (5)放課後子ども教室は大森小、宮崎小で実施できた。
	7　人にやさしい生活環境づくり	18　防犯対策の推進	(1)各町内自治会による防犯パトロールについては、コロナ禍にも関わらず、多くでほぼ例年通り実施できた。 (2)青色回転灯装着車によるパトロール活動については、昨年度までと同様、コロナ禍にあっても学校のある日には毎日3台/日のペースで実施できた。不審者の出没の抑え込みでは、前半が最近でも特に悪いレベルであったが、後半は良好で全体的には、市の平均より少し良いレベルであった。
		19　防災体制の充実	(1)避難所の立上げ等の訓練は、8/28の市の訓練日を中心に規模を縮小して実施した。 多くの避難所では、運営委員・直近要員・施設管理者で実施した。 (2)令和4年度はコミコンでマニュアル改訂の主旨等を聞き、各避難所で個々のマニュアル改訂の検討を行った。 (3)地域7つの避難所全てにエアーマット10セット、トイレキット122を市の支給品とは別にコミコンで配布し備蓄品の充実を図った。 (4)地区部会では児童母子福祉委員会のボランティア講座として「赤ちゃんのための防災教室」を開催し、参考になる多くの話を聞き理解を深めた。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和4年度）個票

地区部会エリア

生浜地区部会エリア

【人口・世帯数】

25，879人、12，636世帯

【町内自治会数】

12町内自治会

【高齢化率】

24．7%

【地域の特徴】

〇村田町、浜野町、塩田町、生実町、南生実町を対象としたエリア。
千葉市街地の中心よりやや外れ、南は市原市に接し、西には京葉工業地域を有している。古墳や神社仏閣も多く、古くからの歴史と伝統が引き継がれている地域でもある。

活動事業名	実績に〇印
いきいきサロン	〇
子育てサロン	〇
散歩クラブ	－
広報紙	〇
ボランティア講座	〇
ふれあい食事サービス	－
敬老会	〇
見守り活動	〇
支え合い活動	〇

基本方針	取組項目	令和4年度の実績
1　身近なコミュニティづくりの推進	1　地域支えあい連絡会の設置・推進	・「生浜地区地域運営委員会」の4部会、「青少年部会」、「高齢者・要支援者部会」、「防災部会」、「スポーツ部会」では、一部の部会を除き、コロナ禍での活動について協議を行った。
	2　支え合い活動の仕組みづくり	・コロナ禍のため休止
	3　見守り体制をつくる	・民生委員が中心となり活動
	4　災害時に支援を必要とする人の避難支援	・「九都県市合同防災訓練」の日にあわせて、避難所運営委員の行動の共有化を図るとともに、備蓄品の確保を行った。 ・避難所運営委員会を対象とした講習会を実施した。
	5　すべての子どもを地域で育てる	・毎年3月に行っている「生浜地区合同防災訓練」は中止となった。 ・生浜地区の防犯パトロールを実施した。 ・学校が主体となって実施しているセーフティウォッチャーに地域住民が協力し、登下校時の児童の見守りに取り組んだ。
2　交流の場と仲間づくり	6　ふれあい・いきいきサロンの充実	・令和4年11月より、いきいきサロンを4か所で再開した。 ・老人クラブでは、グラウンドゴルフや輪投げ、ダーツ等の行事を開催した。
	7　地域での健康づくり支援の充実	・令和5年2月より、2か所でシニアリーダー体操教室を再開した。
	8　地域でのスポーツ活動及び文化活動の推進	・「生浜地区体育祭」は中止となった。 ・育成委員会が「子どもふれあい祭り」を再開し、地区部会として体験コーナーを設けて参加した。
	9　子育てサロンの充実	・「子育てサロン」及び幼稚園、保育所、保育園との情報交換は中止。
	10　障がい者との相互理解と地域住民等との交流の推進	・生浜中学校1年生を対象に、福祉施設と協力した車いす体験やボッチャ体験を行い、障がいについて学習する機会を設けた。
	11　世代間交流の場の提供	・生浜地区内のイベント（体育祭・盆踊り・お祭り）が中止となったため、取り組めなかった。
3　社会参加の推進	12　高齢者の地域社会での福祉活動の促進	・複数の福祉施設へボランティア活動を例年実施しているが、施設の受け入れが困難なため出来なかった。 ・地区部会や町内自治会等、地域団体の役員になっている高齢者は、地域行事でスタッフとして活動している。 ・「セーフティウォッチャー」に地域の高齢者が協力し、登下校時の児童の見守りに取り組んでいる。
	13　障がい者の地域社会での福祉活動の促進	・地域行事に障害者施設（ハピネス浜野等）の職員が利用者を連れてきているが、地域行事（お祭り等）が中止となったため、できなかった。
4　地域の福祉力向上、担い手づくり	14　地域で福祉に関する講座や研修会等の受講機会の提供	・生浜中学校1年生を対象に、福祉施設と協力した車いす体験やボッチャ体験を行い、障がいについて学習する機会を設けた。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和4年度）個票

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和4年度の実績
生浜地区部会エリア	5　相談体制、情報提供の場づくり	15　相談体制・情報提供の充実	・ふれあい・いきいきサロンや子育てサロンを中止したため、取り組めなかった。
		16　福祉情報紙の充実と「中央区ふくし・防災ガイド＆マップ」の活用	・地域福祉に関する情報を住民に提供する「地区部会だより」を年2回発行した。カラー印刷にし、紙面の充実を図った。
	6　福祉教育の推進	17　地域での福祉教育の推進	・各町内自治会で実施している「敬老のつどい」については、今までの内容を変更して実施したため、中学生との「福祉のこころ」を育む機会を設けることはできなかった。 ・生浜中学校1年生を対象に、福祉施設と協力した車いす体験やボッチャ体験を行い、障がいについて学習する機会を設けた。
	7　人にやさしい生活環境づくり	18　防犯対策の推進	・地区部会で毎年行ってきた「熟年者交通安全教室」は中止。 ・防犯パトロールを組織化している町内自治会では、定期的にパトロールを実施した。
		19　防災体制の充実	・地域全体での防災訓練は実施しなかったが、町内自治会独自の防災訓練を実施した。 あわせて、避難所運営委員会を対象とした講習会を実施した。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和4年度）個票

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和4年度の実績
松波地区部会エリア 【人口・世帯数】 ４，９２２人、２，８０５世帯 【町内自治会数】 １町内自治会 【高齢化率】 ２３．３％ 【地域の特徴】 〇松波町を対象としたエリア。 大規模な公務員住宅や民間のマンションなどもある閑静な住宅地域、学校の周辺には3大学、4高校及び千葉市教育センター、放射線医学研究所、東京大学生産技術研究所などの機関があり、一大文教地区をなしている。	１　身近なコミュニティづくりの推進	1　地域支えあい連絡会の設置・推進	・民児協、町会長やスポーツ振興会など地区部会の役員となっており、横の連携はとれている。 ・地域の大きな行事の際は、商工振興会、子ども会、シニアクラブを含め、地域の関係団体が集まって打ち合わせを行っている。
		2　支え合い活動の仕組みづくり	・松波会館が地域の拠点となっており、10:00-15:00に事務ボランティアが常駐し対応している。 ・町会有志で「お助けマンクラブ」として草取り、剪定、ゴミだし作業のサービスをしている。
		3　見守り体制をつくる	・平成２５年１月に「松波見守り隊」発足。現在も継続して活動している。
		4　災害時に支援を必要とする人の避難支援	・町会防犯防災部が中心となり年末の夜警実施。 ・毎年、松波自主防災会主催「防災訓練」を実施し、地区部会、消防団、民生委員・児童委員が協力して訓練を実施している。 ・千葉商業高校の避難所運営委員会が、８月末に避難所開設訓練を行い、地区部会が協力した。
		5　すべての子どもを地域で育てる	・毎年、町会主催「餅つき大会」や弥生小スポーツ振興会主催「弥生小学校地区体育祭」に地区部会が協力事業として活動している。 ・民生委員や地区部会役員が中心となり毎朝、登校時に2か所で声かけを実施している（弥生小セーフティウォッチャー）。 ・「こども１１０番のいえ」に地域住民が協力している。

活動事業名	実績に〇印
いきいきサロン	〇
子育てサロン	〇
散歩クラブ	〇
広報紙	〇
ボランティア講座	〇
ふれあい食事サービス	－
敬老会	〇
見守り活動	〇
支え合い活動	〇

基本方針	取組項目	令和4年度の実績
２　交流の場と仲間づくり	6　ふれあい・いきいきサロンの充実	いきいきサロンは、グラウンドゴルフ（雨天及び学校の長期休暇期間は休み）を松波公園で週２回開催するとともに、松波会館で脳トレ会、ウクレレ会を月２回、卓球会を週１回開催し、高齢者の集える場を設け、仲間づくりや健康維持を図った。
	7　地域での健康づくり支援の充実	・地区部会が「散歩クラブ」を月１回実施。地区部会役員の中に看護師が3名いるため、開催時には血圧測定を行い健康と安全管理に注意している。 ・弥生小スポーツ振興会がグラウンド・ゴルフを定期的に開催している。
	8　地域でのスポーツ活動及び文化活動の推進	・地域で開催している「夏祭り」で地区部会として模擬店を出店し、多くの子どもと触れ合っている。 ・毎年、町会主催「餅つき大会」や弥生小スポーツ振興会主催「弥生小学校区体育祭」に地区部会が協力事業として活動している。
	9　子育てサロンの充実	地区部会が、子育て中の親子を対象に、月２回、工作、季節のイベントや、中央区健康課の保健師、栄養士、歯科衛生士による指導、スタッフ（助産師）による育児相談等を内容とした子育てサロンを実施し、子育て親子の仲間づくりに取り組んだ。
	10　障がい者との相互理解と地域住民等との交流の推進	・年末に、８０歳以上の独居高齢者を対象としたプレゼント用に、オリーブハウスでクッキー（１００個）を購入し、販売促進に協力している。
	11　世代間交流の場の提供	・小学生から高齢者まで交流を図るドッキングプレイスとして、「夏のかざりを作ろう」（折り紙工作）を例年実施。１００名程度が参加。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和4年度）個票

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和4年度の実績
松波地区部会エリア	3　社会参加の推進	12　高齢者の地域社会での福祉活動の促進	・ふれあい事業や敬老会、夏祭り、防災訓練など、高齢者が深くかかわり活動する機会を提供している。
		13　障がい者の地域社会での福祉活動の促進	・年末に、80歳以上の独居高齢者を対象としたプレゼント用に、オリーブハウスでクッキー（100個）を購入し、販売促進に協力している。
	4　地域の福祉力向上、担い手づくり	14　地域で福祉に関する講座や研修会等の受講機会の提供	・生活支援コーディネーターのプロデュースにより、『各自が歩行実態を知る』講座を開催した。
	5　相談体制、情報提供の場づくり	15　相談体制・情報提供の充実	・松波会館が地域の拠点となっており、10:00-15:00事務ボランティアが常駐しているため、内容により対応可能である。 ・相談があれば、地区部会もしくは町会を通して、可能であれば対応している。 ・民生委員・児童委員も個別で相談に対応している。 ・ホームページにより、地域情報を発信している。
		16　福祉情報紙の充実と「中央区ふくし・防災ガイド＆マップ」の活用	地区部会が、地域住民を対象に、地区部会活動の紹介と啓発、会員の募集状況等の報告、毎月の地区部会事業の日程の周知やボランティア募集を図るため、社協だよりを、年4回発行した。 また、千葉市松波町会のホームページのリンクより、「社協松波地区部会」、「お助けマンクラブ」ほか諸団体のページに飛ぶことが出来るようしており、地域情報発信の充実を図っている。
	6　福祉教育の推進	17　地域での福祉教育の推進	敬老会に、千葉商業高校の吹奏楽部が参加し、福祉の心を育む機会を設けた。 町会の夏祭りには、子どもたちが山車を一緒にひき、地域住民との交流を図ることができた。
	7　人にやさしい生活環境づくり	18　防犯対策の推進	・有志が月2回、夜間パトロールを行っている。 ・移動交番が月1～2回、松波会館駐車場で活動しており、町会、民生委員・児童委員、地区部会と情報交換している。警察から防犯に関する注意喚起の情報提供をいただいている。 ・「こども110番のいえ」に地域住民が協力している。 ・民生委員や地区部会役員が中心となり毎朝、登校時に2か所で声かけを実施している（弥生小セーフティウォッチャー）。
		19　防災体制の充実	・No.4と同様

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和4年度）個票

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和4年度の実績
川戸地区部会エリア 【人口・世帯数】 ６，798人、３，330世帯 【町内自治会数】 13町内自治会 【高齢化率】 32．6% 【地域の特徴】 〇川戸町、仁戸名町の一部、赤井町の一部、平山町（緑区）の一部を対象としたエリア。千葉市の中央台地に位置し、大網街道を境に東側は旧川戸の部落で、西側は高層住宅の立ち並ぶ地域である。周辺には、千葉南高校、千葉県がんセンター、国立千葉東病院などの公的機関が存在するが、千葉市の公的機関が少なく、川戸公民館が唯一のコミュニティの場である。また、高齢化率については、30%を超え高くなっている地域である。	1　身近なコミュニティづくりの推進	1　地域支えあい連絡会の設置・推進	例年、地区部会が主催する行事や活動（バス研修旅行、お助け隊の活動）は、コミュニティ懇談会、第21地区連絡協議会、民生委員・児童委員協議会、スポーツ振興会、PTA、子ども会と意見交流を図りながら、関係団体の協力を得て実施した。
		2　支え合い活動の仕組みづくり	・平成27年4月から、地区部会が、高齢者や障がいのある方を対象に、簡易な草取り、話し相手等、日常生活のちょっとした困りごと等の手伝いをする「お助け隊」を継続して実施しており、令和4年度は3件実施した。 ・年3回行っている協力員の報告会は、コロナ禍で2回実施。利用券販売協力店に地域への周知をお願いし、活動実績を上げるよう努めている。
		3　見守り体制をつくる	地区部会が、高齢者や障がいのある方など支援が必要な方を対象に、日常的な目配りや声かけによる安否確認等を行い、安心して地域で暮らせるよう、継続して見守り活動に取り組んだ。例年、年3回実施している報告会は、11月、3月に実施した。
		4　災害時に支援を必要とする人の避難支援	・地区内の3か所の避難所すべてに避難所運営委員会があり、避難訓練を実施している。 ・町内自治会単位で防犯パトロールや防災訓練を実施している。 ・地区部会の災害時の支援としては、火災や災害の被害にあった方に対し、福祉バザー収益の積立金を活用した見舞金制度を設けている。
		5　すべての子どもを地域で育てる	・育成委員会で実施している夏・冬年2回のパトロールに協力している。 ・例年9月に川戸小学校、川戸中学校、川戸保育所地区の清掃活動をPTAが実施しているが、令和4年度は中止。 ・子育てサロン「も一も一クラブ」を年10回開催しているが、コロナ禍で9回実施した。 ・敬老会には、千葉南高校、川戸中学校、川戸小学校の児童・生徒や地域の各種団体が参加し、交流を図っているが、コロナの為中止。 ・地域住民がセーフティウォッチャーに協力している。 ・放課後子ども教室に地域住民が協力している。 ・「こども110番のいえ」に地域住民が協力している。
	2　交流の場と仲間づくり	6　ふれあい・いきいきサロンの充実	地区部会が、いきいきサロン「ひまわり会」を年8回開催し、高齢者の仲間づくりや健康維持を図った。また、参加者の増加を図るため、75歳以上のひとり暮らし高齢者を個別訪問し、サロンの案内を行うとともに、対象者が参加したくなるような内容を検討した。
		7　地域での健康づくり支援の充実	スポーツ振興会が毎週日曜日にラジオ体操と散歩を実施した。また、各町内自治会がグラウンドゴルフを実施し、高齢者の健康維持を図った。
		8　地域でのスポーツ活動及び文化活動の推進	・地域の団体が、運動会や菊見会、子ども会バザー、正月の凧揚げ等を規模を縮小して実施しており、地区部会も協力している。 ・放課後子ども教室に地域住民が協力している。
		9　子育てサロンの充実	地区部会が、子育てサロン「も一も一クラブ」を年9回開催し、子育て支援を図った。また、参加者の増加には至らなかったが、民生委員・児童委員と連携して対象者を個別訪問して子育てサロンの案内状を配付し、潜在的な利用者の掘り起こしに努めた。
		10　障がい者との相互理解と地域住民等との交流の推進	・障害者グループホーム「りべるたす」の行事等に住民が参加し、交流を図っているが、コロナ禍で中止。

活動事業名	実績に〇印
いきいきサロン	〇
子育てサロン	〇
散歩クラブ	－
広報紙	〇
ボランティア講座	〇
ふれあい食事サービス	〇
敬老会	〇
見守り活動	〇
支え合い活動	〇

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和4年度）個票

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和4年度の実績
川戸地区部会エリア	2　交流の場と仲間づくり	11　世代間交流の場の提供	例年、地区部会が開催する敬老会に、千葉南高校、川戸中学校、川戸小学校の児童・生徒が参加し、高齢者と交流する機会となっているが、新型コロナの影響で中止した。また、世代間交流の場となっている「福祉バザー」も、新型コロナの影響で中止した。 また、地域の団体が、例年実施している、盆踊り大会や、美化活動、スポーツ祭、餅つき大会等も中止となった。
	3　社会参加の推進	12　高齢者の地域社会での福祉活動の促進	・敬老会では、地域の方が一体となって盛り上げている。（R4年度はコロナ禍で中止） ・地区部会や町内自治会等、地域団体の役員になっている高齢者は、地域行事でスタッフとして活動している。 ・地区部会の見守り隊やお助け隊の協力員として高齢者に参加いただいている。 ・福祉バザーの収益を活用し、満100歳の方に祝い金を渡しているが、令和4年度は対象者がいなかった。
		13　障がい者の地域社会での福祉活動の促進	・障害者グループホーム「りべるたす」の行事等に住民が参加し、交流を図っているが、コロナ禍で中止。
	4　地域の福祉力向上、担い手づくり	14　地域で福祉に関する講座や研修会等の受講機会の提供	・地区部会が、健康に関する講座を開催した。
	5　相談体制、情報提供の場づくり	15　相談体制・情報提供の充実	・町内自治会長や民生委員が個別の相談対応を行っている。 ・各町内自治会及び民児協より地区部会役員として選任されているため、地区部会の状況や対応内容等、情報がスムーズに流れるよう心掛けている。
		16　福祉情報紙の充実と「中央区ふくし・防災ガイド＆マップ」の活用	地区部会が、地域福祉に関する情報を住民に提供するため、広報紙を年1回発行しているが、新型コロナの影響で諸行事が中止となっていることから、発行も見合わせた。
	6　福祉教育の推進	17　地域での福祉教育の推進	・地区部会が開催する敬老会に、千葉南高校、川戸中学校、川戸小学校の児童・生徒が参加し、高齢者と交流する機会を設けている。 ・障害者グループホーム「りべるたす」の行事等に住民が参加し、交流を図っている。 ・PTA・スポーツ振興会主催の餅つきや運動会、地域のサークルと子育てサロン（も―も―クラブ）との菊見会、川戸保育園の七夕まつり、中学校の盆踊り等、地域行事を通じて、高齢者と児童の交流を図っている。 ・放課後子ども教室に地域住民が協力している。 ・福祉に関する講座を実施しているが、R4年度はコロナ禍で中止。
	7　人にやさしい生活環境づくり	18　防犯対策の推進	・地区部会の見守り隊やお助け隊の協力員から、地域の犯罪被害に関する情報が届くことも多い。 ・町内自治会単位で防犯パトロールや防災訓練を実施している。 ・学校とPTAが、夏休み、冬休み前の年2回、防犯パトロールを実施している。 ・「こども110番のいえ」に地域住民が協力している。
		19　防災体制の充実	・町内自治会単位で防犯パトロールや防災訓練を実施している。 ・地区内の3か所の避難所すべてに避難所運営委員会があり、避難訓練を実施している。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和4年度）個票

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和4年度の実績
松ケ丘地区部会エリア 【人口・世帯数】 11，912人、5，898世帯 【町内自治会数】 36町内自治会 【高齢化率】 28．3% 【地域の特徴】 〇松ケ丘町の一部、仁戸名町の一部、星久喜町の一部、大森町の一部、宮崎町の一部を対象としたエリア。 戦後、京葉臨海工業地帯造成発展に伴い、全国から人が流入し人口が急増。以前は川鉄及びその関連会社に勤める住民が中心であったが、近年はその傾向は減少。平成4年度、千葉急行（現京成電鉄）の大森台駅が開業によりJR千葉駅や東京方面への交通の便が改善され、地区の活性化に役立っている。 活動事業名 ／ 実績に〇印 いきいきサロン：〇 子育てサロン：〇 散歩クラブ：〇 広報紙：〇 ボランティア講座：〇 ふれあい食事サービス：〇 敬老会：〇 見守り活動：〇 支え合い活動：〇	1　身近なコミュニティづくりの推進	1　地域支えあい連絡会の設置・推進	・平成27年5月に「松ケ丘中学校地区地域運営委員会」が設立し、現在、地域の47団体が参加している。 本委員会に4つの部会（円卓会議、地域問題検討部会、広報部会、ふるさとまつり部会。なお、ひだまり運営部会は平成28年度から独立した。）を設け、ホームページによる地域行事等の情報発信、ふるさとまつりの開催など、諸事業に取り組むとともに、円卓会議を月1回開催し、構成団体が、地区の課題や情報を共有した。 特に重要な地域課題については、地域問題検討部会（年4回）において、地区の将来像や地域の実情に合った活動について話し合い、継続的、計画的な住民同士の「助けあい・支えあい」による地域運営に取り組んだ。 地域の各団体の関係が密になり、地域の様々なイベントにおいて協力体制が整ってきており、効果が表れている。 ・地区部会の会議や活動を通じて関係団体との連携を図っている。
		2　支え合い活動の仕組みづくり	・地区部会が、高齢者等を対象に、雑草取り、刈り込み、立木の一部伐採作業等をお手伝いし、ひとり暮らし高齢者等の生活の一部を支援した。 ・地区部会スタッフを中心とした「ひだまり運営委員会」が、住民が気軽に立ち寄れる地域の交流の場を運営した。
		3　見守り体制をつくる	平成27年4月から、地区部会が、ひとり暮らし高齢者や障がいのある方などの内、見守りを希望する方（手上げ方式）及び見守りが必要と思われる方、92世帯に対し、目配りや電話による安否確認を開始し、継続した見守りに取り組んだ。 また、町内自治会や協力員に対し研修会を実施し、見守り活動に対する理解を深めることができた。 定例理事会を開催し、毎月活動報告を行っている。
		4　災害時に支援を必要とする人の避難支援	・地区内の避難所4か所すべてに「避難所運営委員会」が設置されており、避難所運営委員会ごとに訓練を実施している。 ・松ケ丘地区独自の「自主防災・防犯の会」が、地区全体の防災研修会や防災訓練を年2回以上実施している。 ・各町内自治会に自主防災会が組織されており、自主防災会ごとに年2回以上の訓練は実施している。
		5　すべての子どもを地域で育てる	・セーフティウォッチャーは、毎日の下校時、町内自治会長を中心とした各町会（各町会5人程度）が協力している。 ・有志の方が、朝、あいさつ運動を実施している。 ・地区部会のネットワーク委員会が、月・水・金曜日の下校時、青色パトロール車1台で、地区内（主に裏通り）を巡回し、声かけを主体にパトロールしている。また、自主防災・防犯の会も青色パトロール車でパトロールを行っており、地区全体で10台の車両でパトロールを行っている。 ・「こども110番のいえ」にも、地域の方（約180件）に協力いただいている。 ・PTA、地域と小学校が連携し、仁戸名小3年生が高齢者とグラウンドゴルフ、5年生が里山事業（田植え～稲刈り、竹の子掘り等）を実施している。 ・育成委員会と各種団体が連携し、「子どもの広場（年1回から2回に増加）」や「子ども夏まつり」、「新春マラソン大会」を実施し、また、松ケ丘小・仁戸名小・松ケ丘中・淑徳大学で昔あそびを教えている。 ・平成29年度から「子ども食堂」を開始した。月1回実施している。 ・平成31年度（令和元年度）から、活動拠点「ひだまり」で『どこでもこどもカフェ』を開設し、放課後の児童の健全育成や居場所の提供を図っている。
	2　交流の場と仲間づくり	6　ふれあい・いきいきサロンの充実	・地域交流の拠点として「ひだまり」を運営し、月～土曜日、役員が当番制で常駐。誰もがいつでも立ち寄り、地域住民の交流の場となっている。 ・いきいきサロン（高齢者福祉委員会）を年6回、3会場で開催している。また、活動拠点「ひだまり」にて『ゆうあいひろば』を月1回（祝日は休み）開催している。年々参加者が増加している。 ・活動拠点「ひだまり」で、『カラオケサロン（毎月第2・第4火曜日）』を開催し、地域住民の交流の機会を提供している。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和4年度）個票

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和4年度の実績
松ケ丘地区部会エリア	2　交流の場と仲間づくり	7　地域での健康づくり支援の充実	地区部会では、「いきいきサロン」や高齢者向けの集いの場「ゆうあいひろば」のメニューとして淑徳大学看護栄養学部の協力を受け、介護予防やひきこもり防止の講話（相談含む）を行った。 また、「いきいき散歩クラブ（高齢者福祉委員会）」を月２回開催した。 さらに、千葉市のシニアリーダー養成講座修了者と協力し、松ケ丘公民館（週１回）、恵光園（週１回）、仁戸名自治会館（週１回）、第３公園（週１回）でシニアリーダー体操を実施し、高齢者の健康維持・増進を図った。 あんしんケアセンターでは、さくら会館で健康体操を実施した。 各町内自治会では、有志によるグラウンドゴルフは盛んに行われ、大会を年３回開催している他、スポーツ振興会が年２回、大会を開催している。 「淑徳大学看護栄養学部」と「ひだまり運営委員会」が連携し、「淑徳オレンジカフェ」を月１回開催した。
		8　地域でのスポーツ活動及び文化活動の推進	・PTA、地域と小学校が連携し、仁戸名小3年生が高齢者とグランドゴルフ、5年生が里山事業（田植え～稲刈り、竹の子掘り等）を実施している。 ・育成委員会と各種団体が連携し、「子どもの広場（年１回から2回に増加）」や「子ども夏まつり」、「新春マラソン大会」を実施し、また、松ケ丘小・仁戸名小・松ケ丘中・淑徳大学で昔あそびを教えている。
		9　子育てサロンの充実	・子育てサロン（児童母子福祉委員会）を年9回実施しているが、コロナ禍で中止。毎年、淑徳大学看護栄養学部の協力を受け、幼児相談や母親相談を取り入れて活動しているが、今後も同学部と連携、協力し継続する。
		10　障がい者との相互理解と地域住民等との交流の推進	・地区部会が、松ケ丘小学校4年生を対象に、車いすバスケットボールの選手を講師に迎え、車いすバスケットの体験を予定していたが、コロナ禍で中止。 ・今後も、小・中学生を対象にした車いす体験を実施していく予定である。
		11　世代間交流の場の提供	・地区部会スタッフを中心とした「ひだまり運営委員会」が、月曜日から土曜日の間、役員が当番制で開設し、誰もがいつでも立ち寄れる地域住民の交流の場を提供した。高齢者の交流を中心に、小、中学生の自習や友人との交流の場として利用されている。地域の各種団体の会議やイベント、親睦の場としても使用されており、他地区からの見学も増えている。 ・毎週金曜日の17:00～20:00に「大人の時間」を実施し、地域住民の交流の場を提供している。地域のことについて意見交換を行い、意思疎通を図っている。 ・地域運営委員会が「ふるさとまつり」を実施し、誰でも参加できるイベントで交流を図った。 （R3年度は中止）
	3　社会参加の推進	12　高齢者の地域社会での福祉活動の促進	・民生委員が中心となり、都苑への施設見学や手伝いを行っている。 ・地域の高齢者が「お助け隊」のボランティアとなり、活動を行っている。また、地域行事には、高齢者がボランティアとして参加している。
		13　障がい者の地域社会での福祉活動の促進	・№10と同様
	4　地域の福祉力向上、担い手づくり	14　地域で福祉に関する講座や研修会等の受講機会の提供	・年2回、ボランティア委員会で講座を実施している。 ・淑徳大学看護栄養学部と連携し、「ひだまり」で月２回（第１・第３月曜日）、健康や栄養相談を実施している。 ・月１回開催している「淑徳オレンジカフェ」では、認知症に関する理解の普及に努めている。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和4年度）個票

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和4年度の実績
松ケ丘地区部会エリア	5　相談体制、情報提供の場づくり	15　相談体制・情報提供の充実	松ケ丘中学校区地域運営委員会が毎月開催している「円卓会議」で各団体のイベントや活動の情報収集及びPRに努め、運用するホームページにより、地域のイベントや出来事を掲載するとともに、「ひだまり」にサークル紹介や各団体のチラシを掲載、配布して情報発信に努めた。 また、地区部会でもホームページを開設し、情報発信を行っている。 なお、「ひだまり」に役員が当番制で常駐し、問い合わせに対応し、その場で回答できないものは関係団体から回答する体制を整え、誰でも気軽に出入りでき、多世代の方が相談できる環境づくりに取り組んだ。
		16　福祉情報紙の充実と「中央区ふくし・防災ガイド＆マップ」の活用	・年3回社協だよりを発行し、地域の協力者を通じて全戸配布している。 ・「ひだまり」にも、市の便利帳や各種情報を掲載している冊子を置いている。 ・松ケ丘小学校地区の町内自治会の「防災マップ」を作成している。 ・松ケ丘中学校地区地域運営委員会が運用するホームページにより地域のイベントや出来事を掲載し、情報発信に努めた。 ・松ケ丘地区部会のホームページを開設し、情報発信を行っている。
	6　福祉教育の推進	17　地域での福祉教育の推進	・ジュニアボランティア隊を結成し、各イベントの手伝いを行っている。 ・淑徳大学看護栄養学部の学生と高齢者との意見交換会を実施している。 ・地区部会が、淑徳大学看護栄養学部の学生に、看護実習などの際、高齢者とのコミュニケーション手段として役立ててもらうため、年1～2回、昔遊び等を教えている。 ・放課後子ども教室に地域住民が協力している。 ・松ケ丘小3年生、仁戸名小5～6年生に地域の歴史や昔話を伝える授業に、地区部会が協力している。 ・松ケ丘小学校が「まち探検」を行っており、地域の方が質問に答える等、協力している。 ・年2回、ボランティア委員会で講座を実施している。 ・松ケ丘小の地域の様々なボランティアの話を聞く授業に協力している。 ・淑徳大学看護栄養学部と連携し、「ひだまり」で月2回、健康や栄養相談を実施している。 ・月1回開催している「淑徳オレンジカフェ」では、認知症に関する理解の普及に努めている。
	7　人にやさしい生活環境づくり	18　防犯対策の推進	・「まちの交番」として移動交番が月1回、「ひだまり」を利用している。 ・自主防災会が、青色パトロール車（10台）で毎週土曜日に巡回活動を行っている。 ・地区部会のネットワーク委員会が月・水・金曜日の下校時、青色パトロール車1台で、地区内（主に裏通り）を巡回し、声かけを主体にパトロールしている。 ・「こども110番のいえ」にも地域の方（約180件）に協力いただいている。
		19　防災体制の充実	・№4と同様

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和4年度）個票

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和4年度の実績
星久喜地区部会エリア 【人口・世帯数】 11，802人、6，040世帯 【町内自治会数】 24町内自治会 【高齢化率】 26．5% 【地域の特徴】 〇矢作町、星久喜町の一部、松ケ丘町の一部、青葉町の一部を対象としたエリア。 かつては純農村地帯だったが、東金有料道路の開通・宅地化の波とともに、世帯数も増加した。 「千葉市都市緑化植物園」「青葉の森公園」などの公共施設を抱え、緑に囲まれ恵まれた環境にある。 実施事業 ／ 実施に〇印 いきいきサロン ／ 〇 子育てサロン ／ 〇 散歩クラブ ／ － 広報紙 ／ 〇 ボランティア講座 ／ 〇 ふれあい食事サービス ／ － 敬老会 ／ 〇 見守り活動 ／ 〇 支え合い活動 ／ －	1　身近なコミュニティづくりの推進	1　地域支えあい連絡会の設置・推進	地域運営委員会では、地域団体の事業日程調整を行い、理事会を開催し、共通理解、連携強化に努めた。 地域運営委員会のホームページを随時更新し、情報発信に努めた。
		2　支え合い活動の仕組みづくり	・主に民生委員が個別の相談応対に当たっている。また、あんしんケアセンターなどにも相談している。
		3　見守り体制をつくる	・23町内自治会で、高齢者等に対し、各町内自治会の班長が、日常的な目配りによる安否確認を行い、継続して見守り活動を行っている。 各班長に「見守り協力員の証」を配付し、何か気づいたことがあれば、民生委員や自治会長に連絡する体制を整えている。
		4　災害時に支援を必要とする人の避難支援	・地区内にある3か所の避難所全てに避難所運営委員会が設立されており、避難所ごとに訓練を実施している。 また、各町内自治会の班長が見守り協力員になっており、日常の見守り活動を災害時にも生かす仕組みとしている。 ・町内自治会単位でも防災訓練を実施している。
		5　すべての子どもを地域で育てる	・地区部会及び青少年育成委員会等が、子どもたちの安全を守るため、毎日の登下校時にセーフティウォッチャー活動を実施した。 ・青少年育成委員会が、長期休暇前の学区点検を実施した。 ・育成委員会と地区部会が共催している書き初め練習会・書き初め展示会を実施し、子どもたちとの交流を図った。 ・育成委員会と公民館共催の「プチ夏祭り」においてスイカ割りや、「怖い話」の朗読を実施した。 ・「お泊りイン星久喜」は中止になったが、代替え事業として、凧作りと凧あげ大会を開催した。
	2　交流の場と仲間づくり	6　ふれあい・いきいきサロンの充実	地区部会が70歳以上の高齢者を対象に、青葉の森公園・都市緑化植物園の散策・クリスマスお楽しみ会などのいきいきサロンを年8回（内1回は落語）実施し、高齢者の仲間づくりや健康維持に取り組んだ その他、脳トレサロンを前期10回、後期10回、わくわくサロンを10回開催し、高齢者の認知症やフレイルの予防に取り組んだ。
		7　地域での健康づくり支援の充実	・スポーツ振興会が中心となって、グラウンドゴルフ大会などを開催している。 ・スポーツ振興会が実施している「ふれあい大運動会」では、高齢者が参加する競技を取り入れている。 ・スポーツ振興会が、バスハイキングを実施し、高齢者が多く参加している。 （※　スポーツ振興会主催事業は、コロナ禍で、ほぼ中止となった。） ・いきいきサロンでも青葉の森公園や都市緑化植物園での散策が行われている。 ・青葉の森ラジオ体操会が、青葉の森公園中央広場で、毎朝、ラジオ体操を行っている。 ・一部の町内自治会が、あんしんケアセンター松ケ丘と連携し、介護予防や健康づくりの取り組みを行っている。 ・脳トレサロンにおいて、笑いヨガ・体操の時間を設けている。
		8　地域でのスポーツ活動及び文化活動の推進	・育成委員会と地区部会で年末に書初めの練習会・年明けに書初め展示会を開催している。 ・育成委員会と公民館が共催し、凧作り、凧あげ大会を開催した。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和4年度）個票

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和4年度の実績
星久喜地区部会エリア	2　交流の場と仲間づくり	9　子育てサロンの充実	地区部会が子育て中の親子を対象に、年10回、都市緑化植物園のお散歩、読み聞かせ、歯科衛生士さんのお話、栄養士さんのお話、クリスマスお楽しみ会、七夕等を内容とした子育てサロン「トントンルーム」を実施し、仲間づくりに取り組んだ。
		10　障がい者との相互理解と地域住民等との交流の推進	公民館文化祭が中止になったので、障がい者福祉委員会による作業所作品販売のお手伝いは中止となった。
		11　世代間交流の場の提供	コロナ禍で、参加者、関係者の安全を守るため、敬老会をはじめ運動会、お泊り会の行事は中止となったが、代替え事業として、「バス日帰り旅行」を開催した。
	3　社会参加の推進	12　高齢者の地域社会での福祉活動の促進	・毎朝、星久喜小学校通学路においてセーフティウォッチャー活動を実施した。
		13　障がい者の地域社会での福祉活動の促進	・No.10と同様
	4　地域の福祉力向上、担い手づくり	14　地域で福祉に関する講座や研修会等の受講機会の提供	障がい者福祉委員会、ボランティア委員会による「人や地域とつながった暮らし」をテーマとした研修会を実施した。
	5　相談体制、情報提供の場づくり	15　相談体制・情報提供の充実	・民生委員や地区部会事業のボランティアが個別の相談応対に当たっている。地区部会役員はパイプ役を担っている。 ・認知機能の低下を防ぐ効果が期待できることから、脳トレを月２回2会場で開催した。併せて、参加者の相談に対応するため、あんしんケアセンターと連携した。
		16　福祉情報紙の充実と「中央区ふくし・防災ガイド＆マップ」の活用	・広報紙「ふくし」を年２回発行している。 ・緊急ノートを独居と75歳以上高齢者を対象に配布しており、対象世帯と民生委員がそれぞれ保管している。
	6　福祉教育の推進	17　地域での福祉教育の推進	・障がい者福祉委員会、ボランティア委員会による「人や地域とつながった暮らし」をテーマとした研修会を実施した。
	7　人にやさしい生活環境づくり	18　防犯対策の推進	・こども110番のいえを実施している（約100軒）。 ・一部の町内自治会では、防犯パトロールを実施している。
		19　防災体制の充実	・No.4と同様

花見川区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和4年度）総括表

【達成状況の目安】
◎：年度目標以上のものが達成できた場合
〇：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合
×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合

◆基本方針別取組状況

基本方針	取組項目数	重点取組項目数	重点取組項目の達成状況		主な取組内容
1 心身の健康と交流の場づくり	10	10	◎		・2年間中止であった「障害者バス旅行」を再開。「健康体操」「ふれあいコンサート」も実施できた。【朝日ヶ丘】 ・サロン、散歩クラブは、コロナ禍でも継続実施することができた。【犢橋】 ・コロナ禍でこども食堂の開催が難しかったため、フードパントリーを継続実施した。【犢橋】 ・コロナ禍で中止となっていたイベント（落語会、ボッチャ体験会）を開催することができた。【犢橋】 ・「いきいきサロン」は計画どおり実施できたが、「食事サービス」は、1回も実施できなかった。【幕張・武石】 ・ふれあい3事業は85ヵ所のうち、67ヵ所で開催された。【花見川】 ・敬老会は柏井小学校区6町内自治会（合同）とソレイユ鷹の台自治会の2会場で実施された。【花見川】 ・柏井小学校区の子ども会を中心に「みんなで歩いてビンゴ」を実施した。【花見川】 ・認知症や障害のある方、その家族等が集える場の検討を行い、適当な場所の確保に努めた。【こてはし台】 ・全世代参加型新規事業の設立の検討を行い、次年度の検討委員会への提案が可能となった。【こてはし台】 ・地域内のいきいきサロン（3か所）の活動を再開することができた。【天戸】 ・地域内の2ヵ所で、敬老祝賀会を再開することができた。【天戸】 ・敬老会未開催地区の対象者から強い要望があり、「いきいきサロン」で忘年会を開催した。【天戸】 ・中止が続いていた「福祉まつり」の再開に向け、地域で「あいさつキャンペーン運動」を実施した。【さつき】 ・2年間中止となっていたグラウンドゴルフ大会を3年ぶりに開催することができた。【幕張本郷】
			〇	3	
			△	6	
			×	1	
2 支え合い、助け合いのできる地域社会づくり	16	16	◎		・「見守り活動団体交流会」に参加し、他地区の活動内容や課題・問題点などを学んだ。【検見川、こて台中】 ・「花園おせっかい」活動は、チラシ、ポスターによる声掛け活動を実施した。【花園】 ・伝統的な活動（サロン、食事会、敬老会等）を継続し、住民同士の顔の見える関係づくりに努めた。【花園】 ・あんしんケアセンターや消費生活センターと連携し、講演会を実施した。【朝日ヶ丘】 ・見守り対象者の現状見直しアンケートを実施。また、対象者向けに「見守りたより」を発行した。【こて台中】 ・各町内自治会において、災害時要支援者の支援体制を構築することができた。【幕張・武石】 ・認知症サポーター養成講座を開催し、認知症に対する理解を深め、ステップアップを図った。【幕張・武石】 ・見守り対象者の拡大に取り組んだが、1町内会では減少、1町内会では現状維持であった。【花見川】 ・地域ケア会議に出席し、地域の実情等の発信を行った。【花見川】 ・花見川団地内の支え合い活動を継続実施するとともに、他地域への活動普及啓発に努めた。【花見川2】 ・地域ケア会議に参加し、「訪問介護事業者の車輌駐車問題」についての解決策を決定した。【こてはし台】 ・いきいきサロンにあんしんケアセンターやいきいきプラザの職員を招き、参加者の相談に対応した。【天戸】 ・「避難行動要支援者名簿」を活用しての発災時保護計画の立案を行った。【天戸】 ・緊急通報システム設置の推進を行った。【天戸】 ・発災時の在宅避難・分散避難への移行に伴い、地域内の指定避難施設数の拡大を行った。【天戸】 ・「ボランティアだより」の内容をより分かり易く便利なものとして発行し、普及啓発活動に努めた。【さつき】 ・朝のゴミ出し支援を継続実施した（希望者なし）。【畑】
			〇	9	
			△	6	
			×	1	
3 地域情報の発信と人材発掘・育成の仕組みづくり	7	7	◎		・広報紙の内容を従来の報告型から啓発型の記事に変え、発行回数を増やした（R3…2回→R4…4回）。【朝日ヶ丘】 ・新たな担い手の育成・確保に向け、広報紙を通じた啓発活動に努めた。【花見川第2】 ・子どもの居場所立ち上げに向けて、関係機関との会合や他地区の活動の視察を行った。【花見川第2】 ・ホームページの内容修正について、コロナ禍により作業が遅れたが年度後期に着手し修正を行った。【こてはし台】 ・広報紙の定期発行再開と、ホームページ、メールマガジンの立ち上げを行った。【天戸】
			〇	3	
			△	2	
			×	2	
4 安全・安心なまちづくり	3	3	◎		・避難所ごとに、避難所開設運営訓練が行われた。【花園】 ・「花園おせっかい活動」で、防犯・防災に関するポスターを作成し、啓発活動を行った。【花園】 ・避難所運営マニュアルは更新なし（一部自治会で更新）。【花見川】 ・各町内会で防犯・防災訓練が実施された（ 花見川住宅自治会（11月）、鷹の台自治会（1月）、新鷹の台第二自治会（2月））【花見川】 ・パトロール（平時・歳末）が、4町内自治会で実施された。【花見川】
			〇	1	
			△	1	
			×	1	
今年度の振り返り	36	36	◎	0	今年度も新型コロナウイルス感染の爆発的な流行期間があり、コロナの影響を大きく受けた1年であった。そんな中で、久しぶりに地域イベントが再開できた地域もあり、対面方式での敬老会の開催に至った地域もあった。コロナ禍では、なかなか再開の見込めない活動（食事を伴う活動など）も、再開に向けた準備や検討を行ったり、手法を変えて実施したりした地域も出てきており、来年度に向けて明るい兆しが見え始めてきていると感じている。
			〇	16	
			△	15	
			×	5	

今後の課題と方針	新型コロナウイルスも第5類へと移行され、今まで停滞が続いていた地域活動の再開が大きな課題となると思われる。しかし、停滞期間が長期に渡り続いたことで、担い手の高齢化も進み、本来であれば若い世代に受け継がれていくノウハウの継承もないまま時が過ぎてしまっており、地域活動再開の妨げとなっている。若い世代の担い手を取り込み、先人たちの取組みを継承しつつ、新たな活動にも取り組んでいく必要があると思われるが、地域住民や行政、民間企業、学校など、様々な機関が協働して地域福祉を盛り上げていく必要がある。今年度は、花見川区の一大イベントである「花見川区民まつり」を再開するなど、花見川区一丸となって地域活動活性化の気運を高めていきたい。

◆区支え合いのまち推進協議会開催状況

回数	開催日	主な議題
第1回	7月25日（月）	（1）花見川区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況（令和3年度）について （2）花見川区支え合いのまち推進計画（第5期花見川区地域福祉計画」）について
第2回	12月12日（水）	・第5期花見川区支え合いのまち推進計画の進捗状況（令和4年度）中間報告について ・推進協だより（第24号）原稿案について ・花見川区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況（令和3年度）について
第3回	令和5年 3月10日（金）	・第5期花見川区支え合いのまち推進計画の進捗状況（令和4年度）について ・推進協だより（第24号）について

◆区支え合いのまち推進協議会だより発行状況

号数	発行日	発行部数及び主な配布先
第24号	令和5年 3月15日（水）	発行部数：6,000部 主な配布先：各町内自治会へ郵送、窓口配布270部

◆区の地域福祉に関する紹介事例等

犢橋地区部会エリア『フードパントリー』

犢橋地区部会では、地域の子どもたちがみんなで食事を楽しめる場、また大人たちともお話ができる居場所として、平成29年度より子ども食堂を開催、ふるさと農園の調理室で月1回、毎回約10名の子どもたちやその保護者が参加しておりました。

しかし、コロナの影響により、飲食を伴う活動の開催は難しくなってしまいました。そこで、「コロナ禍だからこそ、子どもたちに元気を与えたい」という想いから始めたのが、この食品や日用雑貨を無料で提供する「フードパントリー」です。現在年間5回程度、土曜日の午前中に、ふるさと農園の正面入口で開催しています。この日（R5.3.4）は、約20名の子どもたちが利用しました。今では、毎回楽しみに訪れる子どもたちもおり、地域の方々からの食品・食材の寄附も増え、この地域の新たな行事として定着しつつあります。

花園地区部会エリア『グラウンドゴルフと公園清掃』

花園地区部会では、平成26年より千葉市から公園清掃協力団体の指定を受けておりますが、公園清掃は公園でグラウンドゴルフをプレーする高齢者が実施、毎週水曜日の午前中に活動しております。

この日（R5.2.22）は、朝早くから13名の参加者が集合、まず公園清掃から活動が始まりました。今回は落葉が2袋程度でしたが、多い時期には20袋も集まるそうです。公園清掃の後は、ラジオ体操を行い、グラウンドゴルフが始まりました。なんと10ホール2ラウンドを2セット行うとのことです。これを毎週行っているとのことで、参加者の皆さまの体力にはびっくりしました。

屋外の活動なので、感染のリスクも少なく、参加者数も、ほぼコロナ前の状況に戻っています。公園も明るくきれいになったことで、公園の利用者も増え、いいことづくしの取組となっております。

さつきが丘・宮野木台地区部会エリア『あいさつ運動』

さつきが丘・宮野木台地区部会では、地域の誰もが福祉に親しむことができる楽しいお祭り「福祉まつり」を平成21年より開催、令和元年には10周年を迎え、地区部会のメインイベントとして地域の皆さまに親しまれてきました。

しかし、コロナの影響で3年間中止、「このままでは、地域の団結力が弱まってしまう、来年度の『福祉まつり』開催につなげるためのイベントを開催しよう」と役員会で考え、地区部会のスローガン ～「あいさつで 笑顔あふれる やさしいまちに」～ を具体化する『あいさつ運動（R4.12.9）』を、実施することを決めました。街頭で、約30名の地区部会スタッフが、行き交う人に、チラシ、マスク、ポケットティッシュ、ペーパータオルの入ったファイルを配布しました。コロナ禍以前の「あいさつが飛び交う明るいまち」が戻るよう、願いを込めて活動しました。

花見川地区部会エリア（鷹の台自治会）『健康寿命延伸プロジェクト』

鷹の台自治会（花見川地区部会エリア）では、「高齢者が健康で、それぞれの役割を担いながら、住み続けられる街をつくる」ことを目的に、令和2年度より、「健康寿命延伸プロジェクト」という取組みを行っています。

このプロジェクトでは、あんしんケアセンターや いきいきプラザなどの専門職が講師となり、高齢者のフレイル（虚弱）予防の体操や、健康、認知症予防に関する講義などが行われています。現在は、毎月（基本は2ヵ月に1回、現在は三密回避のため2班に分け実施）、第1月曜日の午前中に約20名の高齢者が自治会館に集まり、この取り組みに参加しております。月1回の開催ではありますが、参加者には万歩計も配られ、「普段の生活の中でもフレイル予防を！」を合言葉に、いつまでも健康でいられるよう、健康寿命延伸への挑戦を行っております。

花見川区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和4年度）個票

【達成状況の目安】
◎年度目標以上のものが達成できた場合
○年度目標が概ね達成できた場合
△年度目標の一部が達成できた場合
×年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合

地区部会エリア	重点取組項目	基本方針	取組項目	令和4年度の目標	令和4年度の実績	達成状況	令和5年度の目標	今後の課題と方針
検見川地区部会エリア 【人口・世帯数】 12,574人、　6,637世帯 【町内自治会数】 5町内自治会 【高齢化率】 19.5% 【地域の特徴】 検見川神社を中心とした古い町。	○	**2 支え合い、助け合いのできる地域社会づくり**	⑥ ・要支援者等への見守り活動・安否確認活動を実施したり、緊急通報装置や安心電話の設置の普及を図ります。また、その充実・強化を図ります。 ・要支援者等への生活支援のための活動（買い物、ゴミだし、外出支援等）に取り組みます。また、その充実・強化を図ります。	住民同士による高齢者を見守る体制を構築し、高齢者が安心して暮らせる街づくりを推進するため、他地域の活動等を調査し、実施に向けた検討を行う。	花見川区内で見守り活動を行っている団体が集まり開催された「見守り活動団体情報交換会・交流会」に参加し、他地区の活動内容や課題・問題点などを学んだ。	△	住民同士による高齢者を見守る体制を構築し、高齢者が安心して暮らせる街づくりを推進するため、地域の町内自治会や民児協と連携・協議し、見守り活動をどう進めていくか協議する。	見守りを必要とされている方や地域のニーズの調査を行う。
	○	**3 地域情報の発信と人材発掘・育成の仕組みづくり**	⑪ ・地域での声かけをしたり、地域でのイベント、広報紙（地区部会だより）、区ボランティアセンターを活用し、ボランティアの発掘や育成に努めます。	ボランティアの発掘・育成に向け、広報紙や区ボランティアセンターを通じてボランティア募集活動に努める。	今年度より、エリア内にある地域密着型通所介護事業所「かなでplus検見川」の運営推進会議に参加し、視野を広げることに努めた。そのほかは、コロナ禍による活動の自粛が続いており、活動ができなかった。	×	引き続き、ボランティアの発掘・育成に向け、広報紙や区ボランティアセンターを通じてボランティア募集活動に努める。	まずは、地区部会活動の再開を目指し、再開できた折には、活動の中での声掛けや広報紙等による広報活動に努める。
	○	**3 地域情報の発信と人材発掘・育成の仕組みづくり**	⑬ ・地域住民やこどもに地域の魅力や福祉をテーマとした研修・講座を開催します。 ・地域住民やこどもに地域福祉活動の体験の場を提供します。	地域住民や子どもたちを対象にしたボランティア養成講座を開催し、ボランティアの増員に努める。令和4年度は、講座の内容、参加者や講師の選定等、講座開催の準備を進める。	令和4年度は、コロナ禍による活動の自粛が続いており、活動ができなかった。	×	引き続き、地域住民や子どもたちを対象にしたボランティア養成講座を開催し、ボランティアの増員に努めるため、講座の内容、参加者や講師の選定等、講座開催の準備を進める。	活動の自粛が3年間続いているため、まずは今いるスタッフの中で、活動に向けた気運を高めていく。
花園地区部会エリア 【人口・世帯数】 20,951人、　9,845世帯 【町内自治会数】 18町内自治会 【高齢化率】 23.4% 【地域の特徴】 JR新検見川駅北側に展開する古くからの住宅地と花見川区役所を中心とする新しい住宅地（高層マンション群を含む）からなる。東大総合グラウンドに隣接、東西に貫く桜並木は有名。西側に花見川、千本桜緑地がある。	○	**2 支え合い、助け合いのできる地域社会づくり**	④ ・隣近所や地域において、あいさつ・声かけによる気配り・心配りを行い、顔の見える関係づくりに努めます。	・「花園おせっかい」の活動継続 ・普及・啓発活動の推進（地区部会だより、リーフレット、ポスター） 花園地区部会の伝統的な活動を継続実施し、地域の住民同士の顔の見える関係づくりに努める。 ①高齢者福祉：敬老会・ふれあい食事会 ②児童母子：子育てサロン・親子の集い（音楽会など） ③健康：公園清掃・グラウンドゴルフ ④ボランティア：いきいきサロン ⑤福祉ネット：啓発ポスター・チラシの作成・見守り新鮮情報 ⑥広報：地区部会だより ⑦重点取組み項目：「花園おせっかい」「避難所に関する情報交換」「イベントの再開対応」 ⑧防災訓練の実施：各避難所の避難所開設・運営訓練 ①～⑧を実施する。	・「花園おせっかい」は、チラシ・ポスターを計画通り発行した。 ①高齢福祉：敬老会はコロナを考慮して中止したが、75歳以上の該当者全員に記念品を贈った。配布は202地区民児協民生委員による手渡しとし、好評を得た。ふれあい食事会は、2回とも中止とした。 ②児童母子：子育てサロンは、自粛で回数は減少したが、継続実施した。親子の集い：音楽会はコロナ禍のため、中止とした。 ③健康：公園清掃・グラウンドゴルフは、回数は減少したが、継続実施した。また、回覧による会員募集を実施した。 ④ボランティア：いきいきサロンはコロナ禍の下でも継続して実施している。 ⑤福祉ネット：向こう三軒両隣の声掛け（おせっかいシリーズの発行）、防犯対策について、特殊詐欺啓発　等のポスターを発行した。 ⑥広報：地区部会だよりを発行した。 ⑦重点取組み項目：「花園おせっかい」は、チラシ・ポスターを計画どおり発行した。 ⑧「避難所に関する情報交換」：避難所ごとに、避難所開設運営訓練が行われた。	○	花園地区部会の伝統的な活動の継続実施及び「花園おせっかい」の活動を通じ、地域の住民同士の顔の見える関係づくりに努める。 ①高齢者福祉：敬老会・ふれあい食事会 ②児童母子：子育てサロン・親子の集い（音楽会など） ③健康福祉：公園清掃・グラウンドゴルフ ④ボランティア：いきいきサロン ⑤福祉ネット：啓発ポスター・チラシの作成・見守り新鮮情報 ⑥広報：地区部会だより ⑦重点取組み項目：「花園おせっかい」「避難所に関する情報交換」「イベントの再開対応」 ⑧防災訓練の実施：各避難所の避難所開設・運営訓練 ①～⑧を実施する。	・向こう三軒両隣の発展系としての助け合い 花園地区部会の伝統的な事業の再開を目指す。 ・敬老会の完全実施 ・ふれあい食事会の実施 ・親子の集い、音楽会、イベントの実施 ・子育てサロンの拡充 ・公園清掃の継続、グラウンドゴルフの拡充 重点項目の実施 ・花園おせっかい：向こう三軒両隣の発展系としての助け合い ・避難所運営マニュアルの理解と対応（社協の持ち場、立場　等） ・コロナ禍により制約されてきた活動の再開準備
	○	**2 支え合い、助け合いのできる地域社会づくり**	⑦ ・災害時要支援者支援体制を構築します。そして、体制構築後は、体制の充実・強化を図り、研修会や訓練などを実施します。	「花園おせっかい」の活動を継続実施しながら、災害時の安否確認体制について他地域の活動等の調査・研究を行う。	・福祉ネット：おせっかいシリーズの防犯対策として、特殊詐欺啓発ポスターを発行した。 ・重点取組項目「花園おせっかい」：チラシ・ポスターをシリーズ化して配布した。 ・「避難所に関する情報交換」：きずなを深める手段として、おせっかいルートを活用。	○	・「花園おせっかい」の活動を通じて、地域へ災害に対する備えに関する呼びかけを行う。 ・避難所開設訓練に参加し、災害時における「花園おせっかい」活動の活用方法について調査・研究を行う。	・花園地区部会の伝統的な事業（敬老会、ふれあい食事会、親子の集い 音楽会、子育てサロンなど）の機会を捉えて「花園おせっかい」の更なる浸透を図る。 ・花園おせっかい：向こう三軒両隣」の発展系としての助け合い ・避難所の運営マニュアルの理解と対応（災害時+感染症蔓延時など） ・情報の把握・伝達の向上
	○	**4 安全・安心なまちづくり**	⑮ ・防災訓練を実施します。 ・避難所開設・運営訓練を実施します。 ・新型コロナウイルス等感染症に対応した避難所運営委員会マニュアルの見直しを行います。	防災・災害時における地区部会の立場、対応方針、訓練参加などについて関係機関と情報交換を行う。	・避難所ごとに、避難所開設運営訓練が行われた。 ・福祉ネット：おせっかいシリーズの防犯対策として、特殊詐欺対応の啓発ポスターを発行した。 ・重点取組項目「花園おせっかい」：チラシ・ポスターをシリーズ化して配布した。 ・「避難所における情報交換」：きずなを深める手段として、おせっかいルートを活用。	○	各避難所では避難所運営委員会により、防災マニュアルや防災マップを活用して、避難所訓練を行っている。また、災害時の安否確認、分散避難食料支援などは避難所ごとの条件が異なり、それぞれの自治会の判断により、多少違いがみられる。引き続き、社協の立場、対応方針、訓練参加などについて関係機関と情報交換を密にして、対応していく。	避難所運営マニュアルの理解と対応（災害時＋感染症蔓延時など） ・社協の持ち場・立場からの協力

花見川区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和4年度）個票

【達成状況の目安】
◎年度目標以上のものが達成できた場合
○年度目標が概ね達成できた場合
△年度目標の一部が達成できた場合
×年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合

地区部会エリア	重点取組項目	基本方針	取組項目	令和4年度の目標	令和4年度の実績	達成状況	令和5年度の目標	今後の課題と方針
朝日ケ丘地区部会エリア 【人口・世帯数】 10,802人、　5,418世帯 【町内自治会数】 12町内自治会 【高齢化率】 38.1% 【地域の特徴】 戸建、団地、マンションの混じった住宅地。	○	**1 心身の健康と交流の場づくり**	③ ・世代の違いや障害の有無を超えた交流やイベントなどを実施します。 ・高齢者施設や障害者施設などでのボランティア体験や施設主催のイベントへ参画します。	ふれあい食事会、ふれあい喫茶、障害者バス旅行、いきいきサロン、子育てサロン、健康体操など、交流の場やイベントを開催する。今後のコロナの動向によって活動全般を復活できるか否かは定かではないが、「ふれあいコンサート」は、継続実施したい。	今年度は、コロナ禍で2年間中止となっていた「障害者バス旅行（「海ほたる」、パン工房「八天堂きさらづ」）」を再開することができた。また、健康体操3回と障害者バス旅行の代替事業として始めた「ふれあいコンサート」も実施することができた。	○	コロナ以前の活動を取り戻すべく、ふれあい食事サービス、ふれあい喫茶、ふれあいコンサート、障害者バス旅行、いきいきサロン、子育てサロン、健康体操など、交流と介護予防活動に重点を置いて実施していく。	コロナで中止が続いている活動の再開を目指す。
	○	**2 支え合い、助け合いのできる地域社会づくり**	⑩ ・地域福祉活動にあたり、民生委員、町内自治会、あんしんケアセンター、障害者基幹相談支援センター、学校、社会福祉事業者、企業、ボランティア団体、NPO、企業など地域の多様な主体との連携強化を図ります。	・地区内町内自治会、あんしんケアセンター、小中学校、公民館、社会福祉事業者との連携を維持・強化し、支え合い・助け合いのできる地域社会づくりに努める。 ・あんしんケアセンターとの連携による講演会（「交流ふれあい広場」）を開催する。 ・消費生活センターとの連携による講演会（「交流ふれあい広場」）を開催する。	あんしんケアセンターと連携し、「健康年齢」についての講演会を実施、約30名の方々に参加いただいた。また、消費生活センターと連携し、「身近なところからSDGs」と「悪質商法の手口」についての講演会を実施、約30名の方々に参加いただいた。	○	・アフターコロナ、もしくはウィズコロナの状況に合わせて、従来の活動の復活、再生を図る。 ・あんしんケアセンターとの連携による講演会（「交流ふれあい広場」）を開催する。 ・消費生活センターとの連携による講演会（「交流ふれあい広場」）を開催する。	アフターコロナ、もしくはウィズコロナの状況に合わせて、従来の活動の復活、再生を図る。
	○	**3 地域情報の発信と人材発掘・育成の仕組みづくり**	⑫ ・広報紙の発行やホームページ、SNS、集いの場、イベントなどでの地区部会活動や地域福祉情報を発信します。	コロナ禍で、広報活動が地区部会と住民をつなぐ希少な活動であることから、広報紙を従来の報告型から啓発型の記事に内容を変えて、発行回数を増やすべく、活動する。	広報紙「ふれあい」を年4回発行し、地区部会の活動紹介や、介護予防のための情報等の発信を行った。令和3年度は、2回の発行であったが、令和4年度は4回発行することができた。	○	これまでの広報紙発行を続けながら、SNSを通しての広報活動の方策の検討を始める。 （他地区の事例調査、広報に関する住民、関連団体の意向調査など）	SNSを通しての広報活動の方策について検討を行う。
犢橋地区部会エリア 【人口・世帯数】 10,442人、　5,385世帯 【町内自治会数】 15町内自治会 【高齢化率】 30.6% 【地域の特徴】 昔からの農村地域（犢橋町）と昭和30年代に開発された新興住宅地があり、戸建て住宅の多い地域。	○	**1 心身の健康と交流の場づくり**	① ・いきいきサロン、散歩クラブ、健康体操、ふれあい食事サービスなどを実施します。 ・子育てサロン、こども食堂、こどもカフェなどを実施します。 ・要支援者（認知症高齢者・要介護者・障害者）やその家族が集える場づくりを行います。	・「いきいきサロン」「散歩クラブ」「シニア体操教室」を継続実施する。 ・調理や食事を伴う行事に代わり、「フードパントリー」を継続する。 ・コロナ禍においても開催できる行事をまず実施する。	・ふれあい3事業（いきいきサロン、散歩クラブ、子育てサロン）は、コロナ禍でも継続実施することができた。 ・コロナ禍でこども食堂の開催が難しかったことから、フードパントリーを継続実施した。 ・犢橋地域福祉交流館にて、「落語会（5年ぶりの開催）」と「ボッチャ体験会」をセットで開催し、地域の方々に楽しんでいただけた。	○	・ふれあい3事業、散歩クラブへの参加グループの追加加入を図る。 ・いきいきプラザ等とタイアップした運動教室の開催やシニアリーダー体操を推進する。 ・子供向けイベントの開催（子ども防災教室など）を検討する。 ・落語会などの文化的なイベントを企画して、住民が気軽に集える場づくりに努める。	・こども食堂の再開 ・こどもと高齢者が集える交流の場の創出やイベントの開催 ・休止している活動の再開
こてはし台中学校区地区部会エリア 【人口・世帯数】 5,460人、　2,403世帯 【町内自治会数】 10町内自治会 【高齢化率】 27.9% 【地域の特徴】 新興住宅地と旧農村	○	**2 支え合い、助け合いのできる地域社会づくり**	⑥ ・要支援者等への見守り活動・安否確認活動を実施したり、緊急通報装置や安心電話の設置の普及を図ります。また、その充実・強化を図ります。 ・要支援者等への生活支援のための活動（買い物、ゴミだし、外出支援等）に取り組みます。また、その充実・強化を図ります。	・既に実施している見守り活動について、見守り対象者の現状把握と対象者の見直しを継続して推進する。 ・見守り対象者、担当者、地区部会間のコミュニケーションの手段として「見守りたより」を発行する。	・対象者の現状見直しアンケートを実施した。 ・対象者が情報弱者に陥らないよう、「見守りたより」1、2号を発行した。 ・花見川区見守り活動団体情報交換会・交流会に参加し、他地域の活動把握や情報交換に努めた。	○	・見守り対象者の現状把握と見直しを継続して推進する。 ・各支部単位で、福祉活動推進員、自治会を含めた活動（情報交換、共同行動）を強化する。 ・昨年度から開始した見守り対象者とのコミュニケーション手段としての「見守りたより」を4回発行する。	・緊急時の連絡方法、情報提供の体制整備を町内自治会と構築する。 ・元気なうちから、見守れるような体制づくりを検討する。 ・対象者と担当者、地域へ見守りたよりを通じて情報発信を強化する。また、支部単位での活動を強化していく。

花見川区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和4年度）個票

【達成状況の目安】
◎年度目標以上のものが達成できた場合
○年度目標が概ね達成できた場合
△年度目標の一部が達成できた場合
×年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合

地区部会エリア	重点取組項目	基本方針	取組項目	令和4年度の目標	令和4年度の実績	達成状況	令和5年度の目標	今後の課題と方針
幕張・武石地区部会エリア 【人口・世帯数】 5,198人、　2,665世帯 【町内自治会数】 3町内自治会 【高齢化率】 22.6% 【地域の特徴】 旧住民と新住民との混合地域。高齢化が進んでいる。現在区画整理が進められている。	○	**1 心身の健康と交流の場づくり**	① ・いきいきサロン、散歩クラブ、健康体操、ふれあい食事サービスなどを実施します。 ・子育てサロン、こども食堂、こどもカフェなどを実施します。 ・要支援者（認知症高齢者・要介護者・障害者）やその家族が集える場づくりを行います。	・ふれあいいきいきサロンを月2回実施する。 ・ふれあい食事サービスを年4回実施する。	「ふれあいいきいきサロン」は、月2回実施することができ、目標は達成されたが、「ふれあい食事サービス」については、コロナ禍の中、1回も実施することができなかった。	△	・「ふれあいいきいきサロン」を基本的に月2回、延べ20回開催するとともに、内容充実の検討を行う。 ・「ふれあい食事サービス」を年4回実施する。前年度まで、コロナで開催できなかったことから、初回（6月実施予定）は、配食形式での実施を計画、2回目以降は、状況により、会食・配食の検討を行う。	次年度は、「ふれあいいきいきサロン」を今年度同様、月2回実施するとともに、「ふれあい食事サービス」も、年4回実施する方向で検討する。ただし、6月の1回は、配食形式とし、2回目以降は会食も含め、開催形式を検討する。
	○	**2 支え合い、助け合いのできる地域社会づくり**	⑦ ・災害時要支援者支援体制を構築します。そして、体制構築後は、体制の充実・強化を図り、研修会や訓練などを実施します。	要支援者の支援体制を構築に向け、千葉市から提供される避難行動要支援者名簿に基づき、要支援者宅を訪問し、町内自治会の提供する支援事業を希望される方に「支え合いカード」の作成を依頼する。	幕張・武石地区部会内の各町内自治会において、災害時要支援者の支援体制を構築することができた。	○	「支え合いカード」を基に対象者一覧表を作成し、要支援者宅を訪問する。	支援体制構築後は、支援体制の充実・強化を図るための研修会や訓練などを実施する。
	○	**2 支え合い、助け合いのできる地域社会づくり**	⑧ ・認知症サポーター養成講座・認知症サポーターステップアップ講座の開催や声かけ訓練などを実施します。	地区部会研修として、認知症サポーター養成講座を開催し、部員の認知症に関する理解を深め、ステップアップを図る。	認知症サポーター養成講座を開催し、部員の認知症に対する理解を深め、一人一人のステップアップを図ることができた。	○	あんしんケアセンターやいきいきプラザ等の専門職と連携し、介護予防や認知症予防のための講座を、地域の人を含め開催する。	高齢者の増加とともに、認知症の増加していく社会において、介護予防や認知症予防のための講座等の開催について、地域住民の参加も含め開催する。
花見川地区部会エリア 【人口・世帯数】 10,822人、　5,664世帯 【町内自治会数】 18町内自治会 【高齢化率】 40.3% 【地域の特徴】 戸建住宅（昭和30年代後半より入居）、農林地帯、UR団地（分譲）、マンション群の混在地域。	○	**1 心身の健康と交流の場づくり**	① ・いきいきサロン、散歩クラブ、健康体操、ふれあい食事サービスなどを実施します。 ・子育てサロン、こども食堂、こどもカフェなどを実施します。 ・要支援者（認知症高齢者・要介護者・障害者）やその家族が集える場づくりを行います。	・ふれあい3事業を85サークルで開催する。 ・敬老会の開催、地区子ども会行事の開催に努める。	・ふれあい3事業は登録85で、コロナ禍の中、67サークルで開催された。 ・敬老会は柏井小学校区6町内自治会（合同）とソレイユ鷹の台自治会の2会場で273名の出席で実施した。 ・子ども会は柏井小学校区で「みんなで歩いてビンゴ」106名の参加で実施した。	○	アフターコロナでサークル活動が活発になってきたこともあり、以下を目標に計画の推進を図る。 ・ふれあい3事業を90サークルで開催する。 ・地区部会内の敬老会の開催地域を増やす。4か所以上の開催を目標。 ・子供会行事に 声かけ・見守り訓練 をコラボする。	・ふれあい3事業は休眠サークルの実働推進。 ・高齢化等による消極化をどのように積極的に仕向けるか。全世代に共通する課題である。
	○	**2 支え合い、助け合いのできる地域社会づくり**	⑥ ・要支援者等への見守り活動・安否確認活動を実施したり、緊急通報装置や安心電話の設置の普及を図ります。また、その充実・強化を図ります。 ・要支援者等への生活支援のための活動（買い物、ゴミだし、外出支援等）に取り組みます。また、その充実・強化を図ります。	・独居及び高齢者世帯への見守り活動の拡大に努める（鷹の台25人、千代の台30箇所）。 ・地域ケア会議に参加し、地域のお困り事の把握に努める。	・鷹の台自治会20人、千代の台自治会 30箇所であり、鷹の台の対象者減について、見直しの要あり。 ・あんしんケアセンターを中心に鷹の台自治会、民生委員、社協区事務所による地域ケア会議が開催された（8月、12月、3月）。	△	・見守り活動の促進…現在、鷹の台、千代の台、花見川住宅では、見守り活動が行われているが、他地区への活動拡大を推進する。 ・子供会行事にコラボして見守り訓練を実施する（学校・PTAに協力依頼）。 ・地域ケア会議への参加（鷹の台自治会、花見川住宅自治会）。	・高齢化の進展に伴い、きめ細やかなケアが大切になる。そのためにも、見守り対象者との日頃の情報の交換がより大切になってくる。 ・地域ケア会議の開催の働きかけを行う。
	○	**4 安全・安心なまちづくり**	⑮ ・防災訓練を実施します。 ・避難所開設・運営訓練を実施します。 ・新型コロナウイルス等感染症に対応した避難所運営委員会マニュアルの見直しを行います。	避難所運営マニュアルの更新と防災活動の実施に努める。	・避難所運営マニュアルは更新なし（一部自治会で更新）。 ・防犯・防災訓練の実施 花見川住宅自治会（11月）、鷹の台自治会（1月）、新鷹の台第二自治会（2月） ・パトロール（平時・歳末）は4自治会で実施	△	・地区部会内の避難所運営委員会の現状把握に努める（防災対策課に依頼）。 ・防災・防犯パトロールの継続実施。	避難所運営委員会の見直し。

花見川区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和4年度）個票

【達成状況の目安】
◎年度目標以上のものが達成できた場合
○年度目標が概ね達成できた場合
△年度目標の一部が達成できた場合
×年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合

地区部会エリア	重点取組項目	基本方針	取組項目	令和4年度の目標	令和4年度の実績	達成状況	令和5年度の目標	今後の課題と方針
花見川第2地区部会エリア 【人口・世帯数】 10,564人、　6,155世帯 【町内自治会数】 7町内自治会 【高齢化率】 42.0% 【地域の特徴】 花見川団地を中心とした住宅地。地区内には図書館、市民センター、児童福祉センターなどが整備されている。	○	**2 支え合い、助け合いのできる地域社会づくり**	⑥ ・要支援者等への見守り活動・安否確認活動を実施したり、緊急通報装置や安心電話の設置の普及を図ります。また、その充実・強化を図ります。 ・要支援者等への生活支援のための活動（買い物、ゴミだし、外出支援等）に取り組みます。また、その充実・強化を図ります。	・花見川団地内で実施している支え合い活動を継続実施する。 ・広報紙等による広報啓発活動を通じて、未実施地区への活動普及に努める。	・花見川団地内で実施している支え合い活動「はんど　はんど」を継続実施した。令和4年度の実績は、65件、133時間。主な活動は、掃除、家具の移動、病院の付き添い、家事援助など であった。 ・令和4年度は、自治会の事務局ニュース等を通じ、活動の普及・啓発に努めた。	○	花見川団地内で実施している支え合い活動を継続実施する。 ・広報紙等による広報啓発活動を通じて、未実施地区への活動普及に努める。	・地域全体が高齢化しているため、担い手不足が深刻化している。 ・花見川団地以外の地域への活動普及が進まない。 ・花見川団地内の支え合い活動を継続するとともに、地域全体に活動の機運が広まるよう、引き続き広報啓発活動に努める。
	○	**3 地域情報の発信と人材発掘・育成の仕組みづくり**	⑪ ・地域での声かけをしたり、地域でのイベント、広報紙（地区部会だより）、区ボランティアセンターを活用し、ボランティアの発掘や育成に努めます。	・ボランティア養成講座を開催し、新たな担い手の育成・確保に努める。 ・広報紙等を通じて広報啓発に努め、新たなボランティアの確保に努める。	コロナ禍で、養成講座は開催できなかったが、自治会の「事務局ニュース」等を通じ、ボランティアの発掘に努めた。	△	・ボランティア養成講座を開催し、新たな担い手の育成・確保に努める。 ・広報紙等を通じて広報啓発に努め、新たなボランティアの確保に努める。	今年度は、敬老会など地域のイベントも再開しており、次年度の養成講座開催を目指し、引き続き検討を行っていく。
	○	**3 地域情報の発信と人材発掘・育成の仕組みづくり**	⑬ ・地域住民やこどもに地域の魅力や福祉をテーマとした研修・講座を開催します。 ・地域住民やこどもに地域福祉活動の体験の場を提供します。	・こども達の居場所の立ち上げに向けて、関係機関との調整、他地区事例の情報収集、開催場所の選定等を行う。	花見川団地内で、こども達の居場所づくりの検討を行っており、関係者間の会合や他地区の活動の視察を行った。開催場所までは決定し、来年度からの活動開始に向け、準備を進めていく予定である。	○	こども達の居場所の立ち上げに向けて、引き続き関係機関との調整、他地区事例の情報収集等を行うとともに、スタッフ募集、スタッフ同士の会合等を行い、立ち上げに向けた準備を進める。	こども達の居場所の立ち上げに向けて、担い手の確保、運営方法等の検討を行っていく。
こてはし台地区部会エリア 【人口・世帯数】 5,862人、　2,885世帯 【町内自治会数】 1町内自治会 【高齢化率】 46.3% 【地域の特徴】 昭和46年に千葉県住宅供給公社が開発した戸建中心（テラスハウス25%）の住宅街。	○	**1 心身の健康と交流の場づくり**	① ・いきいきサロン、散歩クラブ、健康体操、ふれあい食事サービスなどを実施します。 ・子育てサロン、こども食堂、こどもカフェなどを実施します。 ・要支援者（認知症高齢者・要介護者・障害者）やその家族が集える場づくりを行います。	認知症や障害のある方、またその家族の方々が気軽に集える交流の場づくりに向け、開催場所の確保、実施内容の検討に取り組む。	居場所の確保について、協力団体と考えを共有するための打合せを実施し、適当な場所の確保に努めた。	△	あんしんケアセンターこてはし台や障害者福祉作業所と連携し、認知症や障害のある方、またその家族の方々が気軽に集える新たな交流の場を開催することを目途に、具体的内容について関係機関と検討する。	環境・費用面などで適した場所のハードルは高いが、目的を達成すべく取り組んでいく。
	○	**1 心身の健康と交流の場づくり**	③ ・世代の違いや障害の有無を超えた交流やイベントなどを実施します。 ・高齢者施設や障害者施設などでのボランティア体験や施設主催のイベントへ参画します。	高齢者も子どもたちも、いっしょに参加できる「全世代参加型」の新規事業設立に向けて、まず検討委員会の組織化を検討する。	検討委員会設立の前に、地区部会内（福祉活動推進員）で「全世代型」新規事業の検討を行った。複数の案が出され、次年度の検討委員会への提案が可能となった。	△	「全世代参加型」の新規事業の設立についての検討委員会を設置し、「設立可能な新規事業」について検討する。	複数の団体がいろんな地域の事業（イベント）を開催しているため、今後、どのような事業が求められているのか、他団体との調整が不可欠である。
	○	**2 支え合い、助け合いのできる地域社会づくり**	⑩ ・地域福祉活動にあたり、民生委員、町内自治会、あんしんケアセンター、障害者基幹相談支援センター、学校、社会福祉事業者、企業、ボランティア団体、NPO、企業など地域の多様な主体との連携強化を図ります。	あんしんケアセンターが開催する「地域ケア会議」に参加し、会議への参加を通じて「地域支え合いの街づくり」を推進する。令和4年度は、「訪問介護事業者の車両駐車問題」の具体的な対応策について、積極的な提案を行っていく。	「訪問介護事業者の車輌駐車問題」について、2回目の検討会が行われ、以下の具体的な解決策が決定した。 （1）訪問介護事業者の自助努力による駐車場の確保 （2）地域住民（自治会など）の理解を深めるための広報活動を行っていく 決定に際し、当会も積極的な提言を行った。	○	令和4年度の「地域ケア会議」で討議された「訪問介護事業者車両問題」は一応の解決策を見出し、検討は終了した。 令和5年度は「高齢化地域の課題」を議題とし、9月頃に第1回「地域ケア会議」が開催される予定であり、引き続き「地域支え合いの街づくり」に資する会議として積極的に参加していく。	具体的な解決策が実行されているかを常に検証していくことが大事である。
	○	**3 地域情報の発信と人材発掘・育成の仕組みづくり**	⑫ ・広報紙の発行やホームページ、SNS、集いの場、イベントなどでの地区部会活動や地域福祉情報を発信します。	・ホームページ発信内容のグレードアップと発信の迅速化のため、担当者の増員を図る。 ・次世代に向けた情報収集を強化する。	・ホームページのグレードアップを目指し、担当者の増員を図ったが、増員することができなかった。 ・コロナ禍により、ホームページの内容修正が遅れたが、年度後期に着手し、修正を行った。	△	・情報発信の迅速化のために、ホームページチーム（2～3名）を創る。 ・次世代に向けた「この街の良さ」について町内自治会の協力を得て、情報の収集・編集を行い、発信していく。	・ホームページ担当者の育成強化

花見川区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和4年度）個票

【達成状況の目安】
◎年度目標以上のものが達成できた場合
○年度目標が概ね達成できた場合
△年度目標の一部が達成できた場合
×年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合

地区部会エリア	重点取組項目	基本方針	取組項目	令和4年度の目標	令和4年度の実績	達成状況	令和5年度の目標	今後の課題と方針
天戸中学校区地区部会エリア 【人口・世帯数】 17,064人、　7,851世帯 【町内自治会数】 17町内自治会 【高齢化率】 32.4% 【地域の特徴】 農村地域と新興住宅地域。	○	**1 心身の健康と交流の場づくり**	② ・健康や介護予防をテーマとした講習会や研修会などを開催します。	コロナ禍のため休止状態だったサロン活動の再開を目指す。	・令和4年度は天戸中学校区地区部会で計画していた地域内のいきいきサロン3か所の活動を再開することができた。 ・地域内の2ヵ所で、敬老祝賀会を再開することができた。 ・敬老会未開催地区の対象者から強い要望があり、「いきいきサロン」で忘年会を開催した。	△	各専門委員会活動の活性化を図りアフターコロナに向けた地区部会活動の再開を目指す。	・今後もコロナの感染状況を見据えながら、活動場所の拡大・内容充実を推進する。
	○	**2 支え合い、助け合いのできる地域社会づくり**	⑤ ・既存のサロンなど身近な場所や専門機関による相談の場を設けたり、民生委員やあんしんケアセンターなどの相談先の紹介を行います。	広報紙、ホームページ、SNS等を活用し、相談先の啓発活動を行うとともに、地区部会活動に相談機関を招き、参加の相談に対応する。	・コロナ感染症拡大の為、暫く発行を中断していた天戸中学校区地区部会の広報紙の定期発行再開と、ホームページ・メールマガジンの立ち上げを行う事ができた。 ・再開した いきいきサロン に、あんしんケアセンターやいきいきプラザ・いきいきセンターの職員を招き、参加者の相談等にも応じていただいた。	△	広報紙、ホームページ、SNS等を活用し、相談先の啓発活動を行うとともに、地区部会活動に相談機関を招き、参加の相談に対応する。	・引き続き広報紙、ホームページ、メールマガジン等を活用した啓発活動を行うとともに、メールマガジン登録者の拡大（現在600人→目標3,000人）に努める。
	○	**2 支え合い、助け合いのできる地域社会づくり**	⑥ ・要支援者等への見守り活動・安否確認活動を実施したり、緊急通報装置や安心電話の設置の普及を図ります。また、その充実・強化を図ります。 ・要支援者等への生活支援のための活動（買い物、ゴミだし、外出支援等）に取り組みます。また、その充実・強化を図ります。	・民生委員等の関係機関と連携し、要支援者が利用できる制度を紹介する。 ・地区部会活動を通じても、緊急通報装置や安心電話の普及に努める。	・(発災時)東日本大震災以降、各市町村に作成が義務付けられ、地縁団体・社協等が申請すれば交付される「避難行動要支援者名簿」を活用しての発災時保護計画の立案を行った。 ・(平常時)緊急通報システム設置に賛同頂いた地縁団体内の対象者に、設置の推進を行った。	△	・民生委員等の関係機関と連携し、要支援者が利用できる制度を紹介する。 ・地区部会活動を通じても、緊急通報装置や安心電話の普及に努める。	・発災時・平常時における支援体制の構築については、地縁団体・地域内団体等での実施拡大の推進に努める。 ・感染症拡大防止のため、在宅避難・分散避難に変わりつつある現状を、行政が各地域団体にガイドライン等を用い、指導していくことが事業推進には必須と考える。
	○	**2 支え合い、助け合いのできる地域社会づくり**	⑦ ・災害時要支援者支援体制を構築します。そして、体制構築後は、体制の充実・強化を図り、研修会や訓練などを実施します。	災害時要支援者支援体制の構築に向け、普及・啓発活動に努める。	・コロナ感染症拡大に伴い、発災時の在宅避難・分散避難への移行に伴う地域内での指定避難施設数の拡大を行った。	△	災害時要支援者支援体制の構築に向け、普及・啓発活動に努める。	・地域指定避難施設数の拡充と在宅避難方法の普及・啓発活動に努める。
	○	**2 支え合い、助け合いのできる地域社会づくり**	⑩ ・地域福祉活動にあたり、民生委員、町内自治会、あんしんケアセンター、障害者基幹相談支援センター、学校、社会福祉事業者、企業、ボランティア団体、NPO、企業など地域の多様な主体との連携強化を図ります。	地区部会活動や地域の会議等を通じて、志を同じくする関係機関との連携強化に努める。	・令和4年度は、志を同じくする地縁団体等と連携した行動を行う準備に努めた。	×	地区部会活動や地域の会議等を通じて、志を同じくする関係機関との連携強化に努める。	・連携できる団体数の拡大を目指す。
	○	**3 地域情報の発信と人材発掘・育成の仕組みづくり**	⑫ ・広報紙の発行やホームページ、SNS、集いの場、イベントなどでの地区部会活動や地域福祉情報を発信します。	・可能な範囲で地区部会活動を再開し、広報紙やホームページで地区部会活動の発信を行っていく。 ・コロナ禍で発行できていなかった広報紙の発行を再開する。	・予定していた広報紙定期発行の再開とホームページの立ち上げを実施することができた。	○	広報紙・メールマガジン等を活用して地域への情報提供を促進するとともに、メルマガ会員数の拡大を目指す。	・メルマガ登録者数を現在の600人から3,000人への増加を目標とし、地域で起こっている事や福祉情報の迅速な発信を行う。
	○	**4 安全・安心なまちづくり**	⑮ ・防災訓練を実施します。 ・避難所開設・運営訓練を実施します。 ・新型コロナウイルス等感染症に対応した避難所運営委員会マニュアルの見直しを行います。	避難所運営委員会への協力・支援を行う。	・新型コロナ感染症の影響により、指定避難施設に於ける開設訓練が実施されなかったため、協力実施事例がなかった。	×	避難所運営委員会への協力・支援を行う。	・コロナ沈静とともに訓練が再開された指定避難施設には、地区部会として協力を行っていく。 ・避難所運営委員会の位置付け・使命を理解した上での活動の推進・組織構築が必要である。

花見川区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和4年度）個票

【達成状況の目安】
◎年度目標以上のものが達成できた場合
○年度目標が概ね達成できた場合
△年度目標の一部が達成できた場合
×年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合

地区部会エリア	重点取組項目	基本方針	取組項目	令和4年度の目標	令和4年度の実績	達成状況	令和5年度の目標	今後の課題と方針
さつきが丘・宮野木台地区部会エリア 【人口・世帯数】 10,427人、　5,283世帯 【町内自治会数】 15町内自治会 【高齢化率】 35.1% 【地域の特徴】 古くからある閑静な農村地域と、その後比較的新たにできた住宅地域を含む地区。	○	**1 心身の健康と交流の場づくり**	③	・世代の違いや障害の有無を超えた交流やイベントなどを実施します。 ・高齢者施設や障害者施設などでのボランティア体験や施設主催のイベントへ参画します。	・世代の違い、障害の有無や立場を超え、地域の多くの人々が参加して、福祉に親しむ機会である「福祉まつり」を年１回開催し、広い世代の方に福祉に触れる機会を設ける。	コロナ禍で「福祉まつり」を開催することはできなかったが、次年度の「福祉まつり」開催に向けて、当地区部会のテーマ「～あいさつで えがおあふれる やさしいまちに～」を実現すべく、12月に「あいさつキャンペーン運動」を実施し、各店舗やスーパーの前にて、チラシ、マスク、ペーパータオル、ティッシュ等を入れたファイルを配布した。	△	世代の違い、障害の有無や立場を超え、地域の多くの人々が参加して、福祉に親しむ機会である「福祉まつり」を開催する。新型コロナウイルスの影響で3年間中止が続いているが、新型コロナの5類移行に伴い、4年ぶりの開催を目指す。令和5年度は、移動交番や郵便局の参画や、第2会場における野菜販売など新たな取組みも計画していきたい。	取組内容実現のため、あいさつキャンペーンを継続実施する。あいさつ運動により、顔見知りが増え、ユニバーサルデザインの町づくりを実現していくことで、『福祉まつり』も成功に導いていきたい。
	○	**2 支え合い、助け合いのできる地域社会づくり**	⑥	・要支援者等への見守り活動・安否確認活動の実施、緊急通報システムや安心電話の設置の普及を図ります。また、その充実・強化を図ります。 ・要支援者等への生活支援のための活動（買い物、ゴミだし、外出支援等）に取り組みます。また、その充実・強化を図ります。	「ご近所のたすけあい」活動を継続実施するとともに、ボランティア活動の周知とボランティアの確保に努める。	「ボランティアだより」の内容をより分かりやすく、便利なものとして発行し、普及啓発活動に努めた。	○	・「ご近所のたすけあい」活動を継続実施するとともに、登録ボランティア確保のための募集、PRに努める。 ・より利用しやすい支援活動ができるようボランティア委員会で検討し、改善に努める。	若い世代のボランティアの確保。 地区部会内や関係団体との連携を深め、「ご近所たすけあい活動」の充実に努める。
幕張本郷中学校区地区部会エリア 【人口・世帯数】 26,153人、　13,578世帯 【町内自治会数】 4町内自治会 【高齢化率】 13.7% 【地域の特徴】 JR幕張本郷及び京成幕張本郷駅を中心に沿線を挟んで両側に広がる町。戸建も多く、マンションも比較的多い。	○	**1 心身の健康と交流の場づくり**	①	・いきいきサロン、散歩クラブ、健康体操、ふれあい食事サービスなどを実施します。 ・子育てサロン、こども食堂、こどもカフェなどを実施します。 ・要支援者（認知症高齢者・要介護者・障害者）やその家族が集える場づくりを行います。	赤ちゃんサークルを年１１回開催するとともに、内容の充実、従事者のスキルアップに努める。	赤ちゃんサークルの会場である「幕張台自治会館」のコロナ禍における利用制限等の問題もあり、今年度は1度も開催することができなかった。	△	令和5年5月14日付、地区部会の解散により計画から除く。	令和5年5月14日付、地区部会の解散により計画から除く。
				幕張台公園にて上の台小学校地区の方々を対象に年１回グラウンドゴルフ大会を実施する。	コロナで2年間中止となっていたグラウンドゴルフ大会であったが、今年度は、3年ぶりに幕張台公園にて上の台小学校地区の方々（25名）の参加により開催することができた。			
	○	**1 心身の健康と交流の場づくり**	②	・健康や介護予防をテーマとした講習会や研修会などを開催します。	「音楽の集い（音楽療法士セラピストによる）」を年１回実施する。	令和4年度の目標としては、「音楽の集い（音楽療法士セラピストによる）」を年１回実施する としていたが、コロナのため、中止とした。	×	令和5年5月14日付、地区部会の解散により計画から除く。	令和5年5月14日付、地区部会の解散により計画から除く。
畑地区部会エリア 【人口・世帯数】 6,187人、　2,854世帯 【町内自治会数】 6町内自治会 【高齢化率】 32.0% 【地域の特徴】 古くからある閑静な農村地域と、その後比較的新たにできた住宅地域を含む地区。	○	**2 支え合い、助け合いのできる地域社会づくり**	⑥	・要支援者等への見守り活動・安否確認活動を実施したり、緊急通報装置や安心電話の設置の普及を図ります。また、その充実・強化を図ります。 ・要支援者等への生活支援のための活動（買い物、ゴミだし、外出支援等）に取り組みます。また、その充実・強化を図ります。	・朝のゴミ出し支援活動を継続するとともに、広報活動に努める。 ・畑町ガーデンの送迎車を利用した買物支援事業の定期運行に向けた検討を行う。	・朝のゴミ出し支援については、受入は行っているものの、希望者がいない状況が続いている。 ・畑町ガーデンの送迎車を利用した買物支援事業は、コロナ禍のため、今年度も進展がなかった。	△	・朝のゴミ出し支援活動を継続するとともに、広報活動に努める（ご近所同士で対応しているところもあるが限度がある）。また、民児協と連携を図り、高齢者実態調査等の機会にゴミ出しに困っている方のニーズの把握に努める。 ・畑町ガーデンの送迎車を利用した買物支援事業の定期運行に向けた検討を行い、試行運行を実施する。	・朝のゴミ出し支援は、民生委員を通じて高齢者への声掛けを行い、普及啓発に努めていく。 ・畑町ガーデンの送迎車を利用した買物支援事業については、コロナの感染状況にもよるが、運行再開に向け、畑町ガーデン等の関係団体と協議を行っていく。

稲毛区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和４年度）総括表

◆基本方針別取組状況

【達成状況の目安】
◎:年度目標以上のものが達成できた場合
○:年度目標が概ね達成できた場合
△:年度目標の一部が達成できた場合
×:年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
－:評価が困難である場合

基本方針	取組項目数	取組項目の達成状況		主な取組内容
1　みんなの様々な居場所と健康づくり	10	◎		高齢者の健康増進を目的とした「いきいきサロン（62か所　622回）」や子育て中の親同士の交流を目的とした「子育てサロン（13か所　79回）」を実施するなど、地域の方が気軽に集うことができる居場所の創出に取り組みました。
		○	10	
		△		
		×		
		－		
2　互いを知り、活かし、支え合い、助け合う、地域づくり	30	◎		一部の町内自治会において住民主体の見守り活動が継続的に実施された他、1自治会と1地区部会エリアで生活上のちょっとしたお手伝い（ごみ出しなど）の支援を行いました。 また、一部のエリアでは敬老会などのイベントについて、時間短縮や参加者を入れ替えて行うなど、コロナウイルスの感染対策を取りながら開催しました。
		○	30	
		△		
		×		
		－		
3　災害などに備えた安全・安心なまちづくり	8	◎		町内自治会及び自主防災組織で防災訓練や避難所開設訓練が実施されたほか、防災に関する講座を開催するなど、住民に対する防災に対する意識の向上に努めました。 また、警察などと連携し、防犯パトロールや防犯に関する講座を実施して、地域住民の防犯意識を高めるとともに、住民同士の防犯活動に取り組みました。
		○	8	
		△		
		×		
		－		
今年度の振り返り	48	◎	0	今年度も新型コロナウイルス感染症の影響により、地域の中で直接会う機会が減少し、困りごとやニーズが今まで以上に見えづらい状況の中、各地区部会が様々な手段で地域の状況を把握し、把握した困りごとや気づきを共有するために話し合い、解決に向けて様々な工夫をしながら活動に取り組みました。
		○	48	
		△	0	
		×	0	
		－	0	

今後の課題と方針	少子高齢化による社会構造の変化、個人の価値観やライフスタイルの多様化等をはじめ、コロナ禍の影響も重なり、地域での人と人とのつながりや支え合う意識の希薄化が顕著となっている。 また、地域活動は再開傾向にあるが、一部の地域活動は従来どおりの方法では実施できず、いまだに停止したままの活動もある。停止期間の長期化で活動者のモチベーションが低下し、解散したり運営ノウハウが引き継がれないという課題も出ている。また、新型コロナに関しては、考え方や意識に差があるため、再開については慎重な対応が求められている。 これらの顕在化した地域課題の多くは複雑化、複合化してるため、ネットワークを活用しながら、地域の関係機関・団体と課題を共有し、解決に向けて連携・協働を図っていきたい。

◆区支え合いのまち推進協議会開催状況

回数	開催日	主な議題
第1回	8月10日（水）	（1）稲毛区支え合いのまち推進協議会副委員長の選任について （2）第5期稲毛区支え合いのまち推進計画について （3）令和3年度の取組状況について （4）第5期区支え合いのまち推進計画の中間見直しについて （5）支え合いのまち稲毛（稲毛区推進協だより）について
第2回	令和5年3月 2日（木）	（1）第5期区支え合いのまち推進計画の中間見直しにおける具体的な取り組み及び活動事例について （2）第5期区支え合いのまち推進計画の中間見直しにおける重点取組項目について

◆区支え合いのまち推進協議会だより発行状況

号数	発行日	発行部数及び主な配布先
第29号	10月1日（土）	発行部数：5,250部 主な配布先：町内自治会、図書館、公民館、 コミュニティーセンター（市民センター）、 あんしんケアセンター、いきいきプラザ（センター）

◆区の地域福祉に関する紹介事例等

○多くの地区部会がコロナウイルスの感染状況を踏まえ、下記のように創意工夫をしながら活動に取り組みました。

（１）エリア内にある公園を活用し、近隣の高齢者等を対象としてイベント的にラジオ体操を開催した。
（２）訪問での声掛けによる方法で見守り活動を行っていたが、絵手紙での安否確認へ変更した。
（３）会議や講座、サロン（健康体操）などZoomを活用し、オンラインでの参加も出来るようにした。
（４）参加者同士の間隔を空け、座ってできる軽度な体操や脳トレをメインに行った。

稲毛区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和４年度）個票

【達成状況の目安】
◎:年度目標以上のものが達成できた場合
○:年度目標が概ね達成できた場合
△:年度目標の一部が達成できた場合
×:年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
―:評価が困難である場合

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和４年度の目標又は予定	令和４年度の実績	達成状況	令和５年度の目標又は予定	今後の課題と方針
小中台東地区部会 【人口・世帯数】 19,750人・9291世帯 【町内自治会数】 34町内自治会	１　みんなの様々な居場所と健康づくり	健康づくりや介護予防の普及・啓発	地域住民を対象とした福祉講座の中で認知症に関する講座を開催する他、いきいきサロンにおいて健康づくりや介護予防についての啓発を行います。 また、開催地区部会や町内自治会、民児協、スポーツ振興会がイベント等を実施し、気軽に参加できる健康づくりや運動の機会を増やします。	地区部会があんしんケアセンターや区健康課等と連携・協力し、高齢者に対していきいきサロン（８か所）などを実施し健康づくりや介護予防の普及啓発に取り組みました。	○	地域住民を対象とした福祉講座の中で認知症に関する講座を開催する他、いきいきサロンにおいて健康づくりや介護予防についての啓発を行います。 また、開催地区部会や町内自治会、民児協、スポーツ振興会がイベント等を実施し、気軽に参加できる健康づくりや運動の機会を増やします。	コロナウイルスの影響により、活動が一部実施できなかったことから、地区部会が区健康課やあんしんケアセンターなどと活動方法の検討や活動内容など、協議を行い、いきいきサロンにおいて健康づくりや介護予防の普及・啓発に取り組んで行きたい。
【高齢化率】 32.6% 【地域の特徴】 稲毛の北西部に位置し、小中台町、園生町の一部、宮野木町の一部、長沼町の一部を含む比較的広いエリア。 集合住宅、戸建てが混在しており、旧来からの集合住宅は独居・高齢者世帯が増加し、高齢化率も急速に進んでいる。	２　互いを知り、活かし、支え合い、助け合う、地域づくり	あいさつから始まる地域との関わり	町内自治会や学校、青少年育成委員会、セーフティウォッチャーなどが連携・協力し、登下校時に通学路などで子どもたちへ挨拶をするとともに、防犯パトロールの際などに、住民同士のあいさつが浸透するよう努めます。 また、地域内小学校に依頼してあいさつ標語の作品募集を行い、結果を東西社協まつりや広報紙、掲示板などを活用して広めます。	近隣校（小中台小、小中台南小、園生小、柏台小）の協力を得て、あいさつをテーマにした標語作品を募集し、小中台西地区部会と共同開催する「東西社協まつり」で優秀作品の発表並びに表彰を行い、あいさつ運動に取り組みました。 また、各小学校で民生委員と青少年育成委員会が連携・協力して登下校時のあいさつ運動に取り組みました。	○	町内自治会や学校、青少年育成委員会、セーフティウォッチャーなどが連携・協力し、登下校時に通学路などで子どもたちへ挨拶をするとともに、防犯パトロールの際などに、住民同士のあいさつが浸透するよう努めます。 また、地域内の小学校にあいさつ標語の作品募集を依頼し、結果を東西社協まつりや広報紙、掲示板などを活用して広めます。	引き続き、町内自治会、学校、セーフティーウオッチャー等と連携し、あいさつ運動の拡充を図るとともに、地域のイベントや広報媒体等を通じて広報啓発を行い、あいさつ運動が地域へ浸透するように取り組んで行きたい。
		地域住民の参加による見守り・支え合い	地区部会が町内自治会や民児協などと連携・協力して、独居高齢者や高齢者世帯等に対し、日常的な声かけやあんしんカードの配布等を行う他、いきいきサロン参加の呼び掛けなどの機会を活用した見守り活動に取り組みます。	地区部会が独居高齢者や高齢者世帯などに対して、日常的な声かけや携帯用のあんしんカードを配布するとともに、町内自治会が独自に作成したあんしんカードを配布するなど、継続的に見守り活動に取り組みました。	○	地区部会が町内自治会や民児協などと連携・協力して、独居高齢者や高齢者世帯等に対し、日常的な声かけやあんしんカードの配布等を行うとともに、いきいきサロン参加の呼び掛けなどの機会を活用した見守り活動に取り組みます。	高齢化に伴う担い手不足の解消に向け、活動が継続できるよう、地域住民へ働きかけるとともに、町内自治会や民児協などと連携・協力して地域の実情に沿った活動が実施できるよう取り組んで行きたい。
		地域での福祉教育の普及・啓発	地区部会が町内自治会や学校、各種活動団体と連携・協力し、福祉講座を企画するなど、ボランティア活動の普及啓発に努めます。 また、サマーフェスタなどイベントの機会には近隣の小・中学校にボランティア募集を行い、ボランティア活動の実践を通した福祉教育に取り組みます。	年度ごとにテーマを設定した地区部会主催による講座を開催することで、住民に対して地域ボランティア活動の普及・啓発に取り組みました。 また、サマーフェスタ開催時に、近隣の中学校（小中台中・朝日ヶ丘中）からボランティアとして生徒が参加し、活動を通じて福祉教育の啓発に取り組みました。	○	地区部会が町内自治会や学校、各種活動団体と連携・協力し、福祉講座を企画するなど、ボランティア活動の普及啓発に努めます。 また、サマーフェスタなどイベントの機会には近隣の小学校にボランティア募集を行い、活動を通じて福祉教育の普及・啓発に取り組みます。	地区部会が町内自治会・民児協と連携して、地域住民、エリア内の学校に対し、担い手育成のための福祉講座を開催し、福祉への醸成を図るとともに、活動場所の提供を行い、福祉教育の普及・啓発に取り組んで行きたい。
		地域の情報の収集と発信	地区部会や町内自治会等が、地域の活動に関する情報を相互に共有するとともに、広報紙等で情報発信に取り組みます。	地区部会や町内自治会が相互に会議等へ参加し、地域活動の情報の共有に努めるとともに、地区部会が広報紙で地域住民に対して地域活動の情報発信に取り組みました。 また、地区部会が町内自治会と連携協力し、高齢者等が気軽に集える居場所づくりをテーマに情報交換会を開催するなど、情報収集などに取り組みました	○	地区部会が町内自治会と連携・協力し、社会情勢や地域で問題・課題となっている内容をテーマとした、情報交換会（講座）を開催し情報共有を行います。 また、広報紙を通じて地域活動の情報発信に取り組みます。	引き続き、地区部会や町内自治会が相互に会議等へ参加し、地域活動の情報の共有に努めるとともに、情報交換会（講座）を通じて、関係者間で共有した情報を広報紙等を通じて地域へ発信していきたい。

稲毛区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和４年度）個票

【達成状況の目安】
◎:年度目標以上のものが達成できた場合
○:年度目標が概ね達成できた場合
△:年度目標の一部が達成できた場合
×:年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
―:評価が困難である場合

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和４年度の目標又は予定	令和４年度の実績	達成状況	令和５年度の目標又は予定	今後の課題と方針
山王地区部会 【人口・世帯数】 16,798人・4,886世帯 【町内自治会数】 11町内自治会 【高齢化率】 32.2% 【地域の特徴】 稲毛区の北部に位置し、四街道市が隣接する、旧来からの戸建て住宅が立ち並び、区内でも高齢化率が高いエリア。 エリア内には、大型の複合施設や総合病院、県道沿いに店舗が点在している。 外出の際、公共交通機関の利用はJRの各駅までは距離があるため、バスが中心となる。	２　互いを知り、活かし、支え合い、助け合う、地域づくり	あいさつから始まる地域との関わり	セーフティウォッチャー、学校と更なる連携を進め、あいさつ運動を更に推進するため、青少年育成委員会や町内自治会、地区部会などとの協力体制づくりを進めます。	地区部会が小学校のセーフティウォッチャーと連携し、登校時にあいさつ運動を継続実施している他、6年生を送る会開催時に安全講習会を行い、あいさつ運動について情報共有し、町内自治会に協力要請を行いました。	○	セーフティウォッチャー、学校と更なる連携を進め、あいさつ運動を更に推進するため、青少年育成委員会や町内自治会、地区部会などとの協力体制づくりを進めます。	継続して、児童・生徒への登下校時や防犯パトロール時のあいさつ運動を行うため、青少年育成委員会や町内自治会などの関係団体と連携を図るとともに、活動を通じて、住民同士のあいさつ運動の浸透に取り組んで行きたい。
		地域のイベントなどを通じての地域交流・多世代交流	地区部会や町内自治会、地域の各種活動団体等が連携・協力し、夏まつりやお楽しみ会など幅広い世代が参加交流できる場づくりに取り組むとともに、各イベントにおいて子育てサロンへの参加を促し、子育て世代との地域交流を進めます。	地区部会が町内自治会や地域の関係団体と連携・協力して、いきいきサロン（5会場）、夏祭りや敬老会、地域の合同運動会などのイベントを実施し、多くの地域住民の参加・交流の場づくりに取り組みました。	○	地区部会や町内自治会、地域の各種活動団体等が連携・協力し、夏まつりやお楽しみ会など幅広い世代が参加交流できる場づくりに取り組みます。	引き続き、既存の地域活動を継続するため、各種活動団体が、相互に連携・協力し、開催内容を充実させるなど、幅広い世代が参加・交流できる場づくりに取り組んで行きたい。
		地域で活動している人・組織同士の連携・協力	地区部会や町内自治会、民児協、学校、公民館などがイベントや地域活動の際に情報共有を行い、相互の連携・協力体制づくりに努めます。 特に、あいさつ運動を中心に青少年育成委員会とも連携して通学の安全を図っていきます。	地区部会や町内自治会、民児協、学校、公民館などが連携・協力し、各種会議や情報交換会を通じて情報を共有するとともに、地域イベントや防災講座、あいさつ運動など相互に連携・協力して活動の場づくりに取り組みました。	○	地区部会や町内自治会、民児協、学校、公民館などがイベントや地域活動の際に情報共有を行い、相互の連携・協力体制づくりに取り組みます。	町内自治会、民児協、学校など地域の関係団体が実施する会議等へ参加し、情報共有を図りながら連携・協力体制の構築に努めていきたい。
		地域住民の参加による見守り・支え合い	地区部会が町内自治会や民児協、社会福祉施設などと連携・協力し、防犯パトロールを活用した見守り活動や、買い物が困難なひとり暮らし高齢者を対象とした買い物支援サービス「ドライブサロン」などの実施に取り組むなど、外出困難な高齢者を対象に、より丁寧な対応を進めます。	3町内自治会（山王町中央自治会、山王町南自治会、長沼原台自治会）が一人暮らし高齢者等に対して安否確認等による見守り活動に取り組みました。 また、地区部会が民児協や福祉施設と連携・協力して、買い物が困難な一人暮らし高齢者等を対象とした「ドライブサロン」はコロナウイルスの影響により実施には至りませんでした。	○	地区部会が町内自治会や民児協、社会福祉施設などと連携・協力し、防犯パトロールを活用した見守り活動に取り組みます。 また、民児協、福祉施設と連携・協力して昨年未実施となっている買い物支援サービス「ドライブサロン」の再開に向け、協議を行います。	高齢化に伴う担い手不足の解消に向け、活動が継続できるよう、担い手を確保するため、地域住民へ働きかける必要がある。
	3　災害などに備えた安全・安心なまちづくり	いざというときに必要な情報把握や防災講座等の開催	地区部会が公民館と連携・協力して防災講座を継続実施すると共に、町内自治会（自主防災組織）が防災訓練や避難所開設訓練などを行う中、より多くの地域住民に参加をしてもらえるよう日程調整をするなどし、防災に関する意識向上に取り組みます。	地区部会が公民館と共催で地域での防災講座を企画するとともに、自主防災組織での防災・避難訓練を実施した。 また、町内自治会が避難行動要支援者名簿の情報提供について千葉市と協定を締結し、災害時に備え、必要な情報把握に取り組みました。	○	地区部会が公民館と連携・協力して防災に関する講座を実施し、より多くの地域住民に参加をしてもらえるよう防災意識の向上に取り組みます。 また、地区部会が防災訓練や避難所開設訓練などを行う町内自治会に対し、支援体制の構築に努めます。	地区部会を中心に防災訓練や避難訓練などの機会を活用し、住民に対して災害時に備えた危機意識向上に取り組むとともに、町内自治会と連携が図れるよう体制の構築に取り組んで行きたい。

稲毛区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和４年度）個票

【達成状況の目安】
◎：年度目標以上のものが達成できた場合
○：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合
×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
―：評価が困難である場合

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和４年度の目標又は予定	令和４年度の実績	達成状況	令和５年度の目標又は予定	今後の課題と方針
轟・穴川地区部会 【人口・世帯数】 11,295人・5,927世帯 【町内自治会数】 15町内自治会	１　みんなの様々な居場所と健康づくり	健康づくりや介護予防の普及・啓発	地区部会が町内自治会やあんしんケアセンター等と連携・協力し、高齢者に対していきいきサロンを実施するなど、健康づくりや介護予防の普及・啓発に取り組みます。	地区部会が区健康課などと協力し地域の高齢者を対象としたいきいきサロン（5か所）において健康体操や健康相談などを実施しました。 なお、コロナウイルスの影響により、6か所のサロンが休止となりました。	○	引き続き関係団体・機関と連携を図り、高齢者を対象としたいきいきサロンを実施するなど、健康づくりや介護予防の普及・啓発に取り組みます。 また、昨年度休止していたサロンについては関係者間で実施方法など協議を行い、活動再開に向けて取り組みます。	活動が一部実施できなかったことから、活動再開に向け、地区部会が区健康課やあんしんケアセンターなどと活動方法の検討や活動内容など、協議を行い、いきいきサロンにおいて健康づくりや介護予防の普及・啓発に取り組んで行きたい。
【高齢化率】 23.2% 【地域の特徴】 稲毛区の南東に位置する、轟町・穴川・穴川町で構成され、新旧の戸建て、集合住宅が混在しているエリア。 公共交通機関の利便性も比較的高くエリア内には商業施設の巡回バスやタウンバスも運行している。 教育施設（大学）も多く存在し、文教のまちの呼称でも親しまれ、公共機関（教育施設、行政施設等）を内包する。	２　互いを知り、活かし、支え合い、助け合う、地域づくり	地域で活動している人・組織同士の連携・協力	地区部会や町内自治会、老人クラブなど各種活動団体が、地域のイベントなどを実施する際、相互に連携・協力し、地域活動に取り組みます。	地区部会が、町内自治会、民児協が連携・協力して地域内８カ所で敬老会を実施した他、地域内の福祉施設からの協力も得るなど協力体制の構築に努めました。	○	地区部会や町内自治会、老人クラブなど各種活動団体が、地域のイベントなどを実施する際、相互に連携・協力し、地域活動に取り組みます。	高齢化に伴う担い手不足の解消に向け、活動が継続できるよう、地域住民へ働きかけるとともに、町内自治会、民児協、学校など地域の関係団体が実施する会議等へ参加し、情報共有を図りながら連携・協力体制の構築に努めていきたい。
	３　災害などに備えた安全・安心なまちづくり	いざというときに必要な情報把握や防災講座等の開催	地区部会が公民館と連携・協力して防災講座を継続実施すると共に、町内自治会（自主防災組織）が防災訓練や避難所開設訓練などを行い、防災に関する意識向上に取り組みます。	町内自治会（自主防災組織）が災害時に備え、必要な情報把握に取り組むとともに、防災・避難訓練を実施しました。	○	地区部会が、町内自治会、民児協と連携し、平常時から災害時要支援者の把握をするなど、災害時に迅速な支援ができるよう支援体制づくりに努めます。	引き続き、町内自治会自主防災組織を中心に、地域住民に対して災害時に備えた支援体制の構築に取り組む必要がある。 また、防災に関連する講座の開催や防災訓練、避難所開設訓練などを行い、防災に関する意識向上に取り組んでいきたい。

稲毛区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和４年度）個票

【達成状況の目安】
◎:年度目標以上のものが達成できた場合
○:年度目標が概ね達成できた場合
△:年度目標の一部が達成できた場合
×:年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
―:評価が困難である場合

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和４年度の目標又は予定	令和４年度の実績	達成状況	令和５年度の目標又は予定	今後の課題と方針
稲毛地区部会 【人口・世帯数】 12,387人・6,095世帯 【町内自治会数】 11町内自治会 【高齢化率】 32.2% 【地域の特徴】 稲毛区の最南に位置し、JR稲毛駅と国道の間に新・旧の戸建て住宅が立ち並ぶ高齢化率が比較的高いエリア。 旧来からの戸建てが集中する場所は向こう三軒両隣の風習が残っていることから、地域の繋がりは強い。 移動の際の主な公共交通機関として京成線・バスの利用が可能となるが、バスルートは浅間通りに限定される。 また、商業施設はJR稲毛駅周辺に集中していることから、自前の移動手段を保有しない高齢者の利便性は低い。	１　みんなの様々な居場所と健康づくり	公共施設や空き店舗などを活用した身近な居場所づくり	地区部会が公民館や社会福祉施設などと連携・協力し、いきいきサロンや子育てサロンを実施し、住民同士が気軽に集える居場所づくりの充実に取り組みます。	地区部会が公民館や福祉施設と連携・協力し、いきいきサロン（２ヶ所）、子育てサロン（１か所）を実施し、住民同士が身近なところで気軽に集える居場所づくりに取り組みました。	○	地区部会が公民館や社会福祉施設などと連携・協力し、いきいきサロンや子育てサロンを実施し、住民同士が気軽に集える居場所づくりの充実に取り組みます。	高齢化に伴う担い手不足の解消に向け、活動が継続できるよう、地域住民へ働きかけるとともに、町内自治会や民児協などと連携・協力して地域の実情に沿った活動が実施できるよう取り組んで行きたい。
		健康づくりや介護予防の普及・啓発	地区部会が区健康課やあんしんケアセンターなどと連携・協力し、いきいきサロンや散歩クラブを実施し、健康体操や健康相談を行うなど、健康づくりや介護予防の普及・啓発に取り組みます。	地区部会が区健康課やあんしんケアセンターなどと連携・協力して、高齢者を対象とした「にこにこ体操」やイベント的に散歩クラブを開催するなど、健康体操や健康相談を通じて、健康づくりや介護予防の普及啓発に取り組みました。	○	地区部会が区健康課やあんしんケアセンターなどと連携・協力し、いきいきサロンや散歩クラブを実施し、健康体操や健康相談を行うなど、健康づくりや介護予防の普及・啓発に取り組みます。	地区部会が区健康課やあんしんケアセンターなどと連携・協力し、いきいきサロンの内容について参加者のニーズを把握して実施するとともに、介護予防に関する情報を共有し、健康づくりや介護予防の普及・啓発に取り組んで行きたい。
	２　互いを知り、活かし、支え合い、助け合う、地域づくり	地域のイベントなどを通じての地域交流・多世代交流	地区部会や町内自治会、スポーツ振興会など各種活動団体や学校、幼稚園、保育園などが連携・協力して敬老会やふれあい広場などを企画実施し、幅広い世代が交流できる場づくりに取り組みます。	コロナウイルスの影響により、地区部会が町内自治会、各種活動団体及び近隣の小・中学校と連携・協力して敬老会や、中学校の生徒を対象に子育て中の親子との交流を図るふれあい学習は中止となったが、関係者間で開催に向けて協議を行いました。	○	地区部会や町内自治会、スポーツ振興会など各種活動団体や学校、幼稚園、保育園などが連携・協力して敬老会やふれあい広場などを企画実施し、幅広い世代が交流できる場づくりに取り組みます。	敬老会など、休止となっている地域イベントの再開に向け、各種活動団体が、相互に連携・協力し、開催内容・方法などについて協議を行い、幅広い世代が参加・交流できる場づくりに取り組んで行きたい。
		地域で活動している人・組織同士の連携・協力	地区部会や町内自治会、スポーツ振興会、青少年育成委員会などが、地域のイベント（敬老会やふれあい広場など）を実施する際、相互に連携・協力し、地域活動に取り組みます。	コロナウイルスの影響により、地域イベントが中止となる中、地区部会や町内自治会、民児協、スポーツ振興会、青少年育成委員会などが相互に会議等へ参加し、情報共有を図りながら連携・協力体制の構築に努めました。	○	地区部会や町内自治会、スポーツ振興会、青少年育成委員会などが、地域のイベント（敬老会やふれあい広場など）を実施する際、相互に連携・協力し、地域活動に取り組みます。	高齢化に伴う担い手不足の解消に向け、活動が継続できるよう、地域住民へ働きかけるとともに、町内自治会、民児協、学校など地域の関係団体が実施する会議等へ参加し、情報共有を図りながら連携・協力体制の構築に努めていきたい。
		地域住民の参加による見守り・支え合い	地区部会が町内自治会や民児協などと連携・協力して地域内のニーズを把握することに努め、見守り、支え合い活動の必要性について協議します。	地区部会が民児協や町内自治会と協力し、いきいきサロンを通じて、参加者への声かけによる見守り活動に取り組みました。	○	地区部会が町内自治会や民児協などと連携・協力して地域内のニーズを把握することに努め、見守り、支え合い活動の必要性について協議します。	高齢化に伴う担い手不足の解消に向け、活動が継続できるよう、地域住民へ働きかけるとともに、町内自治会や民児協などと連携・協力して地域の実情に沿った活動が実施できるよう取り組んで行きたい。

稲毛区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和４年度）個票

【達成状況の目安】
◎:年度目標以上のものが達成できた場合
○:年度目標が概ね達成できた場合
△:年度目標の一部が達成できた場合
×:年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
―:評価が困難である場合

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和４年度の目標又は予定	令和４年度の実績	達成状況	令和５年度の目標又は予定	今後の課題と方針
稲丘地区部会 【人口・世帯数】 12,245人・5,731世帯 【町内自治会数】 ７町内自治会 【高齢化率】 23.4% 【地域の特徴】 JR稲毛駅前付近は高層大規模な集合住宅が林立し、若い世代が集中して、戸建て住民を牽引する形で地域意識が好い町作りの方向に変容しつつある。 集合住宅と戸建住宅が混在する稲毛の台地部で、快速の停車駅JR稲毛駅と、京成稲毛駅はバスの利用なしで行ける。 エリアは７つの自治会から成るが、JR稲毛駅至近に建つ1マンション区（＊）が小学校区は稲丘小、地区部会は小中台西エリアに属し、双方の地区部会活動に関わっている。	1　みんなの様々な居場所と健康づくり	公共施設や空き店舗などを活用した身近な居場所づくり	地区部会が町内自治会や民児協等と連携・協力し、町内自治会館において、いきいきサロンや子育てサロンを実施するなど、住民同士が集える居場所づくりに取り組みます。	地区部会と、町内自治会が連携・協力し、町内自治会館などにおいて、いきいきサロン（7ヶ所　95回）や子育てサロン（1ヶ所　5回）を実施し、住民同士が気軽に集える居場所づくりに取り組みました。	○	地区部会が町内自治会や民児協等と連携・協力し、町内自治会館等において、いきいきサロンや子育てサロンを実施するなど、引き続き住民同士が集える居場所づくりに取り組みます。	コロナウイルスの影響により、休止期間が長期化したことで、担い手の意欲が低下し、活動再開の妨げになっていることから、コロナ以前の状態に戻せるよう、実施方法の検討や新たな人材の発掘・育成に取り組んで行きたい。
		健康づくりや介護予防の普及・啓発	地区部会が、あんしんケアセンターや区健康課等と連携協力し、高齢者に対していきいきサロンを実施するなど、健康づくりや介護予防の普及啓発に取り組みます。	地区部会が区健康課やあんしんケアセンターと連携・協力し、いきいきサロン（7ヶ所　95回）や早朝ラジオ体操を実施すなど、高齢者に対して健康づくりや介護予防に取り組みました。	○	地区部会が、あんしんケアセンターや区健康課等と連携協力し、高齢者に対していきいきサロンを実施するなど、引き続き健康づくりや介護予防の普及啓発に取り組みます。	コロナウイルスの影響により、活動が一部実施できなかったことから、地区部会が区健康課やあんしんケアセンターなどと活動方法の検討や活動内容など、協議を行い、いきいきサロンにおいて健康づくりや介護予防の普及・啓発に取り組んで行きたい。
	2　互いを知り、活かし、支え合い、助け合う、地域づくり	地域のイベントなどを通じての地域交流・多世代交流	地区部会や町内自治会、スポーツ振興会などが連携・協力し、イベント（敬老会、地区運動会、正月行事など）を企画実施し、住民同士が交流できる場づくり取り組みます。	地区部会が各町内自治会主催の敬老会の支援や、スポーツ振興会と連携し、三色対抗運動会などのイベントを企画・実施するなど、多くの地域住民が参加交流できる場づくりに取り組みました。	○	地区部会が町内自治会や地域の関係団体と連携しながら、状況に応じて企画・検討を行いながら、住民同士が交流できるイベント等の開催に向け取り組みます。	コロナウイルスの影響により、休止となっている地域イベントの再開に向け、各種活動団体が、相互に連携・協力し、開催内容・方法などについて協議を行い、幅広い世代が参加・交流できる場づくりに取り組んで行きたい。
		地域住民の参加による見守り・支え合い	地区部会が町内自治会や民児協などと連携・協力し、一人暮らし高齢者等に対して、いきいきサロンやふれあい食事サービスなどを通じて声かけによる安否確認を行うなど、見守り活動に取り組みます。	地区部会と町内自治会が相互に連携・協力し、一人暮らし高齢者等に対して、訪問やいきいきサロン等の機会を通じて声かけ、常任理事会にて情報共有を行うなど、住民同士の見守り活動に取り組みました。	○	地区部会が町内自治会や民児協などと連携・協力し、一人暮らし高齢者等に対して、引き続き、いきいきサロンやふれあい食事サービスなどを通じて声かけによる安否確認を行うなど、見守り活動に取り組みます。	高齢化に伴う担い手不足の解消に向け、活動が継続できるよう、地域住民へ働きかけるとともに、町内自治会や民児協などと連携・協力して地域の実情に沿った活動が実施できるよう取り組んで行きたい。
		地域の情報の収集と発信	地区部会が町内自治会、民児協、関係機関等と連携協力して会議等に相互に参加し、情報を共有するとともに、広報紙等により地域の活動の情報発信に取り組みます。	地区部会と町内自治会、民児協、関係機関等が連携・協力することにより、会議等へ相互に参加し、情報共有を行うとともに、地域住民に対して、地区部会だよりや町内自治会の広報紙などにより、地域活動の情報発信に取り組みました。	○	地域の団体・関係機関が相互に会議等へ参加し、情報共有を行い、地域住民に対し地域活動等の情報発信に取り組みます。	各団体が、相互に連携・協力して情報を共有し、地域住民に対して広報紙等により必要とされる情報の発信に取り組むとともに、地区部会が関係団体と連携・協力して会議等に相互に参加し、情報共有を行うとともに、地域住民に対して、地区部会だよりや町内自治会の広報紙などにより、地域活動の情報発信に取り組んでいきたい。
	3　災害などに備えた安全・安心なまちづくり	いざというときに必要な情報把握や防災講座等の開催	町内自治会自主防災組織が地域住民に対して、災害時に備えて防災訓練や避難訓練を実施するなど、平常時からの防災への意識の向上に努めます。	各町内自治会において、地域住民を対象とした防災訓練を実施するとともに、非常食の試食会を実施するなど、住民一人ひとりの防災意識の向上に取り組みました。	○	地区部会が町内自治会自主防災会などと連携・協力し、避難所開設訓練等や講座を実施するなど、地域住民に対して災害時に備えた防災に関する意識の向上に取り組みます。	町内自治会を中心に防災訓練や避難訓練などの機会を活用し、住民に対して災害時に備えた危機意識向上に取り組むとともに、防災に関する講座を開催し、意識の向上に取り組んでいきたい。
		地域住民を地域で守る取組み	町内自治会等が警察と連携し、地域住民の防犯意識を高めるために防犯パトロールを行うなど、住民同士の防犯活動に取り組みます。	一部の町内自治会が日々の防犯パトロールの他、夏休み期間中に、育成委員会、PTAが防犯パトロールを実施するなど、地域内の防犯活動に取り組みました。 また、警察と連携して、住民に対し防犯に関するチラシを配布して、防犯意識の向上に努めました。	○	各町内自治会が警察と連携し、地域住民の防犯意識を高めるために防犯パトロールを行うなど、引き続き、住民同士の防犯活動に取り組みます。	地区部会が町内自治会や民児協、育成委員会、警察などと連携し、防犯パトロールや防犯に関する講座を実施して、地域住民の防犯意識を高めるためとともに、住民同士の防犯活動に取り組んでいきたい。

稲毛区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和４年度）個票

【達成状況の目安】
◎：年度目標以上のものが達成できた場合
○：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合
×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
―：評価が困難である場合

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和４年度の目標又は予定	令和４年度の実績	達成状況	令和５年度の目標又は予定	今後の課題と方針
千草台中学校地区部会 **【人口・世帯数】** 7,523人・4,806世帯 **町内自治会数** 8町内自治会 **高齢化率** 34.5% **地域の特徴** 2,000世帯から成る千草台団地を中心に新旧の戸建て、マンションが立ち並ぶ全8町内自治会で構成されているエリア。 バスが主な移動手段となり、JR稲毛駅、千葉駅、西千葉駅の利用が可能。 駅までは距離があるが千葉都市モノレールも2駅が利用可能。 また、エリア内には生鮮食料品を扱う店舗は千草台団地内の1店舗。 前記の千草台団地の高齢化率は47%で稲毛区でも2番目に高く、エリア全体でも比較的高い数値となっている。	１　みんなの様々な居場所と健康づくり	健康づくりや介護予防の普及・啓発	地区部会が町内自治会やあんしんケアセンター、区健康課等と連携・協力し、高齢者等に対していきいきサロンなどを実施し、健康づくりや介護予防の普及啓発に取り組みます。	地区部会が区健康課やあんしんケアセンター、シニアリーダー等と連携・協力し、高齢者に対していきいきサロン（3か所）やシニアリーダー体操（1か所）、グラウンドゴルフ大会、認知症声かけ訓練を実施するなど、健康づくりや介護予防の普及・啓発に取り組みました。	○	地区部会が町内自治会やあんしんケアセンター、区健康課等と連携・協力し、高齢者等に対していきいきサロンなどを実施し、健康づくりや介護予防の普及啓発に取り組みます。	高齢化に伴う担い手不足の解消に向け、活動が継続できるよう、担い手を確保するため、地域住民へ働きかける必要がある。
	２　互いを知り、活かし、支え合い、助け合う、地域づくり	地域のイベントなどを通じての地域交流・多世代交流	地区部会が町内自治会、スポーツ振興会などが連携・協力し、イベント（秋祭りや敬老会、地区運動会など）を企画実施し、幅広い世代層が交流できる場づくりに取り組みます。	地区部会や町内自治会、民児協、スポーツ振興会などが秋祭りや敬老会、地区運動会などを相互に連携・協力して、幅広い世代の参加・交流の場づくりに取り組みました。	○	地区部会が町内自治会、スポーツ振興会などが連携・協力し、イベント（秋祭りや敬老会、地区運動会など）を企画実施し、幅広い世代層が交流できる場づくりに取り組みます。	引き続き、既存の地域活動を継続するため、各種活動団体が、相互に連携・協力し、開催内容を充実させるなど、幅広い世代が参加・交流できる場づくりに取り組んで行きたい。
		地域で活動している人・組織同士の連携・協力	地区部会や町内自治会、民児協、スポーツ振興会などが、イベントなどを実施する際、相互に連携・協力し、地域活動に取り組みます。	地区部会や町内自治会、民児協、スポーツ振興会などが秋祭りや敬老会を連携・協力して、幅広い世代の参加・交流の場づくりに取り組みました。	○	地区部会や町内自治会、民児協、学校、公民館などがイベントや地域活動の際に情報共有を行い、相互の連携・協力体制づくりに取り組みます。	町内自治会、民児協、学校など地域の関係団体が実施する会議等へ参加し、情報共有を図りながら連携・協力体制の構築に取り組んで行きたい。
	３　災害などに備えた安全・安心なまちづくり	いざというときに必要な情報把握や防災講座等の開催	町内自治会が地域住民に対して避難訓練等を行うなど、平常時から災害時に備えた支援体制づくりに努めます。	各町内自治会（自主防災組織）で独自に防災訓練や避難訓練を実施し、災害時の支援体制づくりに取り組みました。	○	地区部会が、町内自治会、民児協と連携し、平常時から災害時要支援者の把握をするなど、災害時に迅速な支援ができるよう支援体制づくりに努めます。	地区部会を中心に防災訓練や避難訓練などの機会を活用し、住民に対して災害時に備えた危機意識向上に取り組むとともに、町内自治会と連携が図れるよう体制の構築に取り組んで行きたい。

稲毛区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和４年度）個票

【達成状況の目安】
◎:年度目標以上のものが達成できた場合
○:年度目標が概ね達成できた場合
△:年度目標の一部が達成できた場合
×:年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
―:評価が困難である場合

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和４年度の目標又は予定	令和４年度の実績	達成状況	令和５年度の目標又は予定	今後の課題と方針
草野地区部会 【人口・世帯数】 13,591人・6,819世帯 【町内自治会数】 21町内自治会 【高齢化率】 35.9% 【地域の特徴】 京葉道路の一部、穴川インターチェンジの一部をエリアに含み、概ねエリアの中央を走る国道16号線を境に東西へまたがり、地域には古くからの戸建て、アパート群の中に新設のマンションが建設され、新旧住民が混在している。エリア内で一番世帯数の多いあやめ台団地は高齢化が急速に進行しており、住民の半数近くは高齢者となっている。	１　みんなの様々な居場所と健康づくり	公共施設や空き店舗などを活用した身近な居場所づくり	地区部会が町内自治会や民児協等と連携・協力し、町内自治会館や集会所などにおいて、いきいきサロンや子育てサロン、地域カフェを実施するなど、住民同士が集える居場所づくりに取り組みます。	地区部会が町内自治会や民児協などと連携・協力し、高齢者等に対していきいきサロン(12会場）や若い世代に対して子育てサロン（１会場）を継続して実施するとともに、幅広い世代が気軽に集える地域カフェを開設するなど、身近な居場所づくりに取り組みました。	○	地区部会が町内自治会や民児協等と連携・協力し、町内自治会館や集会所などにおいて、いきいきサロンや子育てサロン、地域カフェを実施するなど、住民同士が集える居場所づくりに取り組みます。	コロナウイルスの影響により、活動が一部実施できなかったことから、活動再開に向け、町内自治会や民児協などと連携・協力して地域の実情に沿った活動が実施できるよう取り組んで行きたい。
		健康づくりや介護予防の普及・啓発	地区部会があんしんケアセンターや区健康課と連携・協力し、いきいきサロンや散歩クラブなどを実施し、健康づくりや介護予防の普及啓発に取り組みます。	地区部会が町内自治会や民児協、区健康課やあんしんケアセンターなどとなどと連携・協力し、高齢者等に対していきいきサロンや散歩クラブを継続して実施するとともに、健康講座や認知症サポーター養成講座などを実施して、健康づくりや介護予防の啓発に取り組みました。	○	地区部会があんしんケアセンターや区健康課と連携・協力し、いきいきサロンや散歩クラブなどを実施し、健康づくりや介護予防の普及啓発に取り組みます。	コロナウイルスの影響により、活動が一部実施できなかったことから、地区部会が区健康課やあんしんケアセンターなどと活動方法について検討を行い、いきいきサロン等において健康づくりや介護予防の普及・啓発に取り組んで行きたい。
	２　互いを知り、活かし、支え合い、助け合う、地域づくり	地域のイベントなどを通じての地域交流・多世代交流	町内自治会やスポーツ振興会、青少年育成委員会などが連携協力し、イベント（夏祭りやラジオ体操、敬老会、地区運動会など）を企画実施するなど、幅広い世代が交流できる場づくり取り組みます。	一部の町内自治会がスポーツ振興会や青少年育成委員会、子ども会と連携・協力し、夏祭りやタ涼み会、ラジオ体操、敬老会、防災訓練などを継続して企画実施し、幅広い世代が参加交流できる場づくりに取り組みました。	○	町内自治会やスポーツ振興会、青少年育成委員会などが連携協力し、イベント（夏祭りやラジオ体操、敬老会、地区運動会など）を企画実施するなど、幅広い世代が交流できる場づくり取り組みます。	コロナウイルスの影響により、休止となっていたイベントの再開と併せ、既存の地域活動を継続するため、各種活動団体が、相互に連携・協力し、開催内容を充実させるなど、幅広い世代が参加・交流できる場づくりに取り組んで行きたい。
		地域住民の参加による見守り・支え合い	地区部会や町内自治会、民児協、ＵＲなどが連携・協力し、一人暮らし高齢者等に対し、「安心登録カード」や「緊急医療情報キット」などによる住民同士の見守り活動に取り組みます。	町内自治会や民児協、ＵＲなどが連携・協力し、一人暮らし高齢者等に対して「あんしん登録カード」や「緊急医療情報キット」を継続して配布するなど、地域住民による見守り活動に取り組みました。 また、いきいきサロン参加者への呼びかけ等を介して、高齢者への見守りに取り組みました。	○	地区部会や町内自治会、民児協、ＵＲなどが連携・協力し、一人暮らし高齢者等に対して既存の活動を行う他、高齢者を対象とした支え合い活動の実施に向け、関係者と協議を行います。	高齢化に伴う担い手不足の解消に向け、活動が継続できるよう、地域住民へ働きかけるとともに、町内自治会や民児協などと連携・協力して、地域の実情に沿った支え合い活動の実施に向け取り組んで行きたい。
	３　災害などに備えた安全・安心なまちづくり	いざというときに必要な情報把握や防災講座等の開催	地区部会や町内自治会、民児協などが千葉市と連携協力し、地域住民に対して災害時に備えて防災訓練や防災講座などを実施するなど、防災意識の向上に努めます。	町内自治会（自主防災）が地域住民に対して防災訓練や避難訓練を実施するなど、住民一人ひとりの災害時に備えた危機意識の向上に取り組みました。 また、避難所運営委員会が区地域振興課と協力して、宿泊を兼ねた防災訓練を行うなど、防災意識の向上に取り組みました。	○	地区部会や町内自治会、民児協などが千葉市と連携協力し、地域住民に対して災害時に備えて防災訓練や防災講座などを実施するなど、防災意識の向上に努めます。	町内自治会を中心に防災訓練や避難訓練などの機会を活用し、住民に対して災害時に備えた危機意識向上に取り組むとともに、防災に関する講座を開催し、意識の向上に取り組んでいきたい。

稲毛区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和４年度）個票

【達成状況の目安】
◎:年度目標以上のものが達成できた場合
○:年度目標が概ね達成できた場合
△:年度目標の一部が達成できた場合
×:年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
―:評価が困難である場合

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和４年度の目標又は予定	令和４年度の実績	達成状況	令和５年度の目標又は予定	今後の課題と方針
緑が丘地区部会 【人口・世帯数】 16,833人・8,173世帯 【町内自治会数】 28町内自治会 【高齢化率】 36.5% 【地域の特徴】 柏台、長沼町の一部、宮野木町の一部、園生町の一部、あやめ台の一部をエリアとしている。あやめ台団地内の一街区、二街区はあやめ台小学区、三街区は柏台小学校区と、団地内で学区が分かれており、旧来からの住民と、最近立ち始めた戸建て住宅に転入してくる新しい方が混在している。	２　互いを知り、活かし、支え合い、助け合う、地域づくり	あいさつから始まる地域との関わり	地区部会が学校やセーフティウォッチャー、町内自治会などと連携協力し、学校周辺及び通学路においてあいさつ運動を実施するとともに、防犯パトロールによる声かけを行うなど、地域内のあいさつ運動の浸透に努めます。	町内自治会や老人会が地域の防犯パトロールや、セーフティウォッチャーによる、宮野木小の登下校時の声掛けを行うなど、地域内のあいさつ運動に取り組みました。	○	地区部会が学校やセーフティウォッチャー、町内自治会などと連携・協力し、学校周辺及び通学路においてあいさつ運動を実施するとともに、防犯パトロールによる声かけを行うなど、地域内のあいさつ運動の浸透に努めます。	継続して、児童・生徒への登下校時や防犯パトロール時のあいさつ運動を行うため、セーフティーウオッチャーや町内自治会など の関係団体と連携を図るとともに、活動を通じて、住民同士のあいさつ運動の浸透に取り組んで行きたい。
		地域で活動している人・組織同士の連携・協力	地区部会や町内自治会、民児協、青少年育成委員会、スポーツ振興会等がイベント（緑ンピックなど）や交流会（民児協と子どもルーム交流など）の実施の際に相互に連携・協力し、地域活動に取り組みます。	地区部会をはじめ町内自治会や民児協、青少年育成委員会、スポーツ振興会が、緑ンピック等のイベントや、民児協と子どもルームが行う交流会おいて、相互に連携・協力して取り組みました。	○	地区部会や町内自治会、民児協、青少年育成委員会、スポーツ振興会等がイベント（緑ンピックなど）や交流会（民児協と子どもルーム交流など）の実施の際に相互に連携・協力し、地域活動に取り組みます。	高齢化に伴う担い手不足の解消に向け、既存の活動が継続できるよう、地域住民へ働きかけるとともに、町内自治会、民児協、学校など地域の関係団体が実施する会議等へ参加し、情報共有を図りながら連携・協力体制の構築に努めていきたい。
		地域住民の参加による見守り・支え合い	地区部会が町内自治会や民児協等と連携・協力して、高齢者等に対して日常的な声かけなどによる見守り活動やゴミ出し等、住民同士の支え合い活動に取り組みます。 また、「お互い地域で支え合うことで孤独死を防ごう」をテーマとした講演会を開催し、地域での見守り・支え合い活動の啓発に取り組みます。	地区部会が民児協、町内自治会と連携・協力し、地域の高齢者に対して、見守りや支え合いに関する講座地区連協共催）を開催し、意見交換や情報共有に取り組みました。 また、一部の町内自治会において、単身・高齢者世帯に対しゴミ出し支援や見守り活動を行うなど、住民同士の支え合い活動に取り組みました。	○	地区部会が町内自治会や民児協等と連携・協力して、高齢者等に対して日常的な声かけなどによる見守り活動やゴミ出し等、住民同士の見守り・支え合い活動の拡充に取り組みます。	高齢化に伴う担い手不足の解消に向け、活動が継続できるよう、地域住民へ働きかけるとともに、町内自治会や民児協などと連携・協力して地域の実情に沿った活動が実施できるよう取り組んで行きたい。

稲毛区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和４年度）個票

【達成状況の目安】
◎:年度目標以上のものが達成できた場合
○:年度目標が概ね達成できた場合
△:年度目標の一部が達成できた場合
×:年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
―:評価が困難である場合

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和４年度の目標又は予定	令和４年度の実績	達成状況	令和５年度の目標又は予定	今後の課題と方針
301（作草部・天台）地区部会 【人口・世帯数】 12,441人・5318世帯 町内自治会数 16町内自治会 高齢化率 29.8% 地域の特徴 稲毛区の南西に位置する、中央区と若葉区が隣接する新旧の戸建て・集合住宅が立ち並ぶエリア。 商業施設も充実しており、公共交通機関は千葉都市モノレールやバスの利用が可能で、利便性は高い。 旧来からの戸建て住宅では高齢化が進行し、独居・高齢者世帯が増加している。	2　互いを知り、活かし、支え合い、助け合う、地域づくり	地域のイベントなどを通じての地域交流・多世代交流	地区部会や町内自治会、スポーツ振興会などが連携・協力して、「社協まつり（敬老会）」や「ラジオ体操大納会」等を実施し、住民同士が交流できる場づくりに取り組みます。	新型コロナウイルスの影響により、「社協まつり（敬老会）」や「ラジオ体操大納会」は休止となりましたが、代替事業として、都賀小学校と連携し、高齢者へしおり（1,200枚）や独居高齢者を対象にクリスマスカード（500枚）を作成・配布するなど、交流を図りました。	○	新型コロナウイルスの状況を踏まえ、工夫しながら「社協まつり（敬老会）」や「夏休みラジオ体操大納会」等、大人数での事業開催に向け取り組んでいきたい。	コロナウイルスの影響により一部の行事は実施に至らず苦慮していることから、コロナ以前の状況に戻すため、各種活動団体が、相互に連携・協力し、開催内容・方法などについて協議を行い、幅広い世代が参加・交流できる場づくりに取り組んで行きたい。
		地域住民の参加による見守り・支え合い	地区部会が町内自治会・民児協と連携・協力し、高齢者等に対してゴミ出しや買物のお手伝いなど、身近な住民同士の支え合い活動に取り組みます。	地区部会が町内自治会・民児協と連携・協力して行う、「301地区支え合いの会」において、高齢者等を対象にゴミ出しや買物の手伝いの他、多様なニーズに対応するなど、住民同士の支え合い活動に取り組みました。 また、継続して2町内自治会において、「無事です」ステッカーを活用した安否確認や、行事の参加者へ声かけによる見守り活動に取り組みました。	○	引き続き、地区部会が町内自治会・民児協と連携・協力し、高齢者等に対してゴミ出しや買物のお手伝いなど、身近な住民同士の支え合い活動に取り組んでいきたい。	高齢化に伴う担い手不足の解消に向け、活動が継続できるよう、地域住民へ働きかけるとともに、町内自治会や民児協などと連携・協力して地域の実情に沿った活動が実施できるよう取り組んで行きたい。
		地域の情報の収集と発信	地区部会や町内自治会、民児協、各種活動団体・関係機関が相互に会議等に参加し、情報共有するとともに、広報紙などを通じて地域住民に活動等の情報発信に取り組みます。	コロナウイルスの影響により規模を縮小して、地区部会や町内自治会、民児協、各種活動団体・関係機関が相互に会議等に参加し、情報共有を行いました。 また、広報紙（9月、3月発行）などを通じて地域住民に地域活動等の情報発信に取り組みました。	○	地域の団体・関係機関が相互に会議等へ参加し、情報共有を行い、地域住民に対し地域活動等の情報発信に取り組んでいきたい。	地区部会が関係団体と連携・協力して会議等に相互に参加し、情報共有を行うとともに、地域住民に対して広報紙等により必要とされる情報の発信に取り組んでいきたい。
	3　災害などに備えた安全・安心なまちづくり	いざというときに必要な情報把握や防災講座等の開催	地区部会や町内自治会自主防災会などが連携・協力し、避難所開設訓練や防災講座等を実施するなど、地域住民に対して災害時に備えた防災に関する意識の向上に取り組みます。	地区部会や町内自治会自主防災会などが連携・協力し、避難所運営委員会の開催（７月）や避難所開設訓練（８月）を実施するなど、地域住民に対し防災に関する意識の向上に取り組みました。 また、地区部会、避難所運営委員会を対象として、有事の際に迅速な対応が求められることから、赤十字奉仕団を講師として、心肺蘇生とAEDの使用について講習会を開催しました。	○	地区部会や町内自治会自主防災会などが連携・協力し、避難所開設訓練等や講座を実施するなど、地域住民に対して災害時に備えた防災に関する意識の向上に取り組みます。	地区部会や町内自治会自主防災会などが連携・協力し、防災訓練や避難訓練などの機会を活用し、住民に対して災害時に備えた危機意識向上に取り組むとともに、町内自治会と更なる連携が図れるよう体制の構築に取り組んで行きたい。

稲毛区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和４年度）個票

【達成状況の目安】
◎:年度目標以上のものが達成できた場合
○:年度目標が概ね達成できた場合
△:年度目標の一部が達成できた場合
×:年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
―:評価が困難である場合

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和４年度の目標又は予定	令和４年度の実績	達成状況	令和５年度の目標又は予定	今後の課題と方針
緑・黒砂地区部会 【人口・世帯数】 9,261人・5,043世帯 【町内自治会数】 ７町内自治会	1　みんなの様々な居場所と健康づくり	健康づくりや介護予防の普及・啓発	地区部会が区健康課やあんしんケアセンターと連携・協力し、高齢者に対していきいきサロンや、ふれあい食事サービスを実施し、健康づくりや介護予防の普及啓発に取り組みます。	地区部会が区健康課やあんしんケアセンターと連携し、高齢者向けにいきいきサロンを開催した他、健康講座などにより健康づくりや介護予防の普及・啓発に取り組みました。 また、エリア内数か所の公園でラジオ体操を実施（３回）しました。	○	地区部会が区健康課やあんしんケアセンターと連携・協力し、高齢者に対していきいきサロンや、ふれあい食事サービスを実施し、健康づくりや介護予防の普及啓発に取り組みます。	地区部会が区健康課やあんしんケアセンターなどと連携・協力し、いきいきサロンの内容について参加者のニーズを把握して実施するとともに、介護予防に関する情報を共有し、健康づくりや介護予防の普及・啓発に取り組んで行きたい。
【高齢化率】 22.1% 【地域の特徴】 JR線を境に、南に走る国道357号線までの緑町、黒砂、黒砂台1丁目～2丁目をエリアとし、中心を京成線が東西に走っている。 文教施設があり、または隣接していることもあり、日中の学生数、またエリアにも学生が点在し居住しているのも特徴である。	2　互いを知り、活かし、支え合い、助け合う、地域づくり	あいさつから始まる地域との関わり	学校（セーフティウォッチャー）と各種関係団体が連携し、一定期間に通学路や学校周辺、地域内であいさつ運動を行い、子どもから大人までが顔なじみになるよう関係づくりに取り組みます。	町内自治会や学校（PTA）と連携し、一定期間に、通学路や学校周辺であいさつ運動を行うとともに、見守り隊によるあいさつ（声掛け）や、月1回、学校からのお知らせを自治会回覧で配布するなど、子どもから大人までが顔なじみになるよう、あいさつ運動への協力に取り組みました。	○	学校（セーフティウォッチャー）と各種関係団体が連携し、一定期間に通学路や学校周辺、地域内であいさつ運動を行い、子どもから大人までが顔なじみになるよう関係づくりに取り組みます。	引き続き、町内自治会、学校、セーフティーウオッチャー等と連携し、あいさつ運動の拡充を図るとともに、地域のイベントや広報媒体等を通じて広報啓発を行い、あいさつ運動が地域へ浸透するように取り組んで行きたい。
		地域のイベントなどを通じての地域交流・多世代交流	地区部会が主体となり幅広い世代が参加できる「福祉バザー」を実施する他、町内自治会、民児協が連携・協力し、「納涼祭」「敬老会」等を実施するなど、住民同士が交流できる場づくりに取り組みます。	町内自治会や青少年育成委員会、民児協が連携・協力し、地域全体で納涼祭（８月）や敬老会（９月）、福祉バザー（11月）を実施するほか、小学生との交流会に参加するなど、住民同士が交流できる場づくりに取り組みました。	○	地区部会が主体となり幅広い世代が参加できる「福祉バザー」を実施する他、町内自治会、民児協が連携・協力し、「納涼祭」「敬老会」等を実施するなど、住民同士が交流できる場づくりに取り組みます。	引き続き、既存の地域活動を継続するため、各種活動団体が、相互に連携・協力し、開催内容を充実させるなど、幅広い世代が参加・交流できる場づくりに取り組んで行きたい。
	3　災害などに備えた安全・安心なまちづくり	地域住民を地域で守る取り組み	町内自治会や民児協、各種活動団体が連携・協力して防犯活動協力者を確保し、自転車に防犯ステッカーを掲示するなど、地域内の防犯活動に取り組みます。	民生委員活動を通じて、高齢者等に対し声かけによる安否確認や、一部の町内自治会が、週２回の防犯パトロール等、見守り活動に継続して取り組むとともに、「防犯ステッカー」を防犯活動協力者の自転車に掲示するなどして、地域内の防犯活動に取り組みました。	○	町内自治会や民児協、各種活動団体が連携・協力して防犯活動協力者を確保し、自転車に防犯ステッカーを掲示するなど、地域内の防犯活動に取り組みます。	高齢化に伴う担い手不足の解消に向け、活動が継続できるよう、地域住民へ働きかけるとともに、町内自治会や民児協などと連携・協力して地域の実情に沿った活動が実施できるよう取り組んで行きたい。

稲毛区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和４年度）個票

【達成状況の目安】
◎:年度目標以上のものが達成できた場合
○:年度目標が概ね達成できた場合
△:年度目標の一部が達成できた場合
×:年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
—:評価が困難である場合

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和４年度の目標又は予定	令和４年度の実績	達成状況	令和５年度の目標又は予定	今後の課題と方針
小中台西地区部会 【人口・世帯数】 21,342人・12,537世帯 【町内自治会数】 18町内自治会 【高齢化率】 24.4% 【地域の特徴】 JR稲毛駅周辺を中心とした小仲台1丁目から9丁目のエリア。 新・旧の戸建て住宅とマンションが混在し、駅周辺のマンションには若い世代が多く居住しているが、JR稲毛駅から距離のある旧来からの集合住宅では高齢化が進行している。	2　互いを知り、活かし、支え合い、助け合う、地域づくり	あいさつから始まる地域との関わり	地区部会が町内自治会・学校・青少年育成委員会と連携・協働し、あいさつをテーマにした標語の作品募集を行い、「東西社協まつり（10月）」や広報紙などで作品の広報啓発に取り組みます。 また、地区部会が町内自治会や民児協などと連携・協力して、町内に掲出するステッカー等により、地域住民に「あいさつ・声かけ運動」の浸透に取り組みます。	地区部会が近隣校（小中台・小中台南・園生・柏台小）の協力を得る中、あいさつをテーマにした標語作品を募集し、「東西社協まつり（小中台公民館）」で優秀作品の展示会を行うとともに、あいさつ運動のステッカーを作成して町内自治会の掲示版に掲示するなど、あいさつ運動の浸透に取り組みました。 また、セーフティウォッチャー（小中台、小中台南、園生小）が青少年育成委員や民生委員と連携・協力して登下校時のあいさつ運動や、町内自治会が防犯パトロールを兼ねてあいさつ・声かけ運動に取り組みました。	○	地区部会が町内自治会・学校・青少年育成委員会と連携・協働し、あいさつをテーマにした標語の作品募集を行い、「東西社協まつり（10月）」や広報紙などで作品の広報啓発に取り組みます。 また、地区部会が町内自治会や民児協などと連携・協力して、町内に掲出するステッカー等により、地域住民に「あいさつ・声かけ運動」の浸透に取り組みます。	引き続き、町内自治会、学校、セーフティーウオッチャー等と連携し、町内自治会が防犯パトロールを兼ねたあいさつ・声かけ運動の拡充を図るとともに、地域のイベントや広報媒体等を通じて広報啓発を行い、あいさつ運動が地域へ浸透するように取り組んで行きたい。
		地域のイベントなどを通じての地域交流・多世代交流	地区部会が町内自治会や民児協、各種活動団体と連携・協力して「東西社協まつり（10月）」などイベントを企画実施する他、自治会単位で開催する祭やイベントなどを通じて住民同士が交流できる場づくりに取り組みます。	地区部会が町内自治会や民児協、商工会、学校などと連携・協力し、「東西社協まつり（10/30　小中台公民館）」や町内自治会ごとに夏祭り等を開催するなど、住民同士が交流できる場づくりに取り組んだ。	○	地区部会が町内自治会や民児協、各種活動団体と連携・協力して「東西社協まつり（10月）」や「茶話会（3月）」などイベントを企画実施する他、自治会単位で開催する祭やイベントなどを通じて住民同士が交流できる場づくりに取り組みます。	高齢化に伴う担い手不足の解消に向け、活動が継続できるよう、地域住民へ働きかけるとともに、町内自治会や民児協などと連携・協力して地域の実情に沿った活動が実施できるよう取り組んで行きたい。
		地域住民の参加による見守り・支え合い	地区部会が町内自治会や民児協と連携し、一人暮らし高齢者等に対して日常的な声かけなどの安否確認等による見守り活動に取り組みます。	７町内自治会が一人暮らし高齢者に対して訪問による声かけや防犯パトロール等により安否確認の見守りを継続的に取り組んだ他、地区部会が町内自治会や民児協と連携・協力し、いきいきサロン（6会場）の活動を介して高齢者等の見守りに取り組みました。 また、一部の自治会で平常時のほか、被災時など緊急時の見守りとの２パターンを想定した見守り活動に取り組みました。	○	地区部会が町内自治会や民児協と連携し、一人暮らし高齢者等に対して日常的な声かけなどの安否確認等による見守り活動に取り組みます。	高齢化に伴う担い手不足の解消に向け、活動が継続できるよう、地域住民へ働きかけるとともに、町内自治会や民児協などと連携・協力して地域の実情に沿った活動が実施できるよう取り組んで行きたい。

若葉区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和4年度）総括表

【達成状況の目安】
◎：年度目標以上のものが達成できた場合
○：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合
×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
―：評価が困難である場合

◆基本方針別取組状況

基本方針	取組項目数	取組項目の達成状況		主な取組内容
1 だれもが顔見知り、交流とふれあいの仕組みをつくりましょう	26	◎	2	ふれあい・いきいきサロン、コミュニティカフェを実施。様々な工夫を凝らし地域の高齢者の仲間づくりや交流の場を提供。ふれあい・子育てサロンの実施。地域ぐるみの子育て支援に取り組む。インスタグラムでの子育てサロン動画の配信を行う。歩こう会、グラウンドゴルフ、ボッチャ、バレーボール大会等の運動イベントの開催。介護支援・介護予防教室、福祉の集いの開催。健康体操、ラジオ体操等を通し健康づくりに取り組む。
		○	12	
		△	5	
		×	7	
		－		
2 あなたもわたしも地域の一員、身近な支えあいの仕組みをつくりましょう	13	◎	1	訪問、あんしんカード配付、広報紙による地域住民への啓蒙、理解促進等に取り組む。支えあい活動により、買物、付添、ゴミ出し等の支援を行う。高齢者等の見守り活動者や普及のための地域住民の説明会の実施。地区部会や町内自治会の広報や各種イベント等で福祉活動推進員やボランティアの募集を行う。
		○	6	
		△	2	
		×	3	
		－	1	
3 備えあれば憂いなし、安全と安心の仕組みをつくりましょう	7	◎		地域自治会やボランティア活動により防犯パトロール、セーフティーウォッチャー等の見守り活動、チラシ回覧にて注意喚起を促す。防災マップ作成準備、町内自治会に対し自主防災組織設置の働きかけ、防災訓練、防災講習会等の開催、町内自治会と地区部会による災害時要支援者情報の共有化検討等に取り組む。
		○	2	
		△	2	
		×	2	
		－	1	
4 必要な情報が行き渡り、気軽に相談しあえる仕組みをつくりましょう	2	◎		「ミニ福祉通信」等の広報紙を発行。地域福祉に関する多様な情報提供を実施。地域ケア会議を開催し地域課題の共有と意見交換を行う。サロン開催や広報誌作成時にあんしんケアセンターと連携し、相談窓口の設置や介護保険等の情報提供に取り組む。
		○	1	
		△		
		×	1	
		－		
5 世代を超えて、ともに学び合い参加できる仕組みをつくりましょう	3	◎		ふれあい祭等を通した子供たちとのふれあい、小中学校の夏季及び冬季休業時に学校と地域との連携による工作教室や昔遊びの実施。高校、大学、地域住民並びに地区部会の連携によるふれあい・子育てサロン、各種講座を実施。広報誌を発行し、福祉教育に代わる啓発や福祉に関する地域への情報提供を行う。
		○	1	
		△	1	
		×	1	
		－		
今年度の振り返り	51	◎	3	令和4年度も前年に引き続きコロナウィルス感染拡大の影響で活動の中止や見合わせをするケースもあったが、その中で感染予防対策を講じて可能な活動は積極的に継続され、広報誌や物品等の配布による交流や啓発の実施、SNS等を活用したリモートによる活動等、様々な工夫やアイデアを盛り込んだ地域活動の事例がみられた。
		○	22	
		△	10	
		×	14	
		－	2	

今後の課題と方針	・新型コロナウィルス感染予防に配慮した活動を検討していく ・若葉区全体としての活動の一体化を推進していく ・地域活動に対する住民の理解や活動の見える化を進めていく ・高齢化に伴う地域活動の担い手不足や介護等の問題に取り組んでいく

◆区支え合いのまち推進協議会開催状況

回数	開催日	主な議題
第1回	7月14日（金）	・新役員の選出及び今年度の協議会の運営、開催予定について ・令和4年度の取組状況の調査について ・第5期若葉区支え合いのまち推進計画の中間見直しについて
第2回	10月27日（金）	・第5期若葉区支え合いのまち推進計画の中間見直し原案について ・令和4年度の取組状況の調査の報告について

◆区支え合いのまち推進協議会だより発行状況

号数	発行日	発行部数及び主な配布先
		令和4年度は発行なし

◆区の地域福祉に関する紹介事例等

【白井地区】
1．コロナ禍における地域福祉活動の推進
①集合実施から分散活動も実施。白井地区部会は東西12kmとエリアが広い。中間にある白井公民館で実施していたイベント（認知症講座、ボッチャ体験会）を、自治会に出向き実施。参加者から好評を得た。（高齢化に伴い集まりやすい、ボッチャは楽しい）
②わくわくパックの推進（児童母子福祉委員会）
子育てサロン（偶数月6回）の他に、奇数月6回に幼児用の工作キット（わくわくパック）を作成し、公民館のロビーで配布。30キットが2週間でなくなり好評。
③タオルでボランティア（ボランティア委員会）
・家庭に眠っているタオル（新品、再利用可能）の提供を受け、白井地区の13施設（高齢者、障害者、グループホーム）に配布。施設との繋がり、意見交換の場が出来た。施設からも、地域に協力できることを模索中との意見をいただく。（買い物支援については、野呂自治会（昌晴園）、野呂団地自治会（若葉泉の里）で実施中。他、美香苑、恵光園でも買い物支援を実施中）
・タオルの帽子を作って施設に贈ろう：日赤25分団がボランティア委員会と連携し、40個の帽子を作成、地区内の6施設に贈呈。

2．活動の拡大
①R4年度、いきいきサロンの状況：組織の高齢化に伴い活動終了が1件、新たに2つのサロン（囲碁将棋、ヨーガ研究会）が登録された。
②ガイドヘルプ講座の実施：障害を持つ方へのサポート講習会（知的障害・自閉症疑似体験講座、聴力の弱くなった方への対応）参加者に好評であった。

【26地区】
いずみ台ローズタウンと大宮台を歩いて交流できる生活・通学路（小学校統合も大きな要因）を設けるため、令和3年度から旧農道・山道を調べ草竹を刈取り、折重なった倒木を除却して道筋をつける活動を展開すると共に、行政に対しても整備要請を連協を通して行い、少しずつではあるが、行政も動き、話し合いのテーブルも2回、開かれた。

【都賀地区】
かねてより地区部会活動の「みえる化」が懸案事項であったが、折しもコロナ禍によりすべての活動の休止を余儀なくされ、活動の代替えとしてミニ福祉通信「みんな仲間」を令和2年1月から隔月発行し、今年度も継続している。住民に寄り添う地区部会活動の趣旨から、大切な福祉関連情報を広域的に回覧で住民に提供した。

若葉区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和4年度）個票

【達成状況の目安】
◎：年度目標以上のものが達成できた場合
〇：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合
×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
―：評価が困難である場合

地区部会エリア	基本方針	取組項目（第4期計画の重点取組項目）		令和4年度の目標又は予定		令和4年度の実績	達成状況	令和5年度の目標又は予定	今後の課題と方針
				第4期計画の総括・今後の課題	令和4年度の取り組みの方向性				
坂月地区部会エリア 【人口・世帯数】 4,884人、2,220世帯 【町内自治会数】 5町内自治会 【高齢化率】 21.1% 【地域の特徴】 戸建住宅が少しずつ増え、新住民も増えてきているが、多くの生徒は、千城台西小学校へ通学しているため、エリア内にある坂月小学校（市内で最少人数）に通学する生徒は少ない。	1　だれもが顔見知り、交流とふれあいの仕組みをつくりましょう	④	福祉施設や地域行事でのふれあい交流活動の実施	・コロナの影響により開催自粛せざるを得ない状況。 ・地域の皆さんが集まっても大丈夫かどうかの見極めの時期が今後の課題	現状維持とする。	・令和4年度は昨年に引き続き新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、“歩こう会”、“グラウンドゴルフ大会”を自粛としたため、実施には至らなかった。	×	※令和５年度は、第５期計画の中間見直しを作業を実施しており、各地区部会で新たな重点取組項目の選定を行っている。 現在、新たな重点取組項目の選定を終え、令和５年度から令和８年度にかけての年度毎の年次取組目標および具体的な活動計画を策定中である。	
	3　備えあれば憂いなし、安全と安心の仕組みをつくりましょう	⑭	防犯・防災意識を高め実践する。	・住宅の造成、災害（台風、豪雨）で新しい内容が出てきており、マップの作成が出来なかった。	令和4年度作成予定。	・令和4年度は昨年に引き続き新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、地域活動全般を自粛としたためマップの作成には至らなかった。	×		
	4　必要な情報が行き渡り、気軽に相談しあえる仕組みをつくりましょう	⑯	地域福祉に関する情報の発信	・コロナの影響により開催自粛せざるを得ない状況。 ・地域の皆さんが集まっても大丈夫かどうかの見極めの時期が今後の課題	広報紙は発行する方向に考えている。	・令和4年度は昨年に引き続き新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、広報紙の発行には至らなかった。	×		
貝塚地区部会エリア 【人口・世帯数】 6,504人、3,664世帯 【町内自治会数】 9町内自治会 【高齢化率】 21.1% 【地域の特徴】 代々続く旧家の多いエリアと、造成地へ戸建てが立ち、そこへ住む転入住民、賃貸住宅の多いエリアなどが混在し、古くから住宅のあるエリアでは2世代、3世代同居の家も多い。	1　だれもが顔見知り、交流とふれあいの仕組みをつくりましょう	①	地域ぐるみで声掛け・あいさつ運動の実施	・活動を支える人員を増やす必要を感じるが、コロナ禍がおさまる時期を見て呼びかけをする必要がある。	高齢者のサロン等の集会はコロナ禍の中で見通せないが、小学生への見守り活動は拡充すること。	・都小学校と北貝塚小学校区内のセーフティウォッチャーは継続出来た。 ・昨年に引き続きコロナウイルス感染防止の観点からサロンの開催が実施できなかった。 （令和5年度から民生委員による高齢者（75歳以上）を対象とした実態調査が再開されたことを契機に高齢者への声掛けや見守りの機会が増えてきている。）	△	同上	
		④	福祉施設や地域行事でのふれあい交流活動の実施	・資金的な制約や担い手の高齢化が進み、継続することが厳しい状況ですが、これまでの取組は守りたい。	大きな集会活動は見通せないので、無理であればどのようなことができるか検討したい。	・コロナウイルス感染防止の観点から芋煮会・健康セミナー・ボランティア講座等は実施には至らなかった。	×		
		⑤	気軽に過ごせる居場所づくり	・高齢者の参加は年ごとに減少している。高齢者は増えているが衰えから体調を悪くする人が増え、拡大できていない。 ・喜んで参加していただける企画、行事とするか、足を運んでも楽しみとなるためには等、検討していく。	コロナ禍がどのように展開するのか？集会をするためにはどのような催しとするか、まず検討する。	・いきいきサロン（65歳以上対象・年間5回予定）、お話し会（小学校6年生以下対象・年間2回開催予定） 共にコロナウイルス感染防止の観点から実施に至らなかった。	×		
	2　あなたもわたしも地域の一員、身近な支えあいの仕組みをつくりましょう	⑨	わたしたちのまちの福祉を考える会（仮称）の設置	・最初から話し合いをする。 ・情報の入手、各町会が必要とする企画を考える。	各町内自治会の考えが異なるため、同じ方向の情報、話題を検討する。	・令和4年度の目標に挙げた「全町内・自治会で話し合う会」の設置に至らなかったが、社協地区部会で三役会を開催する際は、各町内・自治会長に出席頂き連携を図った。	△		
	3　備えあれば憂いなし、安全と安心の仕組みをつくりましょう	⑬	防犯活動の実施	・地区部会全体での行動、統一した取り組みはあまりできなかった。青パトの巡回を全体に広げることを考えたい。（講習を受ける人を増やす）	個々の人が取り組める防犯、防災への意識を高める。コロナ感染を防ぎながら取り組めるものを検討したい。	・地区部会全体で統一した活動には至らなかったが、各町内・自治会で防犯対策をしており、青パトによる巡回等を行っている。また都小学校区内は、こども110番のポスターの掲示協力をしている。	△		
		⑭	防災・減災活動の実施	・大きな進展はなし ・台風被害を経験しているが、地区全体として何かを統一してできるか、それぞれ違いがある	具体的な訓練を実施できる形を作っていきたい。	・各町内・自治会で防災組織は整っているが、防災訓練等はコロナウイルス感染防止の観点から実施出来なかった。	×		

若葉区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和4年度）個票

【達成状況の目安】
◎：年度目標以上のものが達成できた場合
○：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合
×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
―：評価が困難である場合

地区部会エリア	基本方針	取組項目（第4期計画の重点取組項目）		令和4年度の目標又は予定		令和4年度の実績	達成状況	令和5年度の目標又は予定	今後の課題と方針
				第4期計画の総括・今後の課題	令和4年度の取り組みの方向性				
桜木地区部会エリア 【人口・世帯数】 15,107人、7,694世帯 【町内自治会数】 20町内自治会 【高齢化率】 27.3% 【地域の特徴】 幹線道路が複数本通っており、地域を分断している。 住宅地が多く、古くからの住民に加え、新住民が増えてきている。	1　だれもが顔見知り、交流とふれあいの仕組みをつくりましょう	②	子育てしやすい環境づくり	・ととけっこーの存在が少しずつでも周知されてきているように感じる。 ・地域協力者として桜木保育所との連携が定着した。所長が異動の際の引継ぎを行ってくれている。 ・前指導者の後継となる方が見つかり、安定した運営に見通しがついた。 ・運営側の引継ぎ体制が課題	新型コロナの不安が残る中、無理のないサロン運営。	・子育てサロン「ととけっこーー」を開催。（10回/年） 新型コロナ感染拡大防止のため、定員5組・事前申込とした。 実施日＝8月、12月を除き年10回の第4月曜日	○	※令和５年度は、第５期計画の中間見直しを作業を実施しており、各地区部会で新たな重点取組項目の選定を行っている。 現在、新たな重点取組項目の選定を終え、令和５年度から令和８年度にかけての年度毎の年次取組目標および具体的な活動計画を策定中である。	
		⑤	気軽に過ごせる居場所づくり	・既に活動しているサロンはいずれも工夫を凝らして熱心に取り組んでいる。サロンが無い自治会の方へ声掛けをしたが、新規サロン開設には至らなかった。 ・サロンがない自治会の殆どは自治会館等の公的な活動場所が無い。公民館は予約が難しい状態なので、新たなサロンの開設は厳しい。	新型コロナの不安が残る中、無理のないサロン運営。	・いきいきサロン7か所のうち4か所が活動した。活動した各サロンはそれぞれ新型コロナ感染予防の工夫を行った。	△		
		⑦	地域でできる介護予防・健康づくり	・普段ならばスポーツ等のイベントが盛んの地域で、参加者数も安定している。新型コロナのために後期活動がすべて中止になり残念だった。 ・新たな住民に向けて、イベント周知と参加を声掛けが課題。	新型コロナの不安が残る中で、無理ない事業企画。中止もやむを得ずとする。	・10/30に地区部会主催「グラウンドゴルフ大会」を開催。 参加者50名。 ・ふれ合い食事会に代わり、「ボッチャ体験会」を開催。 参加者55名。	○		
	2　あなたもわたしも地域の一員、身近な支えあいの仕組みをつくりましょう	⑪	見守り活動の仕組みづくり	・自治会単位で見守り活動を増やすことは簡単ではないことが分かった。 ・当会では年末に80歳以上独居者・65歳以上寝たきり高齢者・18歳未満心身障害児を慰問している。このような地区全体での見守り活動は今後も続けたい。 ・他地区での見守り活動実践例を知り、地域で活かす。	・新規見守り活動の定着。 ・年末慰問金の配布活動。（当該家庭を訪問）	・桜木町第四町内会にて見守り活動を実施した。 ・12月に対象家庭を訪問し、年末慰問金の配布を実施した。 ・桜木公民館にて「見守り説明会」を開催。	○		
小倉地区部会エリア 【人口・世帯数】 13,984人、6,731世帯 【町内自治会数】 12町内自治会 【高齢化率】 26.8% 【地域の特徴】 約1,600世帯が属する小倉台中央自治会（小倉台1丁目～小倉台7丁目）がエリアの中心にある。千葉都市モノレール小倉台駅を中心に、南北には戸建て主に住宅からなる住宅街と一部集合住宅（市営・県営）、幹線道路沿いには商店街が広がる。	1　だれもが顔見知り、交流とふれあいの仕組みをつくりましょう	②	子育てしやすい環境づくり	・例年11月第2金曜日小倉台中央自治会館にて開催は定着している。 ・例年20組前後の親子の参加がある。内容はほとんど変わらず開催している。 ・コロナ禍の中、消毒、検温、ソーシャルディスタンス、おもちゃの共有可否が課題 ・会場に定員があるため、先着順にするのか等話し合っていき、11月開催を目指す。	スタッフの人数が少なく、回数が1回に終わっているので、年2回開催に向けて、社協全体の活動として捉えていければと考える。	・子育てサロンは、コロナウイルス感染防止対策を行い開催した。 ※「ぴーなっつ」：11回/年　延168組　延360名 ※「小倉子育てサロン」：中止 ※なお、小倉小学校開催（主催）「昔遊び」に協力。	△	同上	
		⑤	気軽に過ごせる居場所づくり	・毎月1回の開催を楽しみにしている参加者が増えた。スタッフと顔なじみになり、他の場所でも声を掛け合っている。継続は力なり。 ・地域内1カ所の開催がどうかと考えたが、他の地域では場所やスタッフの確保が難しいので、エリア中央の1カ所を充実させることを考えたい。	参加者を増やすことと内容を充実させること。	・「いきいきサロン」：11回/年　延125名 ・「おりがみ教室」：9回/年　延67名 ※サロン終了後、運営委員会を開催し、問題点等を議論、検討を行った。	○		
	2　あなたもわたしも地域の一員、身近な支えあいの仕組みをつくりましょう	⑪	見守り活動の仕組みづくり	・安心カードは、消防署とも連携を取っている活動なので、今後少しでもスムーズに行く様に考えていきたい。	民生委員の健康調査実施後に75歳以上高齢者に配布を継続したい。	・令和3年度は、コロナ禍の中、配布出来なかったが、今年度はスムーズに行われた。安心カードは、消防署とも連携を取っている活動なので、今後少しでもスムーズに行く様に考えていきたい。	○		

若葉区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和4年度）個票

【達成状況の目安】
◎：年度目標以上のものが達成できた場合
○：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合
×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
―：評価が困難である場合

地区部会エリア	基本方針	取組項目（第4期計画の重点取組項目）		令和4年度の目標又は予定		令和4年度の実績	達成状況	令和5年度の目標又は予定	今後の課題と方針
				第4期計画の総括・今後の課題	令和4年度の取り組みの方向性				
白井地区部会エリア 【人口・世帯数】 6,270人、3,476世帯 【町内自治会数】 18町内自治会 【高齢化率】 48.5% 【地域の特徴】 対象エリアが非常に広く、大きく3つの地域（西部・東部・中部）に分けられ、それぞれ異なる歴史・成り立ちを持ち、昔からの歴史のある地域と新興住宅地が混在している。	1　だれもが顔見知り、交流とふれあいの仕組みをつくりましょう	⑤	気軽に過ごせる居場所づくり	・概ね実施できた。次年度に向けて参加グループを増やす。 ・サロン参加者が固定化している。既存グループに新規参加者が入りづらくなっている。（指導者も一緒に高齢化）新しいグループを立ち上げるためにグループリーダー発掘が課題。	コロナ禍でできるサロンを検討・実施する。	・白井地区部会のいきいきサロンは10か所で実施。 ・コロナ禍の為、休止の自治会あり（3）。7か所で実施。 ＜工夫した取組例＞「回覧サロン」 集まれないので、参加メンバー家順の一覧表を作り、近況を書き、お知らせを回覧する仕組み。誕生月の方には記念カード（皆の寄せ書き）を贈呈。	○	※令和５年度は、第５期計画の中間見直しを作業を実施しており、各地区部会で新たな重点取組項目の選定を行っている。 現在、新たな重点取組項目の選定を終え、令和５年度から令和８年度にかけての年度毎の年次取組目標および具体的な活動計画を策定中である。	
	2　あなたもわたしも地域の一員、身近な支えあいの仕組みをつくりましょう	⑧	活動の中核となれる人材の発掘	・委員会活動の取り組み姿勢が前向きであった。 ・役員の高齢化が進んでおりボランティアのなり手が見つからないことが課題。	・委員会活動を通じて人材を発掘する。 ・住民参加のイベントを増やす。	・令和4年度は福祉活動推進員10名となった。（体調不良で1名が9月から活動を休止） ・ボランティア委員会において「シニアサイン講習会」を実施。アンケートでは実用的でわかりやすく、日常生活や地域活動において参考となったとの声が多く寄せられた。 ・委員会活動の構成メンバーに協力員枠を設定した（障害者委員会のボッチャ審判に加入された）	○		
		⑫	活動団体同士の連携・交流	・初年度は地域主体の学習会を実施し、次年度は地域の課題となっている「ふれあい食事会（試行）」を実施した。本年度は当初の目標であった「地域ケア会議」を実施した。ケア会議の実施により地域の課題が顕在化した。白井地区部会は活動エリアが広いので、テーマごとに多様化が必要。	地域の課題が明確になったので引き続きケア会議を実施する。	①高齢者見守り活動4自治会により継続して実施。 ②ふれあい食事会連絡会はコロナ禍高齢者施設の立ち入りが出来ない為未実施。（ふれあい食事会準備会を開催） ③地域ケア会議の開催（R4.11.5実施） 「地域の困りごと」をテーマとして会議を実施。	○		
	3　備えあれば憂いなし、安全と安心の仕組みをつくりましょう	⑭	防災・減災活動の実施	・防災対応の行動が組織的にできなかった。	災害の被災体験をもとに地域防災のありかたを検討する。 自主防災組織のない自治会は小規模自治会であり、あえて各自治会に組織化するよりも災害対応（減災）への効果のある取り組みを個別具体的に検討する必要がある。	・R4年度は、各自治会に防災組織を立ち上げるよりも、災害対応へのポイントを絞った内容（例えば、高齢者の安否確認や、避難誘導、緊急物資の確保、近くの公共施設との連携等）を個別に取り組む必要がある。	△		
更科地区部会エリア 【人口・世帯数】 2,510人、1,362世帯 【町内自治会数】 13町内自治会 【高齢化率】 44.2% 【地域の特徴】 対象エリアは非常に広いが、住基人口（2,683人）、世帯数（1,237世帯）は区内で一番少ない。 多くの地域が農村地域であり、人の出入りは多くなく、高齢化率は高いが、現役農家世帯が多く、元気な高齢者が多い。	1　だれもが顔見知り、交流とふれあいの仕組みをつくりましょう	①	地域ぐるみで声掛け・あいさつ運動の実施	・地域住民の健康や安心、安全が守られない中での計画推進は難しかった。 ・自然災害やウイルス感染で露呈された課題を慎重に検討していく。	まずはコロナウイルスの感染防止から生じた課題を確認し、今後の取り組みを考えていく。	・民生委員による高齢者実態調査が延期、中止となったことからもわかるように、声かけや訪問等にも自粛せざるを得なかった。	×	同上	
		④	福祉施設や地域行事でのふれあい交流活動の実施	・「安心、安全ですからどうぞお越しください」と言えない限り、地域住民への交流活動は推進できないのではないか。	コロナウイルスの感染防止で露呈した社会福祉活動の課題を明らかにし、取組を推進していく。	・敬老会の実施については市より自粛要請を受け中止。しかし、親子凧揚げ大会については感染対策を徹底し開催することができた。	○		
		⑤	気軽に過ごせる居場所づくり	・今後も現在の団体が継続できるかは見通しが立たない。 ・コロナ感染以外にも課題が残されている。 ・簡単に言えば、多くの支援者がサロン運営を支えていかない限り取り組みは続いていかない。	当面はコロナ感染の拡大を速やかに防止する政治の対策を待ちたい。	・「いきいきサロン」2ヶ所で実施。R5年度の計画についてはスタッフの確保が課題である。	○		
	3　備えあれば憂いなし、安全と安心の仕組みをつくりましょう	⑮	災害時に避難できる体制づくり	・平成30年度　①避難所運営委員会設立準備会の立ち上げ　②委員会規約作成　③委員会成立 ・平成31年度　①避難所開設、運営マニュアル作成　②避難所運営訓練実施、運営マニュアル見直し ・令和2年度　①全体避難訓練マニュアル作成、訓練実施	この期間内に具体的に話し合われたことが確認できない。すでに18連協では検討は終わり、体制ができあがっているのかもしれない。	同左	―		

若葉区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和4年度）個票

【達成状況の目安】
◎：年度目標以上のものが達成できた場合
○：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合
×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
―：評価が困難である場合

地区部会エリア	基本方針	取組項目（第4期計画の重点取組項目）		令和4年度の目標又は予定		令和4年度の実績	達成状況	令和5年度の目標又は予定	今後の課題と方針
				第4期計画の総括・今後の課題	令和4年度の取り組みの方向性				
御成台・千城台西北地区部会エリア 【人口・世帯数】 9,252人、4,687世帯 【町内自治会数】 17町内自治会 【高齢化率】 38.9% 【地域の特徴】 モノレール沿線を中心に、ショッピングセンターや住宅地が広がるエリアで、公共施設等が多く設置されている。	1　だれもが顔見知り、交流とふれあいの仕組みをつくりましょう	②	子育てしやすい環境づくり	・母親同士の情報交換の場であり、癒しの時間が作れた場であった。 ・コロナ禍のもとでは同様の触れ合いの活動は難しく、異なる形態を模索する。	母親同士の情報交換、癒しの場を異なる形態でどのように作っていけるか考えていきたい。	・新型コロナウイルス感染症防止対策を徹底したうえで実施した。 ①子育てサロン「たんぽぽ部」 ６月：ベビーヨガ　７月、１０月は雨天中止 ２月：親子で簡単おもちゃ作り ②夏休み子どもチャレンジ教室 ③子どもチャレンジ教室	○	※令和５年度は、第５期計画の中間見直しを作業を実施しており、各地区部会で新たな重点取組項目の選定を行っている。 現在、新たな重点取組項目の選定を終え、令和５年度から令和８年度にかけての年度毎の年次取組目標および具体的な活動計画を策定中である。	
		⑦	地域でできる介護予防・健康づくり	・コロナ禍のもとであるからこそ、自宅での体操やウォーキングの重要性を話続けてきた。活動をリードしてくれた役員には頭が下がります。手を変え、品を変え、今後はポールウォーキングを広めることとしている。	人は歩くことが健康長寿のためにもっともよい。高齢者でも体に負担をかけずに歩けるポールウォーキングを広めていきたい。	・この項目の活動は従来にも増して充実してきているが、新型コロナウイルス感染症防止対策を徹底したうえで実施した。 ①いきいき健康体操　3回/年 ②ポールでウォーク　雨天による中止もあったが、2回/月程度※の実施しポールウォーキングによる健康維持に努めた。 ③ボッチャ体験会　２回/年 ④介護支援及び介護予防教室の開催 ※猛暑は避け、良い季節は月2回行っている。	◎		
	2　あなたもわたしも地域の一員、身近な支えあいの仕組みをつくりましょう	⑫	活動団体同士の連携・交流	・隣接している地区部会とはいろいろな相談ができる関係にある。一方、関連自治会とはなかなか進展が難しかった。 ・活動団体同士の連携にはお互いが呼び合う呼吸が大事と痛感する。それが難しいと感じる期間であった。 ・新しい感覚の若い役員の出現を常に模索しているが、永遠の課題。	近隣自治会や同業の地区部会との連携は穏やかに模索を継続。	・コロナ禍のもと他団体との情報交換や協議ができる状況になかった。従って活動は低調に終わる。 ・穏やかに連携を探る努力は行っていきたい。	―		
千城台東南・金親地区部会エリア 【人口・世帯数】 9,820人、5,127世帯 【町内自治会数】 16町内自治会 【高齢化率】 38.0% 【地域の特徴】 モノレール沿線を中心に、ショッピングセンターや住宅地が広がるエリアで、公共施設等が多く設置されている。	1　だれもが顔見知り、交流とふれあいの仕組みをつくりましょう	⑤	気軽に過ごせる居場所づくり	・コロナ禍の中、いきいきサロン、ふれあい給食を利用している方々の気持ちをくみ取り、いかにして再開できるようにするか検討。	同左	1.サロン活動…状況を見ながら感染防止対策を十分とって実施した。 ・ふれあいサロン東町 11回/年（8月休み）　参加者合計100名 ・ふれあいサロン南町（会場：子ども食堂借用） 11回/年（8月休み）　参加者合計95名 2～5.ささえあい組織「たんぽぽ会」…感染防止対策を十分とり、普段通りの活動を実施。買物9件、付添178件、ゴミ出し803件、他47件　合計1,037件 6.ふれ合い食事サービス…感染防止対策を十分とり、6回/年　合計220食を提供。	○	同上	
	2　あなたもわたしも地域の一員、身近な支えあいの仕組みをつくりましょう	⑫	活動団体同士の連携・交流	・コロナ禍の収束が見込めない中、会員間の情報、ふれあい、支援をいかにはかっていくかが課題	同左	・グラウンドゴルフ大会は降雨のため中止。 「ひまわりの会」及び「障碍者副申会」による懇談及びハーモニカ演奏をもとに歌を唄う会を開催。	△		
	5　世代を超えて、ともに学び合い参加できる仕組みをつくりましょう	⑱	福祉こころを育む活動の実施	・令和2年度はコロナ禍のため一部の活動を除き中止したが、期間全体を通して見れば概ね計画通りに実施できた。コロナの収束状況を注視しながら再開できるところからはじめていきたい。	同左	・みらい小学校「昔あそび」 生徒40名、ボランティア17名。 ・東小学校「昔あそび」 生徒45名、ボランティア16名。 ・公民館にて「冬休みなかよし教室」 生徒23名、ボランティア17名。	○		
26地区部会エリア 【人口・世帯数】 6,980人、3,560世帯 【町内自治会数】 8町内自治会 【高齢化率】 45.4% 【地域の特徴】 徒歩圏内に鉄道の駅はなく、公共交通機関はバスのみ。 当該エリアの中心である大宮台団地は昭和36年～42年にかけ、千葉県住宅供給公社により開発された大規模団地（当時戸建住宅2,040戸）である。隣接はしないもののいずみ台ローズタウンを内包する。	1　だれもが顔見知り、交流とふれあいの仕組みをつくりましょう	③	公園やサークル活動を利用した交流機会の創出	・高齢化に伴う参加者の減少、令和2年度新型コロナウイルス感染症予防のため、さらに参加者の減少があり見直しが必要。	新型コロナウイルス感染症が収束した時点で検討したい。	・26連協主催　家庭バレーボール大会を開催した。（毎年実施行事） ・26連協主催　大宮中体育館で45名が参加し元気にプレーした。 （毎年実施行事） ・グラウンドゴルフ大会 感染防止対策を十分とり、大宮中学校の校庭で実施。住民の健康づくりと住民同士の交流に取り組んだ。 ・ラジオ体操GV大宮台は4箇所から5箇所に増加した。	◎	同上	
		⑦	地域でできる介護予防・健康づくり	・高齢化に伴う参加者の減少もあり、事業の見直しが必要。	新型コロナウイルス感染症が収束した時点で検討したい。	・感染防止対策を十分とりながら、早起きラジオ体操・元気で歩こう会・安心カード・安否確認電話連絡・高齢者見守りネットワーク・一人で避難できない人の介助・公園清掃除草・ゴミ出し支援・買物支援を実施した。	○		
	3　備えあれば憂いなし、安全と安心の仕組みをつくりましょう	⑬	防犯活動の実施	・概ね実施できた。	新型コロナウイルス感染症が収束した時点で検討したい。	・感染防止対策を十分とりながら、地域の安全を守るため、各自治会でボランティア活動により防犯パトロールを実施した。パトロールの際、出来るだけ「見守り」活動をするよう心掛けた。	○		

若葉区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和4年度）個票

【達成状況の目安】
◎：年度目標以上のものが達成できた場合
〇：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合
×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
―：評価が困難である場合

地区部会エリア	基本方針	取組項目（第4期計画の重点取組項目）		令和4年度の目標又は予定		令和4年度の実績	達成状況	令和5年度の目標又は予定	今後の課題と方針
				第4期計画の総括・今後の課題	令和4年度の取り組みの方向性				
若松地区部会エリア 【人口・世帯数】 19,834人、9,669世帯 【町内自治会数】 13町内自治会 【高齢化率】 28.7% 【地域の特徴】 地区部会対象エリアがとても広く、住基人口（19,749人）、高齢者数（5,314人）、世帯数（8,859世帯）は区内エリアで二番目に多い。 若松台2・3丁目の高齢化率（44.5%）が非常に高い。	1　だれもが顔見知り、交流とふれあいの仕組みをつくりましょう	②	子育てしやすい環境づくり	・目標には届かなかったが、平均8人の安定的な参加は、大きな成果としたい。 ・コロナ感染症の終息。加えて終息後の開催時には参加者増を目指したチラシ等のPR方法に努めたい。	「参加者増加へ向けた周知の方法、内容の充実を図る」ことを継続する。	・令和4年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、「子育てサロン」を自粛としたため、実施には至らなかった。	×	※令和５年度は、第５期計画の中間見直しを作業を実施しており、各地区部会で新たな重点取組項目の選定を行っている。 現在、新たな重点取組項目の選定を終え、令和５年度から令和８年度にかけての年度毎の年次取組目標および具体的な活動計画を策定中である。	
		⑤	気軽に過ごせる居場所づくり	・実施できた単年度（令和元年度）で目標が達成できた。 ・今後はコロナ感染症が終息しなければ何もできない。	この感染症が落ち着くまでは計画を行うのも心配。	・令和4年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、「いきいきふれあいサロン」を自粛としたため、実施には至らなかった。	×		
	5　世代を超えて、ともに学び合い参加できる仕組みをつくりましょう	⑱	福祉のこころを育む活動の実施	・令和2年度をのぞく2過年度とも目標が達成できた。 ・生徒、保護者、我々ボランティア、三者にとっても貴重な経験ができる事業であったので、できれば再開を目指したい。	コロナが終息し、また学校も考え方、方向づけにより左右すると思うが、事業に携わる全ての方にとって貴重な経験となるこの事業の再開を目指したい。	・令和4年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、実施には至らなかった。	×		
加曽利地区部会エリア 【人口・世帯数】 6,485人、3,269世帯 【町内自治会数】 8町内自治会 【高齢化率】 30.9% 【地域の特徴】 エリア内には小学校が設置されていなく、1町のみ（加曽利町）のエリアである。 古くから農業を営む世帯の地域、戸建住宅が多い地域、最近新たに作られた新興住宅地がある。	1　だれもが顔見知り、交流とふれあいの仕組みをつくりましょう	④	福祉施設や地域行事でのふれあい交流活動の実施	・社会貢献を積極的に行いたいので相互交流を実施したいとの心強い言葉をいただいた。今後、地域行事でのふれあい交流活動を実施したい。 ・社会貢献を積極的に行いたい企業と相互交流を実施し、高齢者の福祉ニーズに応えていきたい。	総論的な話も時には必要であるが、これに加えて、身近な福祉活動を行ってゆくには、企業の力添えも必要だと考えている。	・コロナウイルス感染症のため、社会貢献を積極的に行いたい企業と相互交流を実施できなかった。	×	同上	
	2　あなたもわたしも地域の一員、身近な支えあいの仕組みをつくりましょう	⑧	活動の中核となれる人材の発掘	・地区部会や町内自治会の広報等で積極的に福祉活動推進員やボランティアの募集を行なった。	地域で定年を迎えた方や元気な高齢者に呼びかけ、これまで培ってきた知識や技術などを生かし、地区部会活動に参加していただく。	・地区部会や自治会の協力を得て、役員2名（会長・事務局）の新規役員等になっていただいた。（R3年度より継続）	◎		
		⑫	活動団体同志の連携・交流	・活動団体同志の連携・交流を通じて身近な福祉問題を議論する場ができた。 ・町内自治会、民生・児童委員、あんしんケアセンター等が情報交換や意見　を定期的に行う仕組みづくりが必要。	自治会、民生・児童委員、あんしんケアセンター等が情報交換や意見交換を定期的に行う仕組みづくりを検討していく。	・コロナウイルス感染症のため、各団体との情報交換や意見交換を定期的に行う仕組みづくりを検討していくことができなかった。	×		

若葉区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和4年度）個票

【達成状況の目安】
◎：年度目標以上のものが達成できた場合
○：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合
×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
—：評価が困難である場合

地区部会エリア	基本方針	取組項目（第4期計画の重点取組項目）		令和4年度の目標又は予定		令和4年度の実績	達成状況	令和5年度の目標又は予定	今後の課題と方針
				第4期計画の総括・今後の課題	令和4年度の取り組みの方向性				
都賀地区部会エリア 【人口・世帯数】 13,478人、7,490世帯 【町内自治会数】 10町内自治会 【高齢化率】 28.8% 【地域の特徴】 都賀駅、モノレール沿線を中心に、戸建住宅の多い地域と、賃貸住宅集合住宅が多い地域がある。 都賀の台1丁目から4丁目までの高齢化率の平均は約48.4%と、限界集落（50%：2人に1人が高齢者のまち）に近い状況まで高齢化が進んでいる。	1　だれもが顔見知り、交流とふれあいの仕組みをつくりましょう	②	子育てしやすい環境づくり	・コロナ禍による活動の抑制を除けば概ね計画を遂行できた。 ・コロナ収束後の円滑な移行と平常活動の復活に注力したい。	幼児が相手の活動であり、コロナ収束後も慎重に対応したい。	・4月より子育てサロンひなた始動（月1回） ・フェイスブックに加え新たにインスタグラムでの動画『ひなたチャンネル』の配信を行った。	○	※令和５年度は、第５期計画の中間見直しを作業を実施しており、各地区部会で新たな重点取組項目の選定を行っている。 現在、新たな重点取組項目の選定を終え、令和５年度から令和８年度にかけての年度毎の年次取組目標および具体的な活動計画を策定中である。	
		⑤	気軽に過ごせる居場所づくり	・町会、自治会に1活動組織の構想があったが、会場、世話人等の開催要因もあり、福祉活動の推進面でも厳しい実情を把握した。 ・独居者（お一人さま）や要介護支援者のサロンへの勧誘、招聘などは民生委員の協力が不可欠だが、この協力関係の推進・維持が課題。活動のマンネリ化が課題。	コロナの収束を待って、活動趣旨などの再啓蒙などを行ってから再開。「協力したい。参加して皆との仲間意識を共有したい。」など、皆で楽しく支えるサロンを目指す。	・①いきいきサロン「健康づくりの会」：9月から再開（月1回） ②コミュニティカフェ：5月から再開（月1回） ③親睦・研修旅行：中止	△		
	2　あなたもわたしも地域の一員、身近な支えあいの仕組みをつくりましょう	⑪	見守り活動の仕組みづくり	・ミニ福祉通信（みんな仲間）」での回覧啓蒙による効果は計測できないが、こうした啓蒙活動は「継続は力」と信じて、引き続き実施していきたい。 ・「見守り活動の仕組み化」は都賀の台地域は組織的に対応しているが、その他の地域の具現化は見込めていない。民生委員との連携活動が不可欠である。	引き続きミニ福祉チラシ「みんな仲間」の中で、ご近所福祉活動の一環としての協力方、啓蒙していきたい。	・ミニ福祉通信「みんな仲間」令和4年1月号で『お一人さまの生活不安対処について（各種サービス一覧表）を全域に回覧した。 ・地区部会ではテーマとして「ご近所福祉による見守り」が要としている。都賀の台では「支え合いの会」が主導し、自治会の広報誌などで断続的に啓蒙している。	○		
		⑫	活動団体同士の連携・交流	・協力関係の維持に努めているが、あんしんケアセンター都賀の関係者のご協力によるところが大であり、さらに円滑な連携活計の推進に努めたい。 ・町内自治会や福祉関係組織・団体との日常的交流と連携により、厚みのある活動が期待されるが、それぞれ組織の独自性や事情もあり、協力関係の一元化は難しい。	引き続きミニ福祉チラシ「みんな仲間」の中で、活動団体同士の連携・交流の重要性について啓蒙してまいりたい。	・ミニ福祉通信「みんな仲間」発行のため、あんしんケアセンター都賀と連携を密にした。 ※同様の目的で社協若葉区事務所との連携も維持した。	○		
	4　必要な情報が行き渡り、気軽に相談しあえる仕組みをつくりましょう	⑯	地域福祉に関する情報の発信	・コロナ禍下にあってほとんどの活動が抑制された中で、福祉に関する啓蒙チラシを隔月で全域に回覧することで、地区部会活動の一翼を担うことができた意義は大きい。 ・このミニ福祉通信が地区部会活動の一環として定着し、より親しまれ評価されるものにするには、提供情報の質、チラシの編集技術など様々な課題がある。	引き続き隔月発行に努めたい。	・コロナウィルス予防対策のため全ての活動を中止となり、役員・会員相互の交流が途絶える中で、地区部会活動の見えるかを図る方策として、地区部会活動の代替活動に一環としてミニ福祉通信「みんな仲間」を令和2年1月から隔月発行し、今年度も継続している。 ※大切な福祉関連情報を広域的に住民へ提供することで、共に考える機会になればとの思いで継続している。 ※都賀の台の一部地区では内容により各家庭に配布された。	○		
	5　世代を超えて、ともに学び合い参加できる仕組みをつくりましょう	⑳	地域での福祉教室等の開催と活動支援	・コロナ禍下にあってほとんどの活動が抑制された中で、福祉に関する啓蒙チラシを隔月で全域に回覧することで、地区部会活動の一翼を担うことができた意義は大きい。 ・このミニ福祉通信が地区部会活動の一環として定着し、より親しまれ評価されるものにするには、提供情報の質、チラシの編集技術など様々な課題がある。	引き続き有意義な福祉情報を発信し、教室活動以上の成果を期したい。	・コロナウィルス予防対策のため講習会や研修会など中止となり、ミニ福祉通信「みんな仲間」を発行し、これらの福祉教育に代わる啓蒙、啓発対策とした。福祉に関する全域への広範な情報提供は有益かつ、有効であり今後も継続することとしている。	△		
結・みつわ台地区部会エリア 【人口・世帯数】 23,534人、11,490世帯 【町内自治会数】 43町内自治会 【高齢化率】 27.9% 【地域の特徴】 高齢化率が10%台の町丁（殿台町、東寺山町、みつわ台1丁目、源町、原町の一部）もいくつかあり、比較的高齢化率が低い。35の町内自治会数は区内最多（加えて5の管理組合）である。	1　だれもが顔見知り、交流とふれあいの仕組みをつくりましょう	④	福祉施設や地域行事でのふれあい交流活動の実施	・コロナ禍期間を除けば上々の実績をあげることができた。現在、活動自粛が続いており、活動PRの在り方を模索中。	感染状況を見ながら、開催を目指す。	・「福祉のつどい」を開催し、社協職員（いきいきプラザ）による“血管年齢”及び“骨密度”測定を行い、30名の参加があった。	○	同上	
	2　あなたもわたしも地域の一員、身近な支えあいの仕組みをつくりましょう	⑧	活動の中核となれる人材の発掘	・機会があれば…ではあるが、活動休眠状態で打つ手なし。	自粛期間が継続しており、積極的な活動不可状態が続く。	・自粛期間が継続しており、積極的な活動不可状態が続いている。	×		
		⑫	活動団体同士の連携・交流	・あんしんケアセンターみつわ台との良好な関係を維持しつつ、新たな企画を模索していきたい。	コロナ禍で先行きが見通せていない。	・コロナ禍で先行きが見通せていない。	×		

若葉区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和4年度）個票

【達成状況の目安】
◎：年度目標以上のものが達成できた場合
○：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合
×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
—：評価が困難である場合

地区部会エリア	基本方針	取組項目（第4期計画の重点取組項目）		令和4年度の目標又は予定		令和4年度の実績	達成状況	令和5年度の目標又は予定	今後の課題と方針
				第4期計画の総括・今後の課題	令和4年度の取り組みの方向性				
千城小地区部会エリア 【人口・世帯数】 2,410人、1,293世帯 【町内自治会数】 9町内自治会 【高齢化率】 47.1% 【地域の特徴】 エリア内には1町（大宮町）しか含まれていなく、小学校は設置されているが、児童数は区内で最も少ない。 古くから農業を営む世帯の地域があり元気な高齢者が多く、また新たに作られた新興住宅地がある。	1　だれもが顔見知り、交流とふれあいの仕組みをつくりましょう	⑤	気軽に過ごせる居場所づくり	・コロナの影響で、目標を大きく下回った。 ・ふれあい・いきいきサロンの定着を目指す	ふれあい・いきいきサロン開催時は、3密を避ける。	・いきいきサロンは、3蜜を避け小人数で1か所（12回）実施した。	○	※令和５年度は、第５期計画の中間見直しを作業を実施しており、各地区部会で新たな重点取組項目の選定を行っている。 現在、新たな重点取組項目の選定を終え、令和５年度から令和８年度にかけての年度毎の年次取組目標および具体的な活動計画を策定中である。	
		⑦	地域でできる介護予防・健康づくり	・コロナの影響もあったが、目標は概ね達成できた。 ・開催時は、3密を避ける。	開催時は、3密を避ける。	・コロナ禍にあり、年末切り餅贈呈活動のみ実施した。	△		
	3　備えあれば憂いなし、安全と安心の仕組みをつくりましょう	⑭	防災・減災活動の実施	・順調に実施できた。 ・未実施自治会への働きかけ ・自治会の枠を超えた地域横断型のパトロール実施	コロナへの呼びかけと共に、今後も実施したい	・防災パトロール8自治会中3自治会で実施（月1回）。3蜜を避け実施可能なため、今後未実施自治会に実施に働きかけを継続する。	○		

緑区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和４年度）総括表

【達成状況の目安】
◎：年度目標以上のものが達成できた場合
○：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合
×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
―：評価が困難である場合

◆基本方針別取組状況

基本方針	取組項目数	取組項目の達成状況		主な取組内容
1 コミュニケーション（学び・継承・交流・ふれあい・社会参加）	8	◎		学校行事に地域住民が協力。子ども対象の地域行事により交流の場を提供した。 高齢者が集う場として「いきいきサロン」を開催した。 障害者に関する学習会の開催。障害者施設の行事にボランティアとして参加した。 子育て中の親や子どもが集う場として「子育てサロン」を開催した。 住民参加の地域行事に協力した。
		○		
		△		
		×		
		－	8	
2 緊急時の支援と対応（災害、防犯と防災、感染症）	2	◎		町内自治会ごとに、防災意識の啓発や防災訓練を実施した。 避難所運営委員会ごとに、避難所開設訓練を実施した。
		○		
		△		
		×		
		－	2	
3 身近な生活支援（見守り・助け合い）	6	◎		一部の町内自治会が見守り活動を実施した。 住民参加のスポーツ大会に協力した。 「いきいきサロン」等で健康に関する講演や健康体操等を実施した。 あんしんケアセンターの地域ケア会議等、地域団体が参加する会議で、地域情報の共有を図った。
		○		
		△		
		×		
		－	6	
今年度の振り返り	16	◎	0	コロナの影響により休止・制限されていた取組について、規模の縮小や開催方法の見直し等により、再開する団体が一部見られた。
		○	0	
		△	0	
		×	0	
		－	16	

今後の課題と方針	各地区の状況に応じて課題が異なるが、実施している活動内容を住民に浸透させるための周知や担い手を確保するための住民意識の向上、各地域で活動する団体間の連携等が課題としてあげられる。

◆区支え合いのまち推進協議会開催状況

回数	開催日	主な議題
第1回	７月２３日（土）	第５期緑区支え合いのまち推進計画について ・計画の位置づけ及び策定経過等について ・第５期計画の進め方について
第2回	１１月１９日（土）	各団体の取組状況等の共有及び第５期計画への反映検討について（グループワーク） ・令和３年度取組状況・令和４年度計画等の共有について ・第４期計画取組項目の第５期計画への反映検討について
第3回	令和5年 ３月１８日（土）	第５期計画「具体的な取組み」の統合案検討について 広報誌「みどりのきずな第４０号」の承認について

◆区支え合いのまち推進協議会だより発行状況

号数	発行日	発行部数及び主な配布先
		令和4年度は発行なし

◆区の地域福祉に関する紹介事例等

おゆみ野地区部会では、毎年、障害者を対象にした「お楽しみ会」を開催していたが、コロナ禍のため中止となっていた。
そこで、参加いただいていた方との繋がりを保つためのイベントを企画。
お楽しみ会に参加いただいていた方からメッセージカードを募集。５８名分のカードと魚のイラストを水槽に見立てた台紙に貼り、地区内で展示した。

イベント名：おゆみ野水族館を作ろう！
展示期間及び展示場所：７月９日～８月１６日　鎌取コミュニティセンター
８月１６日～８月３１日　イオンタウンおゆみ野

緑区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和４年度）個票

【達成状況の目安】
◎：年度目標以上のものが達成できた場合
○：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合
×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
―：評価が困難である場合

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和4年度の目標又は予定	令和4年度の実績	達成状況	令和5年度の目標又は予定	今後の課題と方針
誉田地区部会エリア 【人口・世帯数】 26,427人、　12,860世帯 【町内自治会数】 26町内自治会 【高齢化率】 25.7% 【地域の特徴】 産業用地の開発に伴い住宅地の開発が進行。農村地域が広く田畑に囲まれた集落が点在。	1 コミュニケーション（学び・継承・交流・ふれあい・社会参加）	3 高齢者が集う場の開設・拡充・情報提供	【誉田地区町内自治会連絡協議会】 ふれあい・いきいきサロン拡大、スポーツ活用	【誉田地区町内自治会連絡協議会】 いきいきサロン増設も難しく自治会館利用	―	【誉田地区町内自治会連絡協議会】 誉田1丁目中心に高齢者の集い、腹話術等開催	【町内自治会連絡協議会】 お茶飲み、憩いの場、情報交換の場所作り
			【506地区民生委員児童委員協議会】 ふれあいカフェの開催 月1回。誉田団地自治会館。	【506地区民生委員児童委員協議会】 コロナ感染予防のため中止。		【506地区民生委員児童委員協議会】 コロナの感染状況を考慮しながら、運営スタッフと協力しながら実施する。	
			【507地区民生委員児童委員協議会】 施設での食事会開催の協力 ・社協と連携し、高齢者施設に地域住民を招いて食事会を開催する「わくわく食事会」の実地に協力する。 ふれあい食事サービス、いきいきサロンへの協力 ・社協 誉田地区部会のふれあい食事サービス、いきいきサロンへの協力をする。	【507地区民生委員児童委員協議会】 ・コロナ禍においては、感染すると重症化しやすい高齢者施設での「わくわく食事会」は取り組み無しとなった。 ・ふれあい食事サービスは調理ボランティアの高齢化で負担が大きく、R4年5月に再開したがR5年3月で終了となった。 ・いきいきサロン活動は感染予防対策を行いつつ開催し、登録7サロンで延べ23サロン、参加人数437名、延べボランティア人数164名。		【507地区民生委員児童委員協議会】 ・「わくわく食事会」とふれあい食事サービスに代わる場の開設を検討したい ・新規サロンの開設を検討する。 ・長寿会行事の一部をいきいきサロンに合流させ、長寿会の活性化を図る。	
	1 コミュニケーション（学び・継承・交流・ふれあい・社会参加）	4 障害者（児）・その家族が集う場の開設・拡充・情報提供	【誉田地区部会】 地区部会で行っている障がい者施設への慰問訪問、施設行事への参加等の中で、障がい者（児）・その家族の状況を把握し、必要としている情報や関係機関を紹介する。 また、障がい者（児）を介護する家族が交流できる場や地域住民と交流する機会を設け、その家族を支援する体制づくりに努める。	【誉田地区部会】 6/19　打合せ（16名参加） 年度事業計画の討議、確認 7/17　打合せ（14名参加） 障がい者施設の行事のお手伝い及び参加については、核施設よりコロナ禍であり規模縮小実施のため、お手伝い等不要の返事が届いているので今年度は行わないこととした。 10/1　打合せ（16名参加） 障がい者施設の作業手伝いについては、作業所よりコロナ化で受け入れ不可の連絡を受け、手伝いなしとした。 11/2　障がい者施設の見学、慰問の実施 2施設、参加者10名 各施設の責任者より説明を受けたのち、施設内での作業、活動状況を見学する。 1/23・打合せ（8名参加） 知的障がい疑似体験講座開催準備 ・5施設への慰問品贈呈を行う コロナ感染予防を考慮し、8名を2グループに分けて各施設を訪問し、玄関先で慰問品の贈呈を行った。 2/4　知的障がい疑似体験講座開催 講師：キャラバン隊「ららら」のメンバー 参加者：27名	―	【誉田地区部会】 ・障がい者、障がい者施設等に関する講座、学習会の開催 ・障がい者施設の見学、慰問の実施 ・障がい者施設の行事手伝い及び参加 ・障がい者施設への慰問品の贈呈	【誉田地区部会】 障がい者（児）が「集う場の開設」については、緑区地域福祉計画に沿った計画であり、今後の課題とする。
			【誉田地区町内自治会連絡協議会】 障害者施設への協力と慰問、家庭の継り	【誉田地区町内自治会連絡協議会】 毎年施設行事応援参加と慰問品届け		【誉田地区町内自治会連絡協議会】 施設だけではなく家庭にいる子達との関係、どうしたら街に出てこれるか、民生委員の協力	【誉田地区町内自治会連絡協議会】 町内自治会だけでは情報が入りにくく民生委員との打合せを要する

緑区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和４年度）個票

【達成状況の目安】
◎：年度目標以上のものが達成できた場合
○：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合
×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
―：評価が困難である場合

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和4年度の目標又は予定	令和4年度の実績	達成状況	令和5年度の目標又は予定	今後の課題と方針
椎名地区部会エリア 【人口・世帯数】 5,064人、　2,518世帯 【町内自治会数】 17町内自治会 【高齢化率】 24.0% 【地域の特徴】 自然豊かな農村地域で、地域には区画された田園が広がり、集合住宅地はあまりない。	1 コミュニケーション（学び・継承・交流・ふれあい・社会参加）	2 子ども達の集いの場の提供・情報提供、地域と学校との交流	【椎名地区部会】 椎名小学校の児童を対象に、地域での助け合いの心を育むため、地区部会役員が出前授業や体験学習を実施する。 ・稲作支援 ・福祉SDGsの出前授業	【椎名地区部会】 ・田植え体験5/11 ・椎名小6年生にSDGs授業実施5/9 ・椎名小3年生に福祉出前授業実施4/11	―	【椎名地区部会】 ・田植え体験5/11 ・椎名小4年生にSDGs授業7/11 ・椎名小4年生に福祉出前授業10/10	・椎名地区の特性を生かす ・学校の積極的な参加を期待
			【椎名地区町内自治会連絡協議会】 〈学校との交流〉 地域と学校との交流	【椎名地区町内自治会連絡協議会】 椎名小ミニ運動会 令和4年5月28日開催		【椎名地区町内自治会連絡協議会】 椎名小運動会 令和5年6月10日開催予定	【椎名地区町内自治会連絡協議会】 感染症の状況に応じて開催方法等を検討する必要がある。
			【503地区民生委員児童委員協議会】 福祉教育等への協力 椎名地区部会やその他関係団体と連携し、福祉出前授業や食育支援事業を実施	【503地区民生委員児童委員協議会】 ①椎名小学校3年生福祉出前授業 11月4日に椎名小学校3年生40名を対象に、民生委員による福祉体験授業（アイマスク着用による視覚障害体験）を実施。併せて、民生委員や地区部会の活動を資料・映像で説明。 ②椎名小学校5年生食育支援事業 食の大切さや農業への関心をもってもらうことや地域住民との交流の一環で実施。 ○4月南部ライスセンターの見学は中止。 ○5月11日富岡町長徳寺下側にて5年生40名による田植を実施 ・9月予定の稲刈りは雨天中止。 11月の太巻き寿司づくりはコロナ禍のため中止 〈協力関係団体〉 ・南部ライスセンター・椎名地区部会 ・JAみどり野支店女性部・JA職員 ・社協　（主催：第503地区民児協）		【503地区民生委員児童委員協議会】 ①椎名小学校4年生福祉出前授業 ・日　時　令和4年10月16日（予定） ・場　所　椎名小学校 ・内　容　民生委員による福祉体験授業 詳細未定 ・参　加　4年生40名 民生委員、地区部会関係者 ②椎名小学校5年生食育支援事業 ○4月19日南部ライスセンターを見学 5年生40名が参加し、稲の育苗の様子や作業を見学した。 ○5月11日富岡町長徳寺下側にて5年生40名が参加し、田植えを実施 ○9月上記場所にて稲刈りの予定 ○11月　太巻き寿司づくり　未定 ※協力関係団体は令和4年度と同じ	【503地区民生委員児童委員協議会】 ①福祉出前授業について ・福祉の分野は広いので、毎年、授業内容は変えているが、民生委員だけでは、限界があるので、福祉の専門職の方の協力を得るなどして、授業内容を見直すことも必要。 ②食育支援事業について ・事業に携わるメンバーの高齢化が進んでいることから、協力者の確保に懸念がある。
	1 コミュニケーション（学び・継承・交流・ふれあい・社会参加）	6 地域の行事への積極的参加の呼びかけ、文化の伝承	【椎名地区部会】 地域の連帯感を高めるため、地域行事を開催する。 ・米寿、金婚の記念写真撮影 ・敬老会への参加 ・福祉バザーの開催 椎名小学校の児童に地域文化の伝承のため、羯鼓舞を演舞支援し、発表会を実施する。 ・羯鼓舞の支援	【椎名地区部会】 ・米寿、金婚の記念写真撮影11/3 ・敬老会、福祉バザーはコロナ禍のため中止 ・羯鼓舞の演舞12/17	―	【椎名地区部会】 ・米寿、金婚の記念写真撮影11/3 ・敬老会9/30 ・福祉バザー12月 ・羯鼓舞の演舞12月	【椎名地区部会】 ・子ども参加のお祝いの会としたい ・地域福祉の推進を高めたい ・地域文化財としての認識と財政確保
			【椎名地区町内自治会連絡協議会】 〈スポーツ振興会〉 スポーツを主体とした行事への協力	【椎名地区町内自治会連絡協議会】 ①バレーボール大会 令和4年11月13日開催 ②ソフトボール大会 令和4年12月4日開催		【椎名地区町内自治会連絡協議会】 ①バレーボール大会 令和5年11月19日開催予定 ②ソフトボール大会 令和5年12月3日開催予定	【椎名地区町内自治会連絡協議会】 感染症の状況に応じて開催方法等を検討する必要がある。
	3 身近な生活支援（見守り・助け合い）	17 健康づくり支援	【椎名地区部会】 地区内の福祉施設と連携して地域に出向いての巡回健康体操を実施する。 ・地区ごとに健康体操実施	【椎名地区部会】 ・コロナ禍のため無し	―	【椎名地区部会】 ・6月から地区巡回体操会実施	【椎名地区部会】 ・喜んで参加する体制の確立
			【椎名地区町内自治会連絡協議会】 〈スポーツ振興会〉 スポーツを主体とした行事への協力	【椎名地区町内自治会連絡協議会】 ①バレーボール大会 令和4年11月13日開催 ②ソフトボール大会 令和4年12月4日開催		【椎名地区町内自治会連絡協議会】 ①バレーボール大会 令和5年11月19日開催予定 ②ソフトボール大会 令和5年12月3日開催予定	【椎名地区町内自治会連絡協議会】 感染症の状況に応じて開催方法等を検討する必要がある。

緑区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和４年度）個票

【達成状況の目安】
◎：年度目標以上のものが達成できた場合
○：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合
×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
―：評価が困難である場合

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和4年度の目標又は予定	令和4年度の実績	達成状況	令和5年度の目標又は予定	今後の課題と方針
椎名地区部会エリア	**3　身近な生活支援（見守り・助け合い）**	18　地域の課題解決に向けた連携	【椎名地区部会】 築50年を迎える椎名公民館の改築に関する千葉市への要望について協議する。 ・公民館改築の協議会開催	【椎名地区部会】 ・千葉市への要望内容を検討し、要望書を提出	―	【椎名地区部会】 ・区長との懇談会を10月に予定。	【椎名地区部会】 ・継続的な要望を実施
			【503地区民生委員児童委員協議会】 地域福祉活動団体との連携 地域福祉活動を行っている団体と連携し、地域の様々な行事に協力を行う。	【503地区民生委員児童委員協議会】 ①地区部会常任理事会（1回/月）に出席し、各種取組に関する意見交換を行った。 ②3年生対象の福祉講座など、学校行事への参加、協力を行った。 ③歳末独居高齢者慰問 地区民生員が独居高齢者宅を訪問し安否確認を行う（タオル配布）。 ＜中止の事業＞ ・福祉・コミ懇祭り、・合同敬老会 ・いきいきサロン ※歳末独居高齢者慰問は民児協単独実施		【503地区民生委員児童委員協議会】 ①地区部会常任理事会（1回/月）に出席し、各種取組に関する意見交換を行う ②4年生対象の福祉講座など、学校行事への参加、協力を行う。 ③歳末独居高齢者慰問 地区民生員が独居高齢者宅を訪問し安否確認を行う。 〈実施予定事業〉 ・椎名地区部会主催で、米寿・金婚者の記念写真撮影（11月）予定。	【503地区民生委員児童委員協議会】 ・歳末独居高齢者慰問事業について 椎名地区部会主催の福祉バザーの収益で慰問品を購入し、訪問時に贈呈していた。 現在、コロナ禍でバザーの開催が難しいため、予算の確保が難しい状況にあることから、事業内容の見直しが必要と思われる。

緑区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和４年度）個票

【達成状況の目安】
◎：年度目標以上のものが達成できた場合
○：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合
×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
―：評価が困難である場合

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和4年度の目標又は予定	令和4年度の実績	達成状況	令和5年度の目標又は予定	今後の課題と方針
土気地区部会エリア 【人口・世帯数】 44,031人、　21,198世帯 【町内自治会数】 46町内自治会 【高齢化率】 31.0% 【地域の特徴】 緑豊かな地域、あすみが丘・地域開発の住宅地、工業団地や農村地域が広がる。都市公園が整備。	**2　緊急時の支援と対応（災害、防犯と防災、感染症）**	12　防災訓練の充実、意識啓発、体制整備	【土気地区部会】 ・各地区の自主防災組織による諸活動への協力と地区部会に期待される取組みについての検討に努める。 ＊推進員、支援員、さらには活動会員の災害時に備えた意識啓発に努める。 ＊災害発生時の状況把握、特に高齢な活動会員の速やかな把握のための連絡体制づくりに努める。	【土気地区部会】 ・1地区の自主防災組織から要請されているが他からはなく地区部会としての取組みについて検討するには至っていない。 ＊話題にする程度で検討するまでには至っていない。	―	【土気地区部会】 ・各自主防災組織からの要請に応えられるよう部会として可能な取組みについて検討する。 ・市防災対策課の出前講座を受講し、推進員と支援員が防災対策上の事前の準備や心構えについて理解を図る。 ・受講内容を各種活動で取り上げ、未受講の支援員、さらには高齢な活動会員に広めて防災意識の啓発に努める。	【土気地区部会】 ・要請が1地区だけであることをよいことに、余り意識してこなかったが、出前講座を足掛かりに部会としての取組みを検討していく。 ・定期的な救急救命法講習の意義、位置づけについて見直していく。 ・各種の活動の中に災害時の意識啓発に関連する取組みを取り入れていく。
			【土気地区町内自治会連絡協議会】 防災組織 防災訓練・備蓄品等の充実 地域における意識啓発	【土気地区町内自治会連絡協議会】 ・自主防災組織を持ち、役割分担を決めている。集会所を拠点として防災用具、器具などの整備管理をしている。 災害時の助け合いアンケートを実施（要支援者希望者把握）　（土気団地自治会） ・町内会独自の防災対策本部を組織4グループ14ブロックによる連絡網の構築をはかっています。 防災備品として全住戸に消火器を配付。 （紅葉ヶ丘団地自治会） ・緊急時の食料、医薬品等の調達、供給体制つくり、長期避難を想定し、炊き出しの体制を整える、水の緊急対応として私物の井戸の強力を要請する。　（土気町内会） ・防火、防災訓練：千葉緑消防署、千葉市防災普及公社の協力を実施した。 （楓台自治会・山の谷自治会・梅ヶ丘自治会） ・避難訓練実施：5月28日（日）8時00分震度6強の地震発生を想定し自治会館広場に集合した。 参加者67名（参加率28%） 訓練終了後、ごみゼロクリーンデー実施、町内の結束力を図った。　（土気町内会）		【土気地区町内自治会連絡協議会】 ・防災への取組 役員連絡網周知、役員の役割分担、災害時の助け合い希望者の情報共有 （土気団地自治会） ・防災訓練の充実 地域における自主防災組織活動の充実を図るとともに、災害時の避難場所、避難所の確認や複数避難経路設定の周知徹底に努めます。　（土気町内会） ・防災訓練の充実、意識啓発集会所の地域避難場所申請、防災学習の実施、防災備品の充実、近隣自治会と共同で防災訓練の実施。　（高津戸町内会・梅ヶ丘自治会） ・自治会防災から、各家庭に家庭用消火器を配付し啓蒙に努めた。今年度は10月に団地全体の防災訓練を行う予定。 （紅葉ヶ丘団地自治会） ・家庭における意識啓発家庭において、日頃から避難場所の確認や防災用品の準備等を行うよう意識啓発に努めます。 （土気町内会） ・防災訓練の充実、意識啓発、体制整備 大椎中学校避難所運営委員会では、あすみが丘8丁目自主防災会と協働して、避難所開設・運営訓練及び防災訓練を行う。 また、防災普及車を用いた地震体験や煙体験訓練、救命救急訓練（AEDの取り扱い）通報訓練等、外部団体からの支援を受けて訓練の充実を図る。	【土気地区町内自治会連絡協議会】
			【509地区民児協】 避難行動要支援者へのサポーター作り（新規） 民生委員自身の意識高揚 住民への啓蒙活動	【509地区民児協】 ・民生委員が保有する名簿に掲載されている方の優先順位付け ・一人の住民として委員も、取組の重要性の勉強		・委員への説明と理解を受け、具体的に単位民児協内での検討 ・可能であれば、防災対策課他とサポーター決定時期目標などの情報提供受け	・行政機関との打ち合わせを通じ、有効活用できるようにしていくこと ・避難所運営委員として活動する委員が名簿を有効に活用できるようにすること ・連協の支援を受け、各町内自治会が抱える悩みなどの把握。 関係機関の意見の聴取と見直し ・連協等の協力を受けるための説明 ・掲載者への啓蒙チラシなどを定常活動時に配付し説明すること
			【510地区民児協】 災害時の対応	【510地区民児協】 民生委員・児童委員に対して、防災意識の向上のために非常食と防災リュックの提供を行った。 また、ハザードマップを再配布し、災害時の避難場所の再確認を実施した。		【510地区民児協】 独居高齢者に対して、災害時の非常食として配布を図りたい。 高齢者世帯に対して、ハザードマップを配布していきたい。	【510地区民児協】 災害時用非常食を独居高齢者に提供が可能か検討を要する。 独居高齢者が一人で避難場所まで行けるか不明である。

緑区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和４年度）個票

【達成状況の目安】
◎：年度目標以上のものが達成できた場合
○：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合
×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
―：評価が困難である場合

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和4年度の目標又は予定	令和4年度の実績	達成状況	令和5年度の目標又は予定	今後の課題と方針
土気地区部会エリア	３　身近な生活支援（見守り・助け合い）	16　見守り活動の推進	【土気地区部会】 ・助け合い活動と関連する活動として位置づけて一人暮らしで孤立気味の高齢者を定期的な調査結果などを足掛かりに把握する。 ・閉じこもり→老化→要支援→介護の流れの断ち切りと改善の必要性について理解を図る。 ・困り事を気軽に打ち明けられる土壌づくりこそ基礎になるという認識で、普段の交流の拡充と既存の活動の紹介に努める。	【土気地区部会】 ・3自治会の活動に支援役として参加、運営補助金でも支援する。 ・大椎台―対象者3名➔2名に減、協力者15名、1名を2,3人で担当して毎日実施 ・大木戸台―対象者5名➔10名に増、協力者5名、ゴミ出しも手伝い毎週2回実施 ・あすみ第一―対象者9名➔8名に減、協力者18名➔17名、5ブロックに分けて月1,2回実施 ・新設に向けた働き掛けが余り出来なかった。	―	【土気地区部会】 ・3地区の支援事業として取り組む一方、他地域でも発案者や協力者が出るよう働き掛ける。 ・対象者の増減という相反する状況の発生要因を検討して取組みの改善に努める。 ・既存の防犯パトロールなども足掛かりに、見守りパトロールや見守り活動へと進展できないか働き掛ける。 ・見守りとゴミ出しは，孤立化の防止や困り事の手助けになるのでセット化を奨励する。	【土気地区部会】 ・地域の歩みや高齢化率に違いがあるので本活動の必要度の高い地域の割り出しに努める。 ・見守りだけでは希望者が減少しがちな地区には、軽度の困り事にも対応して孤立化の防止に加えて安心づくりや交流づくりにも努める。 ・新たな活動を組織する負担感を薄めるために既存の活動を活用する是非について検討する。 ・推進員在住地区の独居高齢者の生活状況を民生委員の調査などを参考に把握する。
				【土気地区町内自治会連絡協議会】 ・全住民で両隣の見守りを行うのが原則（おおかぶ会（会員200名）互助活動組織と協力） ・学童の登下校時の交差点で見守り ・自治会各般で高齢者や1人住まいの方に声掛け、訪問するようにしている。 ・千葉市高齢者緊急通報システム・千葉市安心電話事業案内の利用を促す。 ・15名ほどの見守り支援が必要。 回覧は手渡しを基本に実施している。 ・何代も続いている向こう3軒両隣精神が薄らいできている。一人暮らしの見守りを組長、班長等にて実施している。 （土気町内会）		【土気地区町内自治会連絡協議会】 ・挨拶運動など、住民同士が日常生活の中で無理なく行える活動を実施し、高齢者や子供たちの見守り活動を行う。 （美空台自治会） ・一人暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯、体に障害のある方などの見守りをする希望する方に声掛けを行います。（土気町内会） ・一人暮らし高齢者世帯への声掛け、地域内の定期的な見回りを行う。（梅ヶ丘自治会） ・民生委員からの情報収集 一人住まい高齢者の毎日の声掛け見守り体制確立　（高津戸町内会） ・セーフティウォッチャー 子供の通学見守り活動土気小より委託の2名が活動　（土気団地自治会） ・一人暮らしの高齢者等には、月2～3回の回覧を廻すときには、ポストに投函するのではなく直接手渡しを心がける。	
			【505地区民児協】 地区の見守り活動団体との連携 はなみずき台の「おおかぶ会」 大椎台団地の「助け合いの会」 大木戸台団地の「シニア支援の会」	【505地区民児協】 それぞれの立場で何をなすべきか 効率的・効果的な方策の模索 定期的な会合の実施 独居中の後期高齢者へのケア 越智中生徒会の協力により手製のクリスマスカード配布		【505地区民児協】 各活動団体への民生委員の積極的参加・関与 クリスマスカード配布の継続 つなぎ役としての民生委員の存在のアピール つないだ後のフォローアップ	【505地区民児協】 地域内の諸問題を解決するために、各団体相互が（言葉だけでなく）実際にどれだけ協調できるか
			【509地区民児協】 地区の見守り活動団体との連携 地域で行われている見守り活動団体と連携し、地域での見守り活動への協力を行う。 出産を控えた母親、新生児を持つ親との関係作り（将来の虐待防止の予防　新規）	【509地区民児協】 ・あすみが丘第一自治会の「見守り隊活動会議」に担当民生委員が会議に参加し、情報提供やアドバイス等を行う一方、見守り対象者登　録を行っていない「気になる高齢者」への対象　者登録の呼び掛けを行っている（会議参加者は、約10名）		【509地区民児協】 ・後期高齢者化の進展が著しい地区でもあり、見守り対象者への新規登録の勧誘活動を継続して実施していく。 ・核家族化が進む中、遠隔地に居住する独居者家族への対応方法などのアドバイス強化 ・健康課など関係機関と協議し、近場に居る親代わりとして相談相手になるための検討 ・子育てを迎える母親との交流を持ち、産後ウツなどに陥りやすい妊婦の発見方法の検討	【509地区民児協】 ・自治会が見守り隊への理解が低く、隊員の士気高揚の手助けの検討 ・遠隔地に住む家族が地元への過度な依頼心への対応方法の検討 ・一人で悩ませない体制作りが目標 ・手伝ってくれる、ボランティア団体探しも必要 ・活動の効果の検証はできないだろうが、意義は大きいと思われる
			【510地区民児協】 独居高齢者への見守り	【510地区民児協】 高齢者実態調査時に、独居高齢者に対して安心カードの配布を行う。		【510地区民児協】 高齢の独居者のみでなく、希望する高齢者に対しても安心カードの配布を行いたい。	【510地区民児協】 65歳以上の高齢者が安心カードを常時携帯する方向に向けて、十分な説明をする必要がある。

緑区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和４年度）個票

【達成状況の目安】
◎：年度目標以上のものが達成できた場合
○：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合
×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
―：評価が困難である場合

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和4年度の目標又は予定	令和4年度の実績	達成状況	令和5年度の目標又は予定	今後の課題と方針
土気地区部会エリア	**３　身近な生活支援（見守り・助け合い）**	17　健康づくり支援	【土気地区部会】 ・公的機関や専門家による地域住民への直接的指導、推進員と支援者の専門性を補う研修を通して確かな取組みができるようする。 ・活動会員だけでなく、すべての住民が参加できる事業により交流の場を拡大するとともに、心身の健康づくりができるようにする。	【土気地区部会】 ・各サロンで保健福祉Cによる指導を年1回、あんしんケアCによる指導を2年に1回受ける。 ・健康講演会－保健福祉C推奨講師、全住民対象だが人数制限をして25人に直接指導、10月 ・ボランティア研修会－保健福祉C推奨講師による指導は中止 ・昭和の森ウォークラリー－連協、スポーツ振興会との共催で全住民対象、11/23、雨天中止	―	【土気地区部会】 ・各サロンでの保健福祉Cとあんしんケア C及びリハビリ専門職による指導を受ける。 ・健康講演会―保健福祉C講師による指導は延期し、ボランティア研修会の充実を期す。 ・ボランティア研修会―健康づくりの土台となる救命法講習を昨年に引き続いて実施する。 ・昭和の森ウォークラリー－子供から大人200人の参加を想定し、多彩な交流づくりも図る。	【土気地区部会】 ・サロンで受けた指導の取組み状況を情報交換して一層の意欲化と継続化を図る。 ・活動の自粛に伴い表面化したフレイル問題から心身の健康づくりとしての各種取組みの意義の総合的な理解を図る。 ・ウォークラリーでの豚汁サービスの再開にあたって、感染症予防を踏まえた対応を図る。
				【土気地区町内自治会連絡協議会】 ・平成26年9月発足第一公園で毎朝6時30分からラジオに合わせて実施。 毎回20名前後が参加。 （土気団地自治会の他山の谷・楓台・梅ヶ丘合計30名）		【土気地区町内自治会連絡協議会】 ・平成26年9月発足第一公園で毎朝6時30分からラジオに合わせて実施。 毎回20名前後が参加。 （土気団地自治会の他山の谷・楓台・梅ヶ丘合計30名） ・大勢の人との関わることを嫌う住民がいる。本人がやりたいこと、希望を聴取し、本人に合った健康づくりを提案する。 （高津戸自治会）	
	３　身近な生活支援（見守り・助け合い）	18　地域の課題解決に向けた連携			―	【土気地区町内自治会連絡協議会】 ・会員の敷地内の植栽管理（枝の剪定）や雑草管理について支援可能な町内会員と受けたい会員が話し合い、協働で作業を実施する仕組みをつくる。 （土気本町１組町内会）	
			【504地区民児協】 地域ケア会議への参加 あんしんケアセンター主催の地域ケア会議「見守りネットワーク土気会議」に参加している	【504地区民児協】 ・地域ケア会議に参加し地域の情報共有や共有事項の守秘の厳守と課題解決に向けて話し合いの場に参加する。 ・推進、連携を強めていく ・市交通政策課と高津戸の問題点を考える		【504地区民児協】 ・月１回の「見守りネットワーク会議」に参加し、地域の関係機関と連携し情報共有 ・千葉市交通政策課の会議参加 高津戸町内会館 ・高津戸の乗り合いタクシー開設 神谷市長立ち合い　出発式	【504地区民児協】 ・今後も継続参加し、地域のために情報交換し共有し合いながら福祉関係の点で力を注ぎたい ・予約制ではあるが、バスの運行で地域の「足」になるように見届けたい。
			【505地区民児協】 地区内の町内自治会との関係の緊密化 問題意識の統一化 地域ケア会議への参加・協力 見守りネットワーク土気会議への参加	【505地区民児協】 町内自治会長会議への参加継続 毎回参加 月例会議の実施 地域内の問題点・状況の共有 専門家による説明会の実施 （児童相談所、生活自立仕事相談センター等）		【505地区民児協】 町内自治会長会議への参加の継続 継続	【505地区民児協】 町内自治会長の一年での交代 逆にそれだけ多くの人々が地域の問題と関わることになるという積極面をいかに伸ばせるか
			【509地区民児協】 地域ケア会議への参加 地域ケア会議（土気見守りネットワーク会議）に参加し、地域の課題解決に向けた連携を行う。	【509地区民児協】 ・コロナウィルス感染拡大で3回ほど中止になったが、積極的に意見交換やアドバイスを述べた。（参加者は、約15名） ・多くの参加者が積極的に意見を述べ、主催者のアレンジで勉強会も行うなど非常に有意義な会合です。 ・参加者は、あんしんケアセンター職員、高齢支援課職員、社協緑職員、４地区民児協会長、土気地区連協会長、社協土気地区部会長、緑いきいきプラザはじめ土気・越智いきいきセンター職員で構成 ・関係専門機関と連携強化を図り、課題対応の活動を積極的対応した		【509地区民児協】 ・令和4年度同様に活動の継続していく	【509地区民児協】 ・後期高齢者数の増加に伴う、寄り添いの連携強化 ・気になる高齢者対応のための情報交換
			【510地区民児協】 高齢者への声かけ	【510地区民児協】 見守りネットワーク土気会議に参加し、地域の課題解決に向けて、いきいきセンターやあんしんケアセンターの紹介をした。		【510地区民児協】 高齢者の増加に伴い、健康維持のために各いきいきセンターやあんしんケアセンターの紹介を継続していきたい。	【510地区民児協】 コロナ禍が収束しない時に個人宅への訪問が許されるか不安が残る。

緑区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和４年度）個票

【達成状況の目安】
◎：年度目標以上のものが達成できた場合
○：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合
×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
―：評価が困難である場合

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和4年度の目標又は予定	令和4年度の実績	達成状況	令和5年度の目標又は予定	今後の課題と方針
おゆみ野地区部会エリア 【人口・世帯数】 46,746人、　22,667世帯 【町内自治会数】 63町内自治会 【高齢化率】 15.9% 【地域の特徴】 鎌取駅を中心に商業地区と戸建て中心とした閑静な住宅地域。緑区行政の中心地。	**1 コミュニケーション（学び・継承・交流・ふれあい・社会参加）**	2 子ども達の集いの場の提供・情報提供、地域と学校との交流	【おゆみ野地区部会】 住民全体で「子どもは地域で育てる」という意識をもち、子どもたちの集いの場の提供・情報提供、地域と学校との交流等、青少年育成委員会やボランティア団体等と連携しながら推進していく。	【おゆみ野地区部会】 1)子育てサロンの実施：計10回 ・R4.5.17親子の交流 12名 ・R4.6.1親子あそび（保育士:小田先生の指導による→ 以下同様）22名 ・R4.7.14 親子の交流 6名 ・R4.9.13親子の交流 36名 ・R4.10.26親子あそび 14名 ・R4.11.17親子の交流、他 16名 ・R4.12.14親子あそび 18名（聾学校より生徒10名、先生5名、保健師2名参加） ・R5.1.17親子の交流 21名 ・R5.2.16親子の交流、他 6名（ヘルスメイトの離乳食メニュー紹介、栄養士と保健師による栄養相談等） ・R5.3.15親子あそび 34名（開催場所：おゆみ野公民館・鎌取コミュニティセンター・緑保健福祉センター） 2)R4.8.25 臨床心理士 公認心理士 花澤先生による研修会「発達障害と支援について」を鎌取コミュニティセンターにて開催 3)おゆみ野四季の道駅伝大会中止 さくらさくウォークラリー中止 4)その他情報交換等の委員会を随時開催	―	【おゆみ野地区部会】 1)子育てサロンの実施：年10回予定 開催時間：午前10時～ ・鎌取コミュニティセンター R5.5.16、9.19、R6.1.16 ・おゆみ野公民館 R5.7.20、11.16、R6.2.15 ・緑保健福祉センター R5.6.21、10.16、12.13、R6.3.13 2)講演会・講習会・研修会の企画、参加 年1回程度、時期未定 3)緑保健福祉センター及び地域の子育て関連団体への支援協力と連携 4)その他情報交換等の委員会開催	
			【おゆみ野地区町内自治会連絡協議会】 〈学校との交流〉 地域と学校との交流	【おゆみ野地区町内自治会連絡協議会】 ①遊歩道を使用したクイズラリー ②花植え ③夏祭りの実施等		【おゆみ野地区町内自治会連絡協議会】 ①遊歩道を使用したクイズラリー ②花植え ③夏祭りの実施等	【おゆみ野地区町内自治会連絡協議会】 感染症の状況に応じて開催方法等を検討する必要がある。
			【502地区民児協】 「支え合う 住みよい社会 地域から」の推進 社協おゆみ野地区部会の中核的活動を担うと共に、その他地域関連団体組織との協働により、積極的な地域福祉活動に努める。	【502地区民児協】 ○地域・学校行事への協力 ・朝のあいさつ運動　毎月1週間実施 ・小中学校校長との懇談会（7/12）および各校との交流会（泉谷中：9/2、泉谷小：9/9、小谷小：9/16）を実施 ・児童・生徒と一緒に花植えを行った。（小谷小：11/28　泉谷中：12/2　泉谷小：12/6） ・昔あそびの伝授は中止。 ○青少年育成委員会・地域運営委員会等への協力 ・遊歩道足跡ペイント再塗装への協力 （10/2、10/16）		【502地区民児協】 ○地域、学校行事への協力 ・担当小中学校校門前で毎月1週間、朝のあいさつ運動の実施 ・担当小中学校校長との懇談会及び交流会において学校内の様子を把握することに努める。（7月、9月） ・担当小中学校での「花いっぱい運動」における花植え活動の実施（11月） ・おゆみ野地区小学校への昔あそびの伝授（11～1月） ・おゆみ野四季の道駅伝大会への協力（R6年2月） ○青少年育成委員会・地域運営委員会等の諸行事や会議にも協力・参加する。 ・遊歩道足跡ペイント再塗装への協力（6月） ・おゆみ野探検ウォークラリーへの協力（10月）	【502地区民児協】 積極的な地域の福祉活動を行うための地域部会活動への協力体制、地域・学校行事への協力体制を、より確立していくこと。 引き続き、新型コロナウイルス感染予防に配慮しながら、新しい生活様式に合った地域での活動を考えて行く。
			【508地区民児協】 有吉中学校、有吉小学校、扇田小学校を対象に活動を行っている。 あいさつ運動や花植え活動、ビオトープへの協力を行う。	【508地区民児協】 1. あいさつ運動は、有吉中学校において、5～3月にかけ行った。延べ50日、参加約500人。 2. 花植えは、小・中学校の生徒と行い、5～6月は22人、11月は25人。		【508地区民児協】 1. あいさつ運動の実施 有吉中学校の正門・裏門にて、5～3月まで実施。毎月5日間実施。延べ50日、約500人参加予定。 2. 花植えの実施 5～6月、11月に有吉中、有吉小、扇田小で実施。延べ約50人が参加予定。 3. 扇田小ビオトープへの協力 地域の人達と協力し、ビオトープの管理を行う。	【508地区民児協】 コロナウィルスも5類になり、活動も徐々に正常に戻りつつあり、活動に対して委員全員が積極的に参加する。

緑区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和４年度）個票

【達成状況の目安】
◎：年度目標以上のものが達成できた場合
○：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合
×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
―：評価が困難である場合

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和4年度の目標又は予定	令和4年度の実績	達成状況	令和5年度の目標又は予定	今後の課題と方針
おゆみ野地区部会エリア	**1 コミュニケーション（学び・継承・交流・ふれあい・社会参加）**	5 子育て中の親や子どもが集う場の開設・拡充	【おゆみ野地区部会】 発育、発達、しつけなど子育てへの不安や悩みなどを抱える親に対して、保健福祉センター等と協力し、相談会、講習会などを開催するよう努める。子育て中の親や子どもが集い、仲間づくりができる場（ふれあい・子育てサロン等）を拡充する。	【おゆみ野地区部会】 （再掲） 1)子育てサロンの実施：計10回 ・R4.5.17親子の交流 12名 ・R4.6.1親子あそび（保育士:小田先生の指導による→ 以下同様） 22名 ・R4.7.14 親子の交流 6名 ・R4.9.13親子の交流 36名 ・R4.10.26親子あそび 14名 ・R4.11.17親子の交流、他 16名 ・R4.12.14親子あそび 18名（聾学校より生徒10名、先生５名、保健師2名参加） ・R5.1.17親子の交流 21名 ・R5.2.16親子の交流、他 6名（ヘルスメイトの離乳食メニュー紹介、栄養士と保健師による栄養相談等） ・R5.3.15親子あそび 34名 （開催場所：おゆみ野公民館・鎌取コミュニティセンター・緑保健福祉センター） 2)R4.8.25 臨床心理士 公認心理士 花澤先生による研修会「発達障害と支援について」を鎌取コミュニティセンターにて開催	―	【おゆみ野地区部会】 （再掲） 1)子育てサロンの実施：年10回予定 開催時間：午前10時～ ・鎌取コミュニティセンター R5.5.16、9.19、R6.1.16 ・おゆみ野公民館 R5.7.20、11.16、R6.2.15 ・緑保健福祉センター R5.6.21、10.16、12.13、R6.3.13 2)講演会・講習会・研修会の企画、参加 年1回程度、時期未定	
			【502地区民児協】 「支え合う 住みよい社会 地域から」の推進 社協おゆみ野地区部会の中核的活動を担うと共に、その他地域関連団体組織との協働により、積極的な地域福祉活動に努める。	【502地区民児協】 ○地域部会への協力 ・子育てサロン 10回開催 （5/17、6/1、7/14、9/13、10/26、11/17、12/14、1/17、2/16、3/15）		【502地区民児協】 ○地域部会への協力 子育てサロン年10回、部会の委員として活動し、子育て中の親子が集う場の提供に協力。	【502地区民児協】 ・積極的な地域の福祉活動を行うための地域部会活動への協力体制、地域・学校行事への協力体制を、より確立していくこと。 ・引き続き、新型コロナウイルス感染予防に配慮しながら、新しい生活様式に合った地域での活動を考えて行く。
			【511地区民児協】 千葉市社会福祉協議会おゆみ野地区部会「5つの委員会」に所属 中核的活動を担うとともに、その他福祉関連団体組織と交流を図り、積極的につながる福祉活動に努める。	【511地区民児協】 ○地域部会への協力 ・子育てサロン10回		【511地区民児協】 ○地域部会への協力 ・子育てサロン10回	【511地区民児協】 ・現在、担い手となっている民生員の高齢化に伴い、新しい担い手の確保が必要である。 （福祉委員を増やしていく） ・44連協会長会や広報誌等で新規の勧誘活動をしていく。
	2 緊急時の支援と対応（災害、防犯と防災、感染症）	12 防災訓練の充実、意識啓発、体制整備	【おゆみ野地区町内自治会連絡協議会】 <防災> 地域での防災活動	【おゆみ野地区町内自治会連絡協議会】 ①各地区九都県市避難所訓練 令和4年9月1日実施 ②避難所訓練 令和4年8月28日実施	―	【おゆみ野地区町内自治会連絡協議会】 ①各地区九都県市避難所訓練 令和5年9月実施予定 ②避難所訓練 令和5年8月27日実施予定	【おゆみ野地区町内自治会連絡協議会】 感染症の状況に応じて開催方法等を検討する必要がある。
			【502地区民児協】 「災害時一人も見逃さない運動」の推進 ・高齢者実態調査、避難行動要支援者名簿、年末の重度心身障害児家庭慰問金配布などの資料を元に取り組み、安全で安心なまちづくりに努める。 ・避難所運営委員会への参画により、災害時の避難所の運営について検討する。	【502地区民児協】 ○高齢者実態調査再開により、コロナ禍の中での高齢者の生活を確認することが出来た。また、高齢者や災害時要支援者の最新情報の把握に努めた。 ○令和4年度は台風の影響もほとんどなく、災害対応では特段の活動を必要としない一年であった。		【502地区民児協】 ○日常の見守り活動などにより、高齢者や災害時要支援者の最新情報の把握に努める。 ○台風・地震などの災害時は、安全確認や被害状況の把握、情報伝達を行う。 ○避難所運営委員会の会議参加により、災害時における避難所の運営について地区ぐるみで検討する。	【502地区民児協】 ・引き続きコロナ感染予防に努めながら、新しい生活様式に合った活動を検討し、日常の見守り活動などをより充実させていく。 ・自治会と協力し、具体的な避難支援体制作りが必要である。
	3 身近な生活支援（見守り・助け合い）	17 健康づくり支援	【おゆみ野地区部会】 健康を保持する活動を保健福祉センター・あんしんケアセンター及び地域の医療機関等の協力を得て、地域の週会やイベントの機会を利用して実施する。 ラジオ体操やシニアリーダー体操、健康ウォーキング等への積極的に参加する仕組みづくりを推進し、実施する。	【おゆみ野地区部会】 各委員会の活動の中で、保健福祉センター・あんしんケアセンター並びに地域医療関係等の協力を得て、講演や訪問などを具体的に計画した。	―	【おゆみ野地区部会】 各委員会の活動の中で、保健福祉センター・あんしんケアセンター並びに地域医療関係等の協力を得て、講演や訪問などを具体的に計画する。	

緑区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和４年度）個票

【達成状況の目安】
◎：年度目標以上のものが達成できた場合
○：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合
×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
―：評価が困難である場合

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和4年度の目標又は予定	令和4年度の実績	達成状況	令和5年度の目標又は予定	今後の課題と方針
平山地区部会エリア 【人口・世帯数】 7,606人、　3,685世帯 【町内自治会数】 9町内自治会 【高齢化率】 25.1% 【地域の特徴】 古くからの里山が広がる地域。近年では大網街道沿いで住宅地の開発が進む。	1 コミュニケーション（学び・継承・交流・ふれあい・社会参加）	3 高齢者が集う場の開設・拡充・情報提供	【平山地区部会】 ・いきいきサロンの実施	【平山地区部会】 ・いきいきサロン コロナのため休止	―	【平山地区部会】 ・いきいきサロン 鎌取団地（週１回） 平山第一自治会（週１回） （町内自治会のシニアクラブと連携して実施）	【平山地区部会】 ・他の町内自治会も実施できないか検討
			【501地区民児協】 平山地区部会「ふれあいいきいきサロン」への更なる支援活動を実施する。	【501地区民児協】 高齢者福祉委員会は、新型コロナウイルス感染症の予防ため活動休止した。		【501地区民児協】 ●高齢者福祉委員会は、「ふれあいいきいきサロン」をけやき園・緑苑の施設長も加わった11名で保健センターで実施する。	
	1 コミュニケーション（学び・継承・交流・ふれあい・社会参加）	5 子育て中の親や子どもが集う場の開設・拡充	【平山地区部会】 ・子育てサロンの実施	【平山地区部会】 ・子育てサロン 保健福祉センターで月１回実施した。	―	【平山地区部会】 ・子育てサロン 保健福祉センター（月１回）	
			【501地区民児協】 ①子育てサロンへの協力 ②平山地区部会「ふれあい子育てサロン」への更なる支援活動を実施する。	【501地区民児協】 主任児童委員が中心で民生委員・児童委員OGと地域協力員で実施し、子育てに関するアドバイスを行った。 ①子育てサロンへの協力を行った。 （年10回　4月～7月、9月～2月） ②平山地区部会と協働で子育てサロンの運営を行った。		【501地区民児協】 平山地区部会と協働で子育てサロンの運営を行う。 ●主任児童委員が中心で民生委員・児童委員OGと地域協力員で実施し、子育てに関するアドバイスを行う。 ●子育てサロンへの協力を行う。 （年10回　4月～7月、9月～2月）	【501地区民児協】 子育てサロンへの協力 ◎新興住宅地が増え、参加者が広範囲から来るようになった。 ◎乳児が増えたことによって母親同士の情報交換があまり出来なかった等が課題であった。

美浜区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和４年度）総括表

【達成状況の目安】
◎：年度目標以上のものが達成できた場合　　×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
○：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合　　－：評価が困難である場合

◆基本方針別取組状況

基本方針	取組項目数	取組項目の達成状況		主な取組内容
1　住民主体による協働のまちづくり	19	◎	7	・稲毛海岸地区部会では、「ふれあい いきいきサロン」「ふれあい 散歩クラブ」等、地域住民による交流の場・集いの場は、年間を通じて開催しており、ほぼコロナ禍前に戻ってきている。「ふれあい 子育てサロン」は9月より再開している。「ふれあい 食事サービス」は集まって食事をしたい、という要望が多かったことから、状況を見ながら、再開することとした。 ・36地区連協（幸町1丁目）が中心となって3年前に立ち上がった「幸町1丁目 健康プラザ」は、地域住民の通いの場として参加者同士の交流や健康に関する講話・体操等が行われている。 ・高洲高浜地区部会では、コロナ禍においても、サロンの内容（メニュー）をコロナ感染対策に対応したものに工夫して、「ふれあい いきいきサロン」「ふれあい　散歩クラブ」をコロナ感染対策を取りながら開催し、高齢者の居場所づくり（集いの場）の提供を行った。 ・幕張西地区部会エリア（30地区連協）内15自治会の内、13自治会が、見守り活動を実施した。 毎年、年1回の見守りコーディネーター定例会を開催し、各町内自治会との情報共有を図っている。見守り活動から発展して地域支え合い活動を実施させている自治会も出始めてきている。
		○	12	
		△		
		×		
		－		
2　誰もが暮らしやすい環境づくり	29	◎	17	・幸町2丁目地区部会エリアでは、「幸町2丁目連携会議」を実施。地域関係者が集まり、情報共有と地域課題への対応のための連携強化に努めている。 ・真砂地区部会エリアでは、地域運営委員会が真砂地区の地域情報を一括してホームページで公開（提供）している。 ・真砂地区部会が実施している地域支え合い活動「ささえあい まさご」は、コロナ禍においてもニーズに応え、継続的に実施している。 ・33地区連協（磯辺地区）では、地域支え合い活動を28自治会中10自治会が自治会単位で実施。地区内の高齢化が進みつつある中、コロナ禍においても感染対策に留意しながらゴミ出し等地域住民の福祉的ニーズに応えて実施してきた。 ・打瀬地区部会では、バーチャルリアリティーによる「VR発達障害体験会」を打瀬公民館と共催で実施。新たな視点として「発達障害」に焦点を当てて発達障害者特有の感覚を疑似体験することで障害を理解しより良い支援へとつなげていく足掛かりとなった。 ・地域住民の移動支援の取組みとして、「グリーンスローモビリティ」の実証実験が行われ、街のにぎわいが高まるよう地域全体で支援し、運用実現に期待を寄せている。
		○	12	
		△		
		×		
		－		
3　福祉を支える人づくり	8	◎	3	・稲毛海岸地区部会エリア（38地区連協）では、青少年育成委員会とスポーツ振興会と共催で、多世代の参加するグラウンドゴルフ大会を開催する等、地域の方々が広く集まれるイベントを企画している。これらにより、多世代を巻き込んで地域を支えていく町づくりを行っている。 ・真砂地区部会では、地区部会活動のPRや次の地域活動の担い手となるべく人材発掘の機会として、美浜文化ホールで音楽と芸能のイベントを開催し、社協・地区部会・地域活動等についてPR活動を行った。 ・打瀬地区部会では、打瀬公民館と共催で、打瀬地区の近隣にある東都大学の協力を得て、「ボランティア講座」、美浜いきいきプラザの協力による「第2回 健康フェスティバル」を開催し、健康に関する講話・健康測定の補助を行っていただき、地域での協働の連携を強化し、活動の輪を広げることができた。
		○	4	
		△	1	
		×		
		－		
今年度の振り返り	56	◎	27	・コロナ禍においても地域での各実施主体では、コロナウィルス感染拡大の状況を注視しながらコロナ感染対策を講じて、地域福祉活動を再開・実施させてきた。活動再開にあたっては今後の「アフターコロナ」「ウィズコロナ」を見据えて事業が継続して実施していけることを主眼に置いて工夫を凝らしたものを検討・準備・試行を経て再開させてきている。
		○	28	
		△	1	
		×	0	
		－	0	

今後の課題と方針	これまでも、美浜区特有の地域課題（集合住宅での高齢者独居世帯、エレベーターが設置されていない中層集合住宅の住民のひきこもり・外出困難・買物困難、新旧住民間の融合、子育て世帯と高齢者世帯との交流、支え合い活動等地域福祉活動の担い手不足、活動拠点の確保 等）について、「第４期 美浜区支え合いのまち推進計画」（美浜区地域福祉計画）においても地域課題解決のために活動を行ってきたが、コロナ禍の影響による活動自粛の影響もあり課題解決にまでは至らなかった。 今後も引続き、様々な美浜区の地域課題について「第５期 美浜区支え合いのまち推進計画」の基本方針に則り、コロナ感染症拡大防止に留意しながら活動を継続して取組んでいくと同時に、「アフターコロナ」「ウィズコロナ」に配慮した地域課題解決のための新たな地域福祉活動を展開していきたい。

◆区支え合いのまち推進協議会開催状況

回数	開催日	主な議題
第1回	10月19日（水）	【対面形式開催】 （1）「美浜区支え合いのまち推進計画」に準じた令和3年度における取組状況について

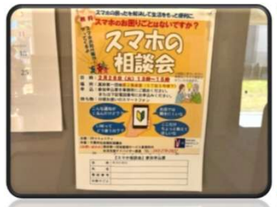
◆区支え合いのまち推進協議会だより発行状況

号数	発行日	発行部数及び主な配布先
		令和4年度は発行なし

◆区の地域福祉に関する紹介事例等

真砂地区部会エリア
『スマホ相談会』の実施　～各種団体・組織との連携と高齢者支援

令和5年2月28日、美浜区真砂にあるUR真砂第一団地において「スマホ相談会」が開催されました。
この相談会は、UR真砂第一団地の生活支援アドバイザーが団地内の高齢の住民のニーズ（要望）を受けて、URコミュニティ（生活支援アドバイザー）・千葉市社会福祉協議会 美浜区事務所（生活支援コーディネーター・地区部会担当）・東都大学との共催での開催となりました。
高齢の住民の方たちは、スマートフォン（スマホ）を必要としながらも、いざ使い始めると、使い慣れた人たちには疑問にも思わないようなことにつまづいて、そこから先に進めなくなり、スマホを使えなくて困っている状況になっている方たちも少なくないようです。
このような困りごと・ニーズをURの生活支援アドバイザーが把握したことで、スマホを子どもの頃から利用し、使い慣れている若い人（学生）にスマホの分からないところをピンポイントで教えてもらうという、スマホ教室ではない「スマホ（使い方）相談会」という名目で、講師に東都大学の学生に依頼をして開催しました。
東都大学 学生への講師（アドバイザー）依頼にあたっては、千葉市社協 美浜区事務所の生活支援コーディネーターや地区部会担当者が調整を行い、10人の東都大学生に協力してもらえることとなり、19人の相談者を2部制でマンツーマンでの相談会として開催することができました。
相談会では、スマホの使い方や、教えてほしい・知りたいところを楽しげに相談・質問していました。また、相談・質問以外の会話・雑談も和気あいあいとされていて“世代間交流”の場ともなりました。
今後、ますますスマホの必要性が高まるとともにスマホの使い方が分からなくてつまづいてしまっている高齢者も多くなっていくと思われます。そのためにも、このような「スマホ（使い方）相談会」を今後も実施していくことによりスマホの使い方等の困りごとが少しでも解消されていければ、安心して暮らしていける環境づくりにもつながっていくのではないかと思われ、今後も美浜区内の各地区・各所において実施していきたいと考えています。



美浜区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和４年度）個票

【達成状況の目安】
◎：年度目標以上のものが達成できた場合
○：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合
×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
―：評価が困難である場合

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和4年度の目標又は予定	令和4年度の実績	達成状況	令和5年度の目標又は予定	今後の課題と方針
稲毛海岸地区部会エリア 令和4年3月31日時点 【人口・世帯数】 10,281人　4,382世帯 【町内自治会数】 15町内自治会 【高齢化率】 17.2% 【地域の特徴】 地区の北側は国道14号が東西に走り、東側は黒砂水路を挟んで幸町に、西側は真砂に接し、南側は高洲となる。埋め立て前は海岸線であった。集合住宅が多く立ち並ぶ地域であったが、近年は高層マンションや一戸建て住宅街も建設されている。	1　住民主体による協働のまちづくり	計画の継続性と新型コロナウイルス感染症拡大防止による活動自粛により実施できなかった事業・活動を補完していくため、第4期の計画を継続して取り組んでいく。	コロナウィルス感染拡大の状況を注視しながらも、「アフターコロナ」「ウィズコロナ」を見据えて、ガイドラインによる感染対策を遵守しながら地域活動再開の検討・準備・試行・実施を行う。	・「ふれあい いきいきサロン」「ふれあい 散歩クラブ」等、地域住民による交流の場・集いの場は、年間を通じて開催しており、ほぼコロナ禍前に戻ってきている。「ふれあい 子育てサロン」は9月より再開している。「ふれあい 食事サービス」は集まって食事をしたい、という要望が多かったことから、状況を見ながら、再開することとした。	○	・「ふれあい 食事サービス」の再開を目指す。 コロナが落ち着いた状況になっても、外に出なくなってしまっている高齢者が増えていることが課題である。そのため、いきいきプラザの協力を得て、「健康フェスティバル」（測定会）を開催する。その際には、バスの送迎付きで、まずは外に出る・健康状況を知ることにより、地域の活動に参加してもらうことのきっかけとしたい。 ・高齢者対象のバス旅行も再開する。	・地域運営委員会・町内自治連絡協議会・青少年育成委員会・民生委員児童委員協議会との連携を強化し、連携して町づくりを行っていく。 ・地域住民の交流の場であり、見守り・安否確認の場でもある「ふれあい食事サービス」を、再開させていく。
	2　誰もが暮らしやすい環境づくり			・サロン・見守り活動・支え合い活動等、地域活動従事者と参加者・依頼者とが、顔見知りとなり気軽に声をかけ合う関係性ができている。 ・「あんしんカード」の活用・普及により、誰もが安心して暮らせる環境が整ってきている。	○	・サロン・見守り活動・支え合い活動等、地域活動従事者と参加者・依頼者とが、顔見知りとなり気軽に声をかけ合う関係性をさらに深め、コロナ禍で参加に慎重になっている高齢者にも参加を促し、見守りの環境をつくる。。 ・「あんしんカード」の活用・普及により、誰もが安心して暮らせる環境づくりをさらに充実させていきたい。	・「あんしんカード」の普及とカードの内容更新について、進めていきたい。
	3　福祉を支える人づくり			・青少年育成委員会とスポーツ振興会と共催で、多世代の参加するグラウンドゴルフ大会を開催する等、地域の方々が広く集まれるイベントを企画している。これらにより、多世代を巻き込んで地域を支えていく町づくりを行っている。	○	・引き続き、青少年育成委員会とスポーツ振興会と共催で、多世代の参加するグラウンドゴルフ大会を開催する等、地域の方々が広く集まれるイベントを企画していきたい。さらに、ボッチャの普及にも力を入れ、さらに多世代を巻き込んで地域を支えていく町づくりを進めていきたい。	・地域活動の担い手発掘のため、幅広い世代に対して、イベント（地域行事）の参加をきっかけに地域活動参加への啓発等を促していきたい。
幸町2丁目地区部会エリア 令和4年3月31日時点 【人口・世帯数】 10,548人　6,027世帯（新港を除く） 【町内自治会数】 13町内自治会 【高齢化率】 33.9% 【地域の特徴】 東西に伸びる千葉中央港地区の土地造成・港湾地区計画により埋め立て・造成された地域。北側は旧海岸線沿いで稲毛区に接し、地区内はUR都市機構が整備した千葉幸町団地が大部分を占め、国道沿いには中高層マンションのほか、スーパー、飲食店舗、自動車関連店舗などが立地する。西端は黒砂水路を挟んで高洲・稲毛海岸地区となり、南側は京葉線を挟んで自動車関連事業所や食品コンビナートなどが集積する。	1　住民主体による協働のまちづくり	計画の継続性と新型コロナウイルス感染症拡大防止による活動自粛により実施できなかった事業・活動を補完していくため、第4期の計画を継続して取り組んでいく。	コロナウィルス感染拡大の状況を注視しながらも、「アフターコロナ」「ウィズコロナ」を見据えて、ガイドラインによる感染対策を遵守しながら地域活動再開の検討・準備・試行・実施を行う。	・「ふれあい いきいきサロン」等、地域住民による交流の場・集いの場が一部において再開された。 ・地区部会が実施している「幸町2丁目地区 支え合いの会」は、幸町2丁目地区部会・UR幸町団地生活支援アドバイザー・あんしんケアセンター幸町・602地区民児協・28地区連協が、連携・協働しながらコロナ禍においても継続的に実施されてきた。	○	・「ふれあい いきいきサロン」等については、コロナ禍前の状態に戻せるよう徐々に再開させていきたい。 ・「幸町2丁目地区 支え合いの会」について、需要（ニーズ）が増えていく一方、活動者（協力員・サポーター）が不足していることから、活動を地区内の自治会単位での支え合い活動や有志の人たちの活動に引き継ぎ移行させ、今後も、出来る範囲のなかで需要（ニーズ）に応えていきたい。	・「ふれあい いきいきサロン」等については、コロナ禍前の状態に戻せるよう、徐々に再開させていきたい。
	2　誰もが暮らしやすい環境づくり			・地域支え合い活動「幸町2丁目地区 支え合いの会」と「あんしんカード」の併用により、誰もが安心して暮らせる環境が整ってきている。 ・「幸町2丁目連携会議」を実施。地域関係者が集まり、情報共有と地域課題への対応のための連携強化に努めた。	○	・地区内の自治会において、文化行事を再開させ、地域住民の交流の場の機会を設けることにより、見守り・安否確認へつなげていきたい。 ・地区部会や自治会が主体となって、健康体操を実施していきたい。	・「あんしんカード」の新規普及は、コロナ感染状況が落ち着いてきたことにより、民生委員等による訪問が再開され活用されてきている。 見守り・安否確認を希望する利用対象者の増加により、今後、利用対象者の整理（制限）も考えていく必要がある。 ・「幸町2丁目連携会議」を有効に活用させ、引続き情報の共有と連携強化に努めていきたい。
	3　福祉を支える人づくり			・次の地域活動の担い手となるべく人材の発掘・養成を行う機会として、「ボッチャ体験教室」をボランティア講座として開催した。	○	・地区部会活動の再開をきっかけに活動の実施のなかで、担い手を発掘・探していきたい。	・地域活動の担い手発掘のため、他の地区の情報を収集したり、幅広い世代に対して地域行事の参加をきっかけに地域活動参加への啓発等を促していきたい。 ・次世代の担い手の発掘の仕方（アプローチ）について改めて検討する（考え直す）必要がある。 高齢化が進む幸町2丁目地区の中で探していくことは難しい、限界にきている。国・社会の意識を変えて、例えば若い世代が地域活動（福祉活動・貢献活動・ボランティア活動）等をすると所属会社から評価されるような仕組みにしていかなくてはならないのではないか。

美浜区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和４年度）個票

【達成状況の目安】
◎：年度目標以上のものが達成できた場合
○：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合
×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
―：評価が困難である場合

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和4年度の目標又は予定	令和4年度の実績	達成状況	令和5年度の目標又は予定	今後の課題と方針
幸町一丁目地区部会エリア 令和４年３月３１日時点 【人口・世帯数】 7,140人　3,426世帯（新港を除く） 【町内自治会数】 19町内自治会 【高齢化率】 30.8% 【地域の特徴】 東西に伸びる千葉中央港地区の土地造成・港湾地区計画により埋め立て・造成された地域。北側は旧海岸線沿いで、中央区登戸に接する。地区内は高層低層の集合住宅が大部分を占め、一部戸建て住宅があるほか、国道沿いには大型事業所も立地する。西端は道路を挟んでJR千葉みなと駅や千葉市役所などが立地する中央区千葉港地区となり、南側は京葉線を挟んで自動車関連事業所や食品コンビナートなどが集積する。	**1　住民主体による協働のまちづくり**	計画の継続性と新型コロナウイルス感染症拡大防止による活動自粛により実施できなかった事業・活動を補完していくため、第４期の計画を継続して取り組んでいく。	コロナウィルス感染拡大の状況を注視しながらも、「アフターコロナ」「ウィズコロナ」を見据えて、ガイドラインによる感染対策を遵守しながら地域活動再開の検討・準備・試行・実施を行う。	・幸町一丁目地区部会では、コロナ感染対策を取りながら「ふれあい いきいきサロン」「ふれあい 子育てサロン」を順次再開し、「ふれあい食事サービス」もテイクアウト方式で再開した。 　また、バス旅行も3年ぶりに実施した。 ・行政が行う「緊急通報システム（ALSOK）」の普及に努めた。 ・地区部会広報紙「小窓」を全戸配布で発行し、地区内の福祉的な情報を発信し、見守り的な効果も得られた。 ・あんしんケアセンター幸町との、顔の見える関係の構築に努めてきた。 ・３６地区連協が中心となって3年前に立ち上がった「幸町１丁目 健康プラザ」は、地域住民の通いの場として参加者同士の交流や健康に関する講話・体操等が行われている。 ・１３年目となる「安心サポートの会」では、高齢者に対する支え合い活動や訪問支援を行っている。年間約1,200件の依頼を受けてきた。 ・買物困難者のための「金曜ふれあい市」を開催。年間延べ約5,000人が利用した。 ・「ふれあいサロン」を毎週金曜日に開催。毎回約30人くらいの参加がある。 ・高齢者の生きがいづくりとして「高齢者人材バンク」を開設。地区内での昼間の町内パトロール、夜間の危険箇所パトロールの実施。また、地区内の学校へそろばんや昔あそびを教えに行ったり、登下校時の見守りを行っている。 ・地域の美化活動として、「はななの会」によるけやき通りの花植え、「朝風会」によるゴミ拾いや、幸町公園での清掃活動、「幸町公園あじさいプロジェクト」での植栽等を行っている。	◎	・健康スポーツの推進 ①男性を「交流の場（ふれあい いきいきサロン）」等に連れ出すため、パラスポーツの「ボッチャ」をサロンメニューとして取り込んで実施していく。 ②「健康体操」をサロン等に盛り込み、地元出身の理学療法士を講師に招いて、年４回程度実施していく。 ・子どもたち対策 ①子供たちの居場所づくりとして、学習支援と食事会をセットで組み合わせたCOCO塾を立ち上げて、８月から実施していく。 ②「祭り・盆おどり」を子どもから大人・高齢者まで多世代の地域交流の場となるよう、実施していきたい。 ・既存の活動 ①既存の活動（「ふれあい いきいきサロン」「ふれあい 子育てサロン」「ふれあい食事サービス」）を徐々にコロナ禍前の状態に戻していきたい。 　再開後に、サロン等に来られなくなった人を、どう来られるようにするか。また、ふれ食の宅配（訪問）により安否確認の機会としているが届ける人をどう確保していくか。解決に向けて取り組んでいきたい。 　１０月頃にはふれ食を会食形式で実施させたい。 ②昨年度再開させた「バス旅行」を今年度も実施したい。	・健康スポーツの一環として、パラスポーツの「ボッチャ」を広めていくことにより、「ボッチャ」というツールで高齢者を引っ張り出して、閉じこもり防止に努めていきたい。 ・「祭り・盆おどり」等の企画・開催をすることにより、子どもを引っ張り出すことでそこに大人（保護者等、親・祖父母＝高齢者）もついて来ることから、多世代の世代間交流や、閉じこもり・孤立の防止にも繋がらせていきたい。 　そのためにも、小学校との連携を重視して、学校に負担をかけないような形で小学生（子どもたち）との地域の連携を図っていきたい。 ・見守り活動の効果的な方策の検討を行い、緊急事態発生時の対応方法や鍵（玄関キー）の管理の仕方（相互に鍵を持つ）等について、見直しを行う必要がある。 ・コロナ禍の状況は感染拡大を危惧する高齢の住民も多く、まだ不安感を持っている高齢者も少なくない。地域活動の実施にあたっては、コロナの感染状況の推移とコロナの感染対策を充分に取って進めていくことが重要である。 ・イベント等の開催時には参加者・利用者等からアンケート調査を行うようにし、その結果を次の活動へと反映・活かすようにしている。人（相手）に感謝されることが、活動者に生きがいを感じ、今後の活動のモチベーションにつながり、活動の継続にもつながっていくと考えている。
	2　誰もが暮らしやすい環境づくり				◎		
	3　福祉を支える人づくり				◎		
高洲高浜地区部会エリア 令和４年３月３１日時点 【人口・世帯数】 38,319人　19,684世帯 【町内自治会数】 25町内自治会 【高齢化率】 32.1% 【地域の特徴】 区のほぼ中央に位置し、JR京葉線稲毛海岸駅があり、駅前には大型商業施設があるほか、行政施設としてコミュニティセンター・図書館、金融機関などの機能が集積し、その周りをUR都市機構の集合住宅団地や民間マンションなどの住宅地区が取り囲んでいる。北は稲毛海岸（町名）、南側は高浜に接しており、東側は黒砂水路を挟んで幸町、西側は草野水路を挟んで真砂・磯辺に接している。 　高浜地区は、海岸線に接しており、海辺には日本一の長さを誇る人工海浜や稲毛海浜公園が整備されている。隣接する高洲地区と連なった集合住宅団地の地区を形成するほか、西側に隣接する磯辺地区ほどではないが5丁目・6丁目にはまとまった戸建て住宅地区も存在する。	**1　住民主体による協働のまちづくり**	計画の継続性と新型コロナウイルス感染症拡大防止による活動自粛により実施できなかった事業・活動を補完していくため、第４期の計画を継続して取り組んでいく。	コロナウィルス感染拡大の状況を注視しながらも、「アフターコロナ」「ウィズコロナ」を見据えて、ガイドラインによる感染対策を遵守しながら地域活動再開の検討・準備・試行・実施を行う。	・コロナ禍においても、サロンの内容（メニュー）をコロナ感染対策に対応したものに工夫して、「ふれあい いきいきサロン」「ふれあい　散歩クラブ」をコロナ感染対策を取りながら開催し、高齢者の居場所づくり（集いの場）の提供を行った。	◎	・地域の高齢住民の交流の場であり、見守り・安否確認の場でもある「ふれあい食事サービス」を調理・会食の形式で再開できるよう、検討・準備を行い、１１月頃を目標に再開させたい。	・地域住民の交流の場であり、見守り・安否確認の場でもある「ふれあい食事サービス」について、調理や会食のあり方・形式等について今後、検討していく必要がある。
	2　誰もが暮らしやすい環境づくり			・高洲高浜地区部会の広報紙「高洲・高浜 社協だより」に美浜いきいきプラザの紹介・活動等の記事を載せ、積極的に広報・周知活動を行った。以降、地域と一緒にイベント等を行うことができるようになった。 ・地域の交流の場や福祉的な拠点となる「社協美浜いきいきプラザ」「高洲コミュニティセンター」「高浜公民館」を活用して他団体と連携しながらイベント・サロン・講座を開催した。 ・UR生活支援アドバイザーと美浜いきいきプラザと地域住民による脳年齢測定のイベントを実施した。	◎	・広報紙による広報・周知活動をきっかけに高洲高浜地区部会と美浜いきいきプラザが今後も一緒に活動できるようにし双方の交流を図っていきたい。 ・コロナの影響により閉じこもりにならないよう、住民を引っ張り出せるようなイベントを企画・実施していきたく、パラスポーツの「ボッチャ」を始めてみたい。 ・規模を縮小・短縮して4年ぶりの夏祭りを開催し、今後、本格的再開に向けた来年以降の第一段階としてコロナ後の新たな形として実施していきたい。 　敬老会についても、コロナ後に対応した形式で工夫しながら再開させたい。	・独居高齢者・高齢者夫婦世帯の方だけでなく若い世代の方たちもいるような集いの場をつくり、世代間交流が図れるようにしていきたい。 ・介護相談室併設型のコンビニ（ケアローソン）を活用したイベントを企画・実施していきたい。
	3　福祉を支える人づくり			・次の地域活動の担い手となるべく人材の発掘・養成を行うため、「ハッピーエンディングカード講座」等地域住民に興味を持ってもらえるような講座を企画して、なるべく多くの人たちが関心を持ち参加してもらえるような講座を開催した。	◎	・地区部会によるボランティア講座を実施し、新たな担い手の発掘と、住民にできるだけ外出の機会を提供することを目的として開催したい。	・地域活動の担い手発掘のため、幅広い世代に対して、イベント（地域行事）の参加をきっかけに地域活動参加への啓発等を促していきたい。

美浜区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和４年度）個票

【達成状況の目安】
◎：年度目標以上のものが達成できた場合
○：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合
×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
―：評価が困難である場合

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和4年度の目標又は予定	令和4年度の実績	達成状況	令和5年度の目標又は予定	今後の課題と方針
真砂地区部会エリア 令和４年３月３１日時点 【人口・世帯数】 25,342人　12,625世帯 【町内自治会数】 32町内自治会 【高齢化率】 32.0% 【地域の特徴】 北は国道14号に接し、花見川区及び稲毛区、一部は稲毛海岸に隣接し、花見川を挟んで西は若葉、草野水路を挟んで東は高洲地区に接する。南はJR京葉線の線路を挟んで磯辺に接する。 区の東西の中央に位置した拠点地区であり、JR京葉線検見川浜駅付近から北側一帯に行政機関・商業施設などが集積されている。美浜区役所のほか美浜保健福祉センター・文化ホールの複合施設、美浜消防署、真砂中央公園があるほか、千葉西警察署や西県税事務所などの県の機関も地区内に立地、駅周辺エリアには大型の商業施設や高層マンションが集まっている。	**1　住民主体による協働のまちづくり**	計画の継続性と新型コロナウイルス感染症拡大防止による活動自粛により実施できなかった事業・活動を補完していくため、第４期の計画を継続して取り組んでいく。	コロナウィルス感染拡大の状況を注視しながらも、「アフターコロナ」「ウィズコロナ」を見据えて、ガイドラインによる感染対策を遵守しながら地域活動再開の検討・準備・試行・実施を行う。	・真砂地区部会が主催する「ふれあい いきいきサロン」「ふれあい 子育てサロン」「ふれあい食事サービス」等、地域住民による交流の場・集いの場・見守りの場が順次再開されてきた。	○	・地域住民の交流の場である「ふれあい事業」をコロナ禍前のようにまで戻していきたい。 ・サロンメニューに健康体操やリハビリメニューを取り入れ、健康意識を高めてフレイル予防につなげていきたい。	・高齢者の交流の場となる「ふれあい いきいきサロン」「ふれあい食事サービス」等を充実・活発にし、単身の（寂しい）高齢者が孤独感・疎外感を感じることのないようにしていきたい。
	2　誰もが暮らしやすい環境づくり			・地域運営委員会が真砂地区の地域情報を一括してホームページで公開（提供）している。 ・真砂地区部会が発行している広報紙「真砂 ふれあいだより」により、身近で必要とされる地域情報を提供・発信している。 ・真砂地区部会が実施している「ささえあい まさご」は、コロナ禍においてもニーズに応え、継続的に実施してきた。 ・千葉西警察署と協働して、詐欺被害防止等の啓発活動を行ってきた。	○	・詐欺被害を防げるような、新しい知識・情報を提供できる勉強会を実施したい。	・地域住民の福祉の意識（支える⇄支えられる）を高め、街の価値を高めていきたい。 ・地域支え合い活動「ささえあい まさご」へ新規依頼者も増えてきていることから、様々なニーズに対応できるよう、新たな活動者（協力員・サポーター等担い手）の発掘や、すでに活動している方たちへの再研修等を行い、活動を継続させていきたい。 ・真砂地区は詐欺被害が多いため、さらなる対策が必要である。
	3　福祉を支える人づくり			・地区部会活動のPRや、次の地域活動の担い手となるべく人材発掘の機会として、美浜文化ホールで音楽と芸能のイベントを開催し、社協・地区部会・地域活動等についてPR活動を行った。	◎	・他団体との交流を行うことにより、地域福祉に関する知識・視野を広げていきたい。	・地区部会活動のPRを、イベント的な催物の開催により行うことで、多くの人たち・地域住民に活動の周知ができることから、今年度も音楽・芸能・や警察との共催による開催で検討・企画・実施し、社協会員会費の増加にもつなげていきたい。 ・地域活動従事者（ボランティア・協力者）が、活動にあたり達成感を感じられ、活動の士気・意欲が上がるようにすることで、新たな活動者の発掘をしていきたい。 ・特定の活動従事者に負担のかからないような仕組みを作り、活動の継続を図っていきたい。
磯辺地区部会エリア 令和４年３月３１日時点 【人口・世帯数】 18,994人　8,302世帯 【町内自治会数】 28町内自治会 【高齢化率】 35.2% 【地域の特徴】 JR京葉線検見川浜駅及び京葉線の線路の手前までで、西は花見川を挟んで打瀬に接し、東は草野水路を挟んで高浜に接する。 駅の南側周辺には中高層マンションや団地が建ちならび、UR都市機構の磯辺第一団地等の大規模な団地がある。その外側には、定住性の高い戸建の住宅地が海に向かって広がっており、中高層の団地・マンションなどが立ち並ぶ。海岸の手前には県立磯辺高校、県立千葉西高校があり、県救急医療センター、海浜病院などの公的機関が存在する。	**1　住民主体による協働のまちづくり**	計画の継続性と新型コロナウイルス感染症拡大防止による活動自粛により実施できなかった事業・活動を補完していくため、第４期の計画を継続して取り組んでいく。	コロナウィルス感染拡大の状況を注視しながらも、「アフターコロナ」「ウィズコロナ」を見据えて、ガイドラインによる感染対策を遵守しながら地域活動再開の検討・準備・試行・実施を行う。	・見守り活動は、５自治会で実施。地区部会から5千円の支援を行っている。 ・磯辺地区部会が主催する「ふれあい いきいきサロン」「ふれあい 子育てサロン」「ふれあい食事サービス」事業については、コロナの感染拡大状況に配慮し、開催は見合わせ、再開に向けた検討・準備行ってきた。 ・スポーツ振興会による、ソフトボール大会やバドミントン大会を開催した。 ・コミュニティづくり懇談会による、遺言と相続に関する講演会を地域住民である司法書士を講師に招いて開催した。	○	・見守り活動は、４自治会で実施予定。 ・「ふれあい事業」を中心とした地区部会活動を徐々に再開（リ・スタート）させていきたい。 ・地区内の地域ルームを活用して、フリーな交流・集いの場として「サロン」を開設させ、出入り自由なお茶飲み場・おしゃべりの場を開設・提供していくと同時に、見守りとしての機能も果たしてきたい。	・磯辺地区（33地区連協）で自治会単位で実施されている「見守り活動」について、実施を検討している未実施の自治会に対して、実施に向けた啓発・説明を行っていきたい。 ・各自治会の自治会館を活用して、フリーな交流・集いの場として「ミニサロン」を開設させ、気軽に出入りできるお茶飲み場・おしゃべりの場を開設・提供していくと同時に、見守りとしての機能も果たしてきたい。
	2　誰もが暮らしやすい環境づくり			・磯辺地区（33地区連協）では、地域支え合い活動を28自治会中10自治会が自治会単位で実施。地区内の高齢化が進みつつある中、コロナ禍においても感染対策に留意しながらゴミ出し等地域住民の福祉的ニーズに応えて実施してきた。 ・月に一回の定例の自治会長会議で、伝達・情報交換を行うことにより、自治会員（住民）に行政・地域の情報を浸透させていった。 ・広報紙「いそべ」を発行し、地区内の活動諸団体の情報を集約して提供している。 ・地区内の地域ルームや町内自治会集会所を拠点としてコロナ感染対策を取りながら百歳体操等の健康体操を実施している。	○	・地域の拠点となっている地域ルームの備品・設備等を充実させ清掃を行うことにより、地域住民の方たちが気持ちよく利用できるようにすることで、社協会員会費に協力いただいた方たちに地区部会活動がコロナ禍により停滞していた分を還元できるようにしていきたい。 ・磯辺地区の「地域支え合い活動」における、支え合いコーディネーター会議を再開させたい。 ・地区内の町内自治会を中心とした様々な「祭り」を再開させ、異年齢・多世代・世代間交流を活発化させていきたい。	・磯辺地区（33地区連協）で自治会単位で実施されている「地域支え合い活動」について、民生委員が現状ゴミ出しを行っている自治会や実施を検討している未実施の自治会に対して、実施に向けた啓発・説明を行っていきたい。 　また、自治会内で「支え合い活動」が実施される場合、自治会組織内での位置づけを一部門・下部組織等明確にし、活動を継続化できるようにしていきたい。
	3　福祉を支える人づくり			・次の地域活動の担い手となるべく人材の発掘・養成を行うことは、コロナの影響もあり、ボランティア講座等の開催・声かけ等が思うようにできなかった。	△	・磯辺地区部会が主催する地区部会活動の担い手人材の発掘・養成を目的とした「ボランティア講座」を開催したい。 　また、声かけ・口コミ等による開拓もしてみたい。	・磯辺地区部会と33地区連協の共催で、地域支え合い活動の実践者による話を未実施地区の自治会の方を対象に講演会を開催したい。 ・様々な地域団体が地域活動をしているところをツアー的に参加・体験・手伝いをしてもらうところから、活動の担い手を発掘・引き込んでいきたい。 ・社協 地区部会の活動者（担い手）を確保できるような、企画・方法を模索していかなくてはならない。 　時間と体力・活動力のある60歳代にターゲットを絞って、地区部会活動に引き込んでいきたい。

美浜区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和４年度）個票

【達成状況の目安】
◎：年度目標以上のものが達成できた場合
○：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合
×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
―：評価が困難である場合

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和4年度の目標又は予定	令和4年度の実績	達成状況	令和5年度の目標又は予定	今後の課題と方針
幕張西地区部会エリア 令和4年3月31日時点 【人口・世帯数】 11,896人　4,855世帯 【町内自治会数】 15町内自治会 【高齢化率】 20.7% 【地域の特徴】 区の北西端に位置した国道14号と東関東自動車道との間に広がる住宅地域。 浜田川を挟んで東側は花見川区幕張町、国道14号を挟んで北側は花見川区幕張本郷、西側は習志野市、南側は浜田に接している。 国道沿いにはゴルフ練習施設のほか、商業店舗が立ち並んでいるほかは、戸建て住宅地域が広がっている。 国道14号より海側はかつての海岸線であるが、幕張西地区よりも埋め立ての時期が早かった地域については花見川区幕張町に編入されている。	**1　住民主体による協働のまちづくり**	計画の継続性と新型コロナウイルス感染症拡大防止による活動自粛により実施できなかった事業・活動を補完していくため、第4期の計画を継続して取り組んでいく。	コロナウィルス感染拡大の状況を注視しながらも、「アフターコロナ」「ウィズコロナ」を見据えて、ガイドラインによる感染対策を遵守しながら地域活動再開の検討・準備・試行・実施を行う。	・幕張西地区部会エリア（30地区連協）内15自治会の内、13自治会が、見守り活動を実施した。 毎年、年1回の見守りコーディネーター定例会を開催し、各町内自治会との情報共有を図っている。 見守り活動から発展して地域支え合い活動を実施させている自治会も出始めてきている。 ・「ふれあい いきいきサロン」「ふれあい 子育てサロン」については、コロナの感染拡大状況を見ながらも再開させた。	◎	・研修バス旅行を再開させたい。 ・「ふれあい食事サービス」を再開させたい。 ・育成委員会による小学生を対象とした「水ようかんづくり」を開催し、食育の啓発や世代間交流を行っていきたい。	・幕張西地区部会エリア（30地区連協）内15自治会の内、見守り活動が立ち上げられていない2自治会に対して、引き続き見守り活動の実施について働きかけていきたい。 ・「ふれあい食事サービス」の調理ボランティアが、高齢化等によりほぼいなくなってしまっているため、再開させるには調理ボランティアの発掘から始めていく必要がある。
	2　誰もが暮らしやすい環境づくり			・30地区連協が主催する「夏祭り」を3年ぶりに開催した。 ・幕張西地区に一昨年開業したイオンタウン内のウエルシア薬局のカフェスペースに幕張西地区部会が主催する2つ目のふれあい いきいきサロン「いきいきマルシェ」が本格的に開催し、買い物ついで等で気軽に立ち寄れるようなサロンができ、サロンメニューを検討しながら開催している。 ・地区の拠点となっている幕張西公民館と共催で、三味線演奏の発表会を開催した。	◎	・幕張西地区部会が主催するふれあい いきいきサロン「いきいきマルシェ」のサロンメニューの検討を行い、サロンを活性化させていきたい。 ・幕張西地区部会が発行する広報紙「YOU＆I（ゆーあい）」の紙面をさらに充実させて地域情報の発信を図っていきたい。	・昨年3年ぶりに再開させた30地区連協が主催する「夏祭り」を今年度も開催させ、地域住民の交流の場・親睦の場・地域づくりの場となるようしていきたい。
	3　福祉を支える人づくり			・地区部会主催でボランティア講座を開催し、地区部会活動や地域のボランティア活動についての理解を深めた。	◎	・行事（公演会）の開催、声かけ（ロコミ）や広報紙を通じて地域活動の担い手を発掘していきたい。	・地域活動の担い手不足は現実的な問題となっており、活動継続のためにも新たな人材を発掘していきたい。
打瀬地区部会エリア 令和4年3月31日時点 【人口・世帯数】 24,936人　9,220世帯 【町内自治会数】 24町内自治会 【高齢化率】 10.8% 【地域の特徴】 東側は花見川、西側・南側は幕張海浜公園、北側はJR京葉線の線路に囲まれた幕張新都心地区の高層マンション地区。 他の幕張新都心地区と同様に県企業庁により計画的に整備され、沿道中庭式の中層住宅を中心に、石畳風の道路舗装やデザインされた信号機などヨーロッパ風の街並み景観で統一されている。 中心部には図書館と公民館の複合施設である「ベイタウンコア」があり、各種活動の中心となっているほか、プロムナードやバレンタイン通り沿いの住戸を中心に1階には幕張ベイタウン商店街振興組合の店舗が軒を連ねている。 平成24年にはシーサイドデッキが完成し、海沿いの幕張海浜公園・幕張の浜エリアへの動線が確保され、海がより近い存在となった。	**1　住民主体による協働のまちづくり**	計画の継続性と新型コロナウイルス感染症拡大防止による活動自粛により実施できなかった事業・活動を補完していくため、第4期の計画を継続して取り組んでいく。	コロナウィルス感染拡大の状況を注視しながらも、「アフターコロナ」「ウィズコロナ」を見据えて、ガイドラインによる感染対策を遵守しながら地域活動再開の検討・準備・試行・実施を行う。	・打瀬地区部会が主催する「ふれあい いきいきサロン」「ふれあい 子育てサロン」「ふれあい 散歩クラブ」等の事業は、コロナ感染状況を注視し、感染対策を取りながら活動を行った。 ・打瀬地区部会では、コロナ禍により約2年間様々な活動を自粛せざるを得ない状況であったが、コロナの感染拡大が落ち着きを見せてきた頃から、コロナ後（アフターコロナ）の活動のあり方や再開にあたっての工夫等について検討を行ったうえで、認知症カフェ「そよかぜの会」の再開、認知症に関する理解を深めるためのバーチャルリアリティーによる「VR認知症体験」を打瀬公民館と共催で第2回目を実施した。 ・育成委員会による、夜間パトロールを実施。 ・ベイタウン内の空き店舗を活用して、「コミュニティスペース 絆」が認知症の不安を抱える家族に対しての相談の場を設け、支援を行っている。	○	・打瀬地区部会では、コロナ禍により活動自粛（中断）せざるを得なかった「ふれ食・バス旅行・おやこカフェ」等の事業を、より魅力的な企画・工夫をしてコロナ後（アフターコロナ）に見合った活動としてなるべく早期に再開（リ スタート）させたい。 ・5月に「ベイタウンまつり」を開催。家族の輪・地域住民の輪づくりやフレイル予防等、子どもから高齢者までが街に出てきてもらうことを目的として4年ぶりに実施。延べ2万人位の人が集まった。今後も、商店会や育成委員会と協働して夏祭り・盆踊り・ハロウィンイベント等を実施していきたい。	・各種団体・組織による事業において、地域のニーズ（要望）に応じながら各事業を継続させていき、根付かせ、一定期間（3年程度）を過ぎたところで振り返り、評価していくというルーティーン（流れ・仕組み）が必要である。
	2　誰もが暮らしやすい環境づくり			・打瀬地区部会では、バーチャルリアリティーによる「VR発達障害体験会」を打瀬公民館と共催で実施。新たな視点として「発達障害」に焦点を当てて発達障害者特有の感覚を疑似体験することで障害を理解しより良い支援へとつなげていく足掛かりとなった。 ・地域住民の移動支援の取組みとして、「グリーンスローモビリティ」の実証実験が行われ、街のにぎわいが高まるよう地域全体で支援し、運用実現に期待を寄せている。 ・学校（児童・教職員）と自治会（保護者）が中心となって「子ども円卓会議」を実施。5・6年生児童が「あいさつ運動」を実施した。 ・民生委員による高齢者実態調査が実施され「安心カード」の利用が増えてきている。 ・住民の交流の場として、「朝市」を2ヶ月に1度開催している。	◎	・打瀬地区部会が実施する「VR発達障害体験会」や認知症に関する映画の上映会を、引き続き実施していくことにより障害に対する理解をさらに深め、障害者やその家族に対する支援へと発展させていけるようにしていきたい。 ・「グリーンスローモビリティ」の実用化に向けた勉強会を実施し、街のにぎわいや街全体の認知度が高まるよう検討していきたい。 ・「子ども円卓会議」で実施している「あいさつ運動」を今後、校内から街なかでの実施にまで広げていきたい。 ・ベイタウン内を子どもたちが街歩きしながらゴミを拾い集める「ベイタウン クリーン作戦」を実施し、今後、子どもだけでなく大人（保護者・地域住民）にも参加してもらえるようにしていきたい。	・子ども−親（大人）−高齢者を交流（連携）させた活動を展開させていくことで世代間交流を図っていきたい。（将棋サロンの拡充・俳句(川柳)を介した交流等） ・淑徳大学・東都大学等大学との連携を企画し、若者（学生）と高齢者との双方向の交流を進めていきたい。 ・ラジオ体操をさらに浸透・広めさせ、子どもから高齢者までが同じ場に集うことで、交流が図れるようにしていきたい。 ・街区（自治会）や民生委員の協力・連携により、見守り活動の実施や、「安心カード」の普及に努めていきたい。
	3　福祉を支える人づくり			・打瀬地区部会と打瀬公民館と主催で、打瀬地区の近隣にある東都大学の協力を得て、「ボランティア講座」、美浜いきいきプラザの協力による「第2回 健康フェスティバル」を開催し、健康に関する講話・健康測定の補助を行っていただき、地域での協働の連携を強化し、活動の輪を広げることができた。 ・地域運営委員会が企画・調整を行い、地区内の打瀬中学校において1年生を対象にエキサイティング（EX）講座を開催。打瀬地区部会協力による高齢者疑似体験や警察・弁護士による講演会を行った。	○	・打瀬地区部会では、今年度も引き続き地域活動担い手の発掘・養成を目的とした「ボランティア講座」を実施。地域住民の興味が湧くような・ニーズに応えた講座を開催していきたい。	・地域住民が興味を持ってもらえるような企画のイベントを地区内各種団体・組織と連携して実施したい。実施により参加した住民が主催者側に関心を持ってもらうことにより「人づくり・担い手の発掘」につなげていきたい。また、地域づくり・地域福祉に関心を持ってもらい、世代を超えてお互いが気軽に声を掛けあえる・手を差し伸べられるような環境を作っていきたい。